

支援を組み立てるための基本

- ・ 強度行動障害の支援に必要な知識

本題に入る前に・・・

- 強度行動障害支援者養成研修（以下、強行研修）
改定のポイント（2020年4月～）
- 強行研修（実践研修）で学ぶこと

改定のポイント

- 継続点 1 カリキュラムを行動援護従業者養成研修と分けない
- 継続点 2 基礎・実践研修併せて24時間のプログラム
- 継続点 3 初心者でも理解できる内容（特に基礎研修）

- 変更点 1 カリキュラムの大項目ごとの時間配分※
- 変更点 2 カリキュラムの中・小項目※
- 変更点 3 ストーリー性を重視したプログラム構成

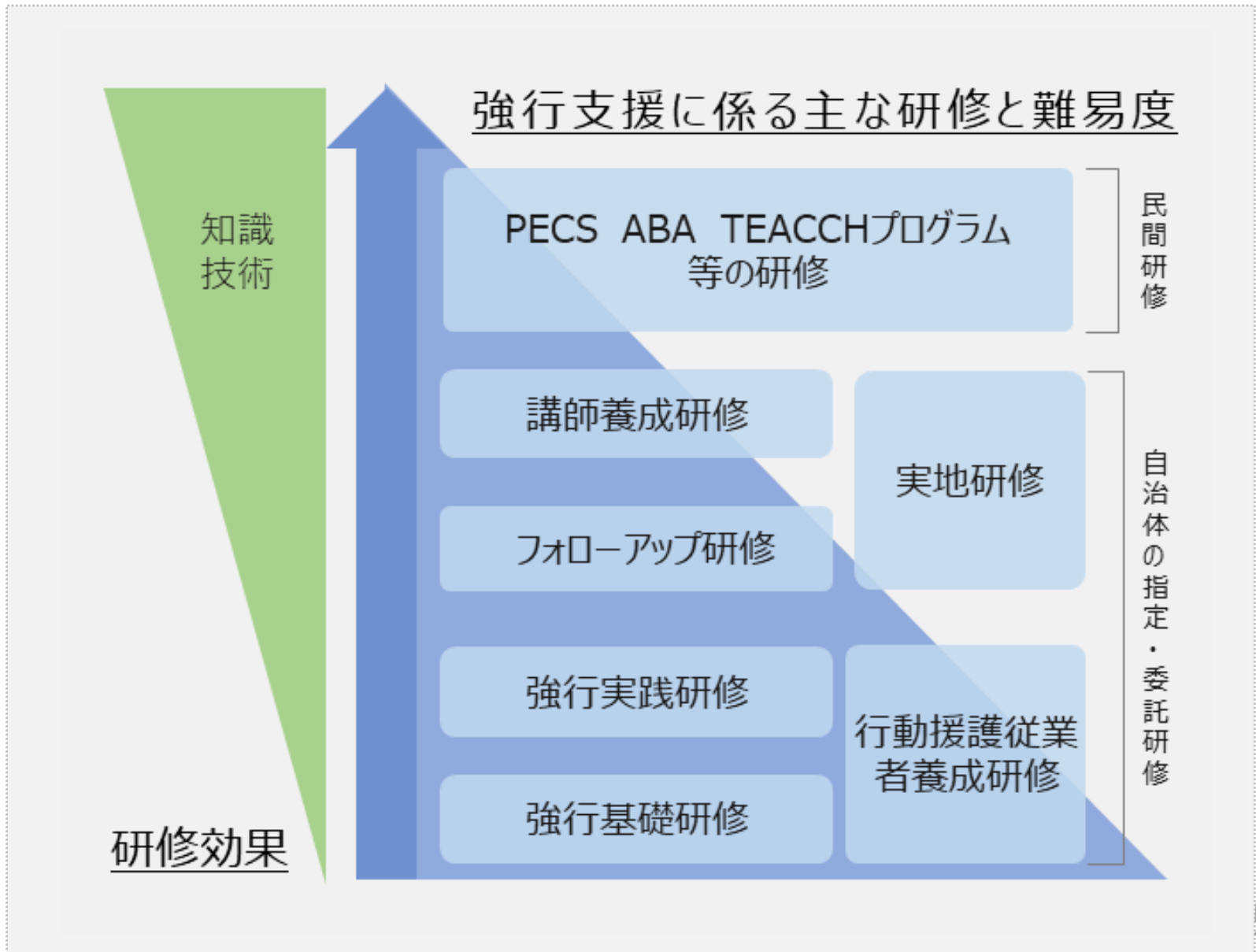


次ページスライド参照

研修のストーリー & 到達点

ストーリー	基礎研修	実践研修
Step 1	強度行動障害について基本的なことを知る	支援を組み立てるための基本的な流れの確認
Step 2	アセスメントに基づいた（情報を収集し、解決すべき課題を整理した上での）個別支援の大切さを理解する	アセスメントの具体的な方法を学ぶ
Step 3	支援の具体的な方法を知る	支援手順書の作成方法を学ぶ
Step 4	チームプレイの重要性を理解する	記録の方法と支援手順書の修正方法を学ぶ
Step 5	適切な支援を続けていくための知識を得る	組織として取り組むことの重要性を学ぶ
到達点	計画された支援の根拠を理解し、決められた手順通りに支援をすることができる。	チームの動きをイメージし、支援の手順を考え文章化する。また、支援結果に合わせ、支援及び手順の修正をすることができる。

強度行動障害が現れている人への支援スキル 修得のためのステップで見る本研修の位置づけ



この時間で学ぶこと

- 基礎研修で学んだことを振り返ります。
- 支援を組み立てるための基本的な流れを把握します。
- 実践研修の進み方と演習の構成を確認します。

この時間の流れ①

講義

 動画視聴

①強度行動障害の理解

- ・ 支援の基本的な考え方
- ・ 強度行動障害の状態
- ・ 強度行動障害が起きる理由

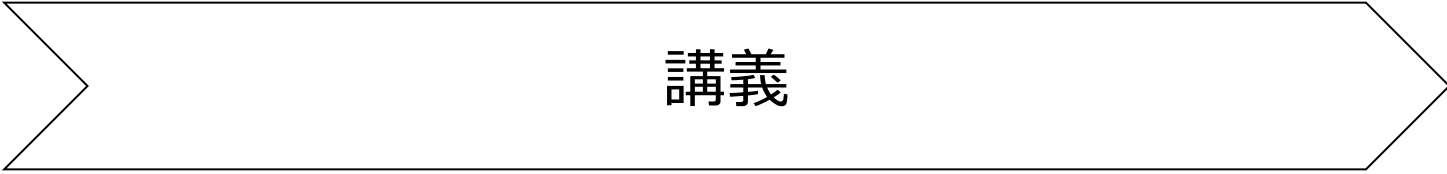
②強度行動障害の理解

- ・ 障害特性の理解

③支援のアイデア

- ・ 障害特性に基づいた支援

この時間の流れ②



講義

④基本的な情報収集

- ・行動を見る視点

⑤特性の分析

- ・特性の把握と適切な対応

⑥チームプレイの基本

- ・チームプレイの必要性

⑦支援を組み立てるための基本

⑧実践研修の進み方と演習の構成

①強度行動障害の理解

- ・ 支援の基本的な考え方

支援とは

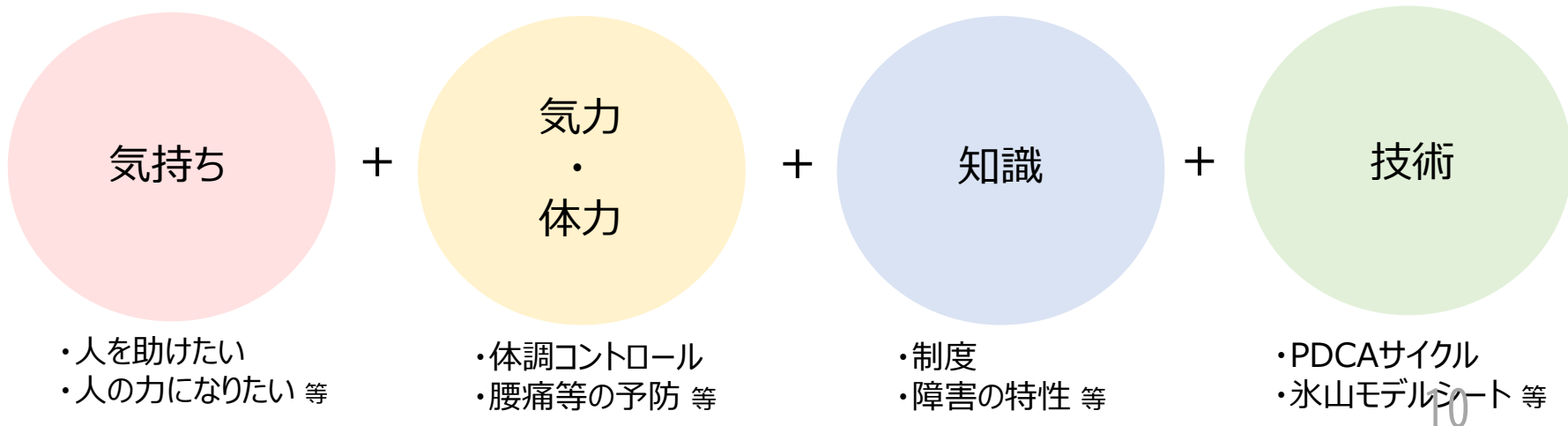
他人を支えたすけること

労力や金銭などの面で、その活動や事業を助ける意を表す



出典：三省堂大辞林第三版

支援の専門家が、支援を提供する際に必要なもの



基礎的な支援の流れ



よりよい支援の流れをつくるためのポイント



2 情報整理時、**ICF**を活用する



2 情報分析時、**冰山モデルシート**を活用する



チームで支援の手順を統一するために、**支援手順書を作成・共有**する



11項目におよぶ支援の流れは、大きく下記の4つに分けることができる。

- 1～6 = 計画 (Plan)
- 7・8 = 実践 (Do)
- 9・10 = 評価 (Check)
- 11 = 改善 (Action)

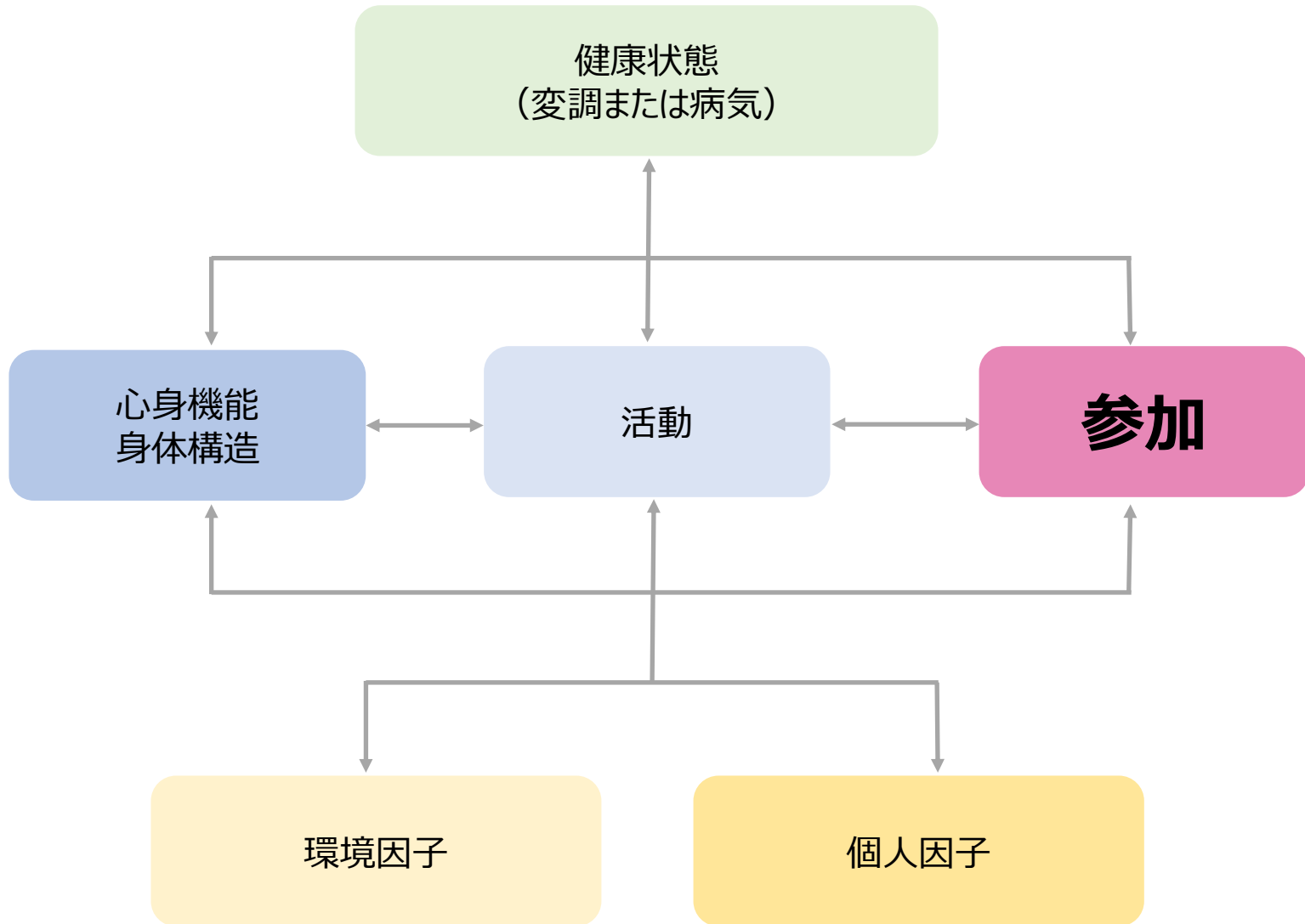
⇒これを「**PDCAサイクル**」といいます

業務を継続的に改善していく手法。品質管理の国際基準であるISO9001や、ISO14001などにも考え方が採用されている。

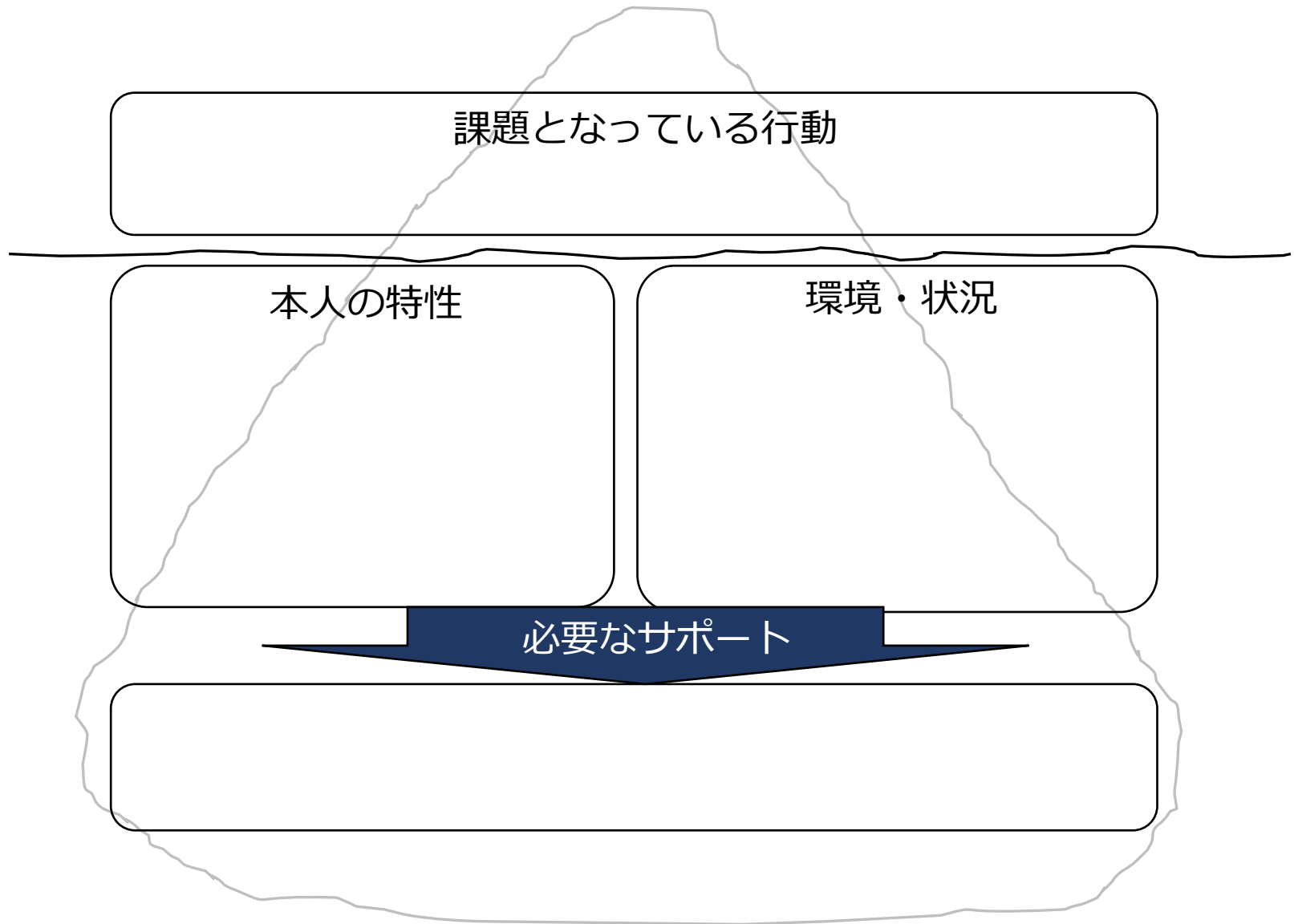
よりよい人生へと向かう

ICF（国際生活機能分類）とは

- ▶ International Classification of Functioning, Disability and Health 2001年5月 WHO総会で採択
- ▶ ■人間全体を見る ■個別性をとらえる ■サービスの効果を全体的にとらえる ものとして使われている



これが「冰山モデルシート」です



これが「支援手順書（例）」です

支援手順書/記録用紙

日付け	20〇〇年〇月×日	氏名	Tさん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
事前準備		スケジュールに活動カードをセット。 お茶をカバンに入れる。			
スケジュール確認	出発前に支援者と一緒にスケジュール確認	Tさんに見えるようにスケジュールを示し、活動カードを1つ1つ指差しして予定を最後まで確認する。 最後まで確認できたらカバンを渡して出発するように促す。			
散歩	公園に向かって歩く	Tさんの横を歩き、通行人や車をぶつからない様に注意する。 ぶつかりそうな時はTさんの前に出てジェスチャーで止まる様に促す。 公園に近づくと走り出すことがあるので、横断歩道の前で本人の前に出て身体の前には手を出すジェスチャーで止まる様に促し、支援者が安全確認する。			
公園	公園の入り口でスケジュール確認 ブランコで遊ぶ お茶を飲む	公園の入り口でスケジュール確認(活動カードを外す)。 ブランコに移動、本人が満足するまで遊んでもらう。 満足して動き出したら、次のスケジュールを示しベンチに移動。 ベンチでスケジュール確認(活動カードを外す)、お茶を飲む。 終わったら次の活動を伝える。 * Tさんが水遊びを始めた時は、タイマーを3分にセットし、Tさんに見える様にセットし、「3分でおしまい」と声かけ。 タイマーがなったらTさんが水道を止めるので、次の活動を促す。			
外食	飲食店に行き食事をする	お店の前で走り出すことがあるので、本人の前に出てジェスチャーで止まってもらい支援者が安全確認。 店前でスケジュール確認(活動カードを外す)。 メニュー表を見せると、食べたいものを指差すので、支援者が注文、購入する。 食事は見守りする。 食べ終わったら次の予定を伝える。			
帰宅	自宅に戻る	スケジュール確認(活動カードを外す)。 家族にTさんの様子を伝える。			

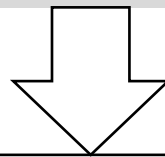
- * スケジュール確認の手順
 - ・スケジュールカードを指差し、次の活動を単語で伝える
 - ・活動場所に着くとカードを外しポケットに入れる
 - ・次の活動を伝える際はスケジュールカードを指差し、単語で伝える
- * 本人と関わる際の留意点
 - ・声かけは最小限にする(声かけが多くなると混乱しやすいため)
 - ・公園やお店の近くでは目的に向かって急に走り出すことあり
 - ・事前にジェスチャーで止まる様に促し支援者が安全確認する

①強度行動障害の理解

- ・強度行動障害の状態

「強度行動障害」とは

自傷、他傷、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態を意味する用語



- × もともとの障害
- その人の状態のこと

①強度行動障害の理解

- ・強度行動障害が起きる理由

障害からくる苦手さを持つ人たちは、困っています。

障害からくる苦手さ

先の予測をすることが難しい

見えないものの理解が難しい

話し言葉の理解が難しい

抽象的であいまいな表現の理解が難しい

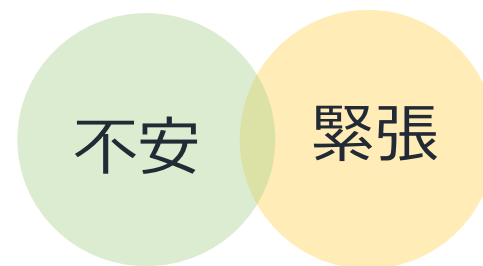
話し言葉で伝えることが難しい

やりとりの量が多いと処理が難しい

少しの違いで大きな不安を感じる

聴覚の過敏や鈍麻がある

⋮



不安や緊張から

逃れたい

不安や緊張を

伝えたい

不安や緊張に

気づいてほしい

でも方法がわからない



気持ちを **行動** で表す

19



- そのまま、障害からくる苦手さが解消されないと、さらに、激しい行動をとることがあります。



- また、適切な行動を教えてもらう機会がなかったり
- 自分の気持ちを伝えるために激しい行動を取った時、周囲がその行動を止めるために本人が望むままの対応を繰り返していると、「激しい行動をすることで自分の気持ちが伝わる」と理解し、激しい行動が定着してしまうこともあります。

このように、

- ☑ 適切な行動を教えられていない
- ☑ 周囲が誤った対応を繰り返す



行動が激しくなっていく

= 「強度行動障害の状態」

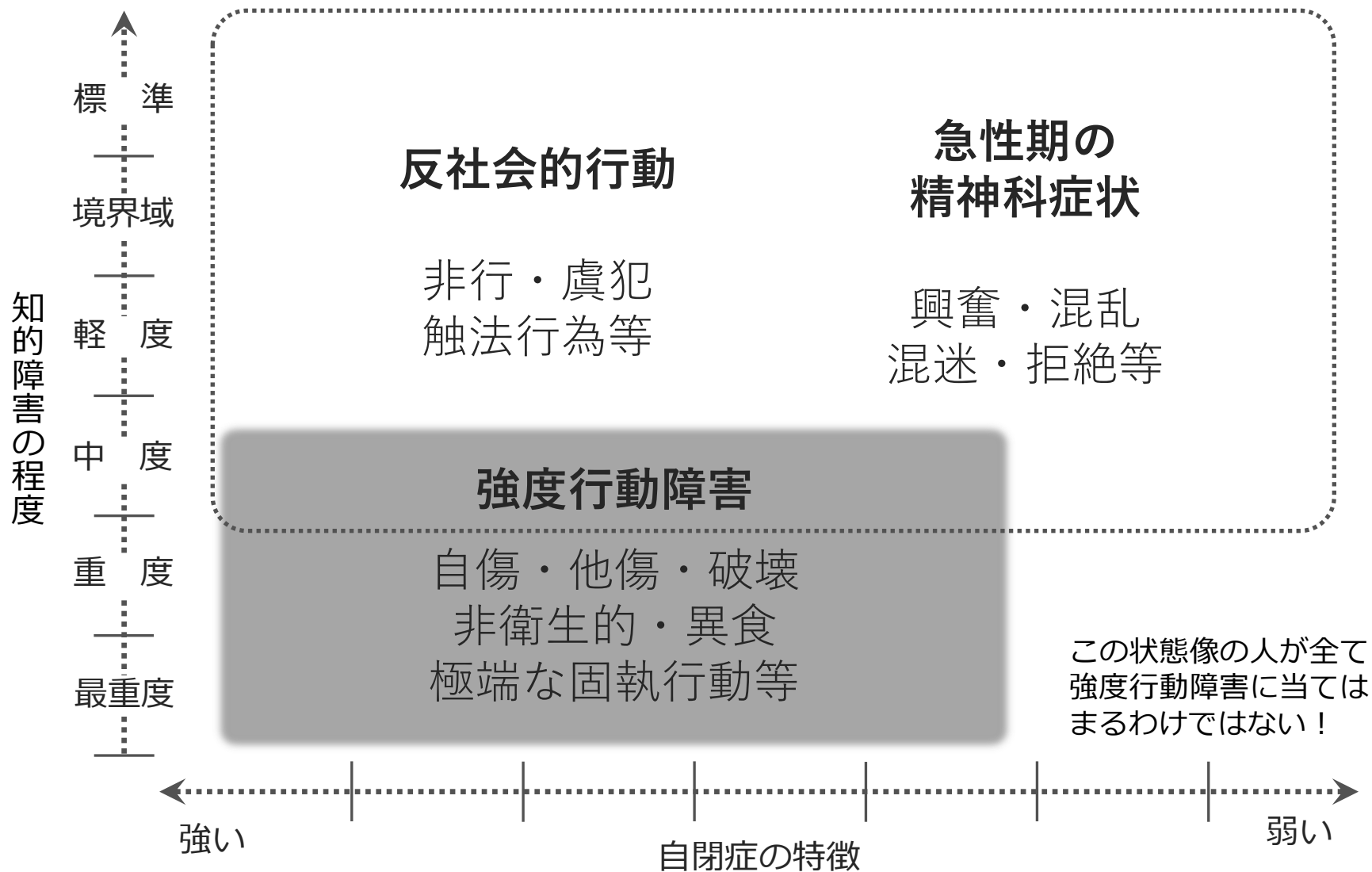
といわれます。

②強度行動障害の理解

- ・ 障害特性の理解

なぜ自閉症の特性を学ぶのか

強度行動障害になりやすいのは



強度行動障害と自閉症の関連性が高いと言われて
います。

したがって、強度行動障害への支援を学ぶため
には、まず自閉症のことを知ることが大切です。

強度行動障害に関する調査結果①

岡山県が実施した2019年度 強度行動障害に関する
実態調査報告書より

- 療育手帳所持者の2%が強度行動障害
 - ちなみに、強度行動障害リーフレット（平成25年度厚生労働省）によれば、推計値として、強度行動障害得点10点以上の人が療育手帳所持者の概ね1%程度（全国で約8000人）あるとしている。

強度行動障害に関する調査結果②

岡山県が実施した2019年度 強度行動障害に関する
実態調査報告書より

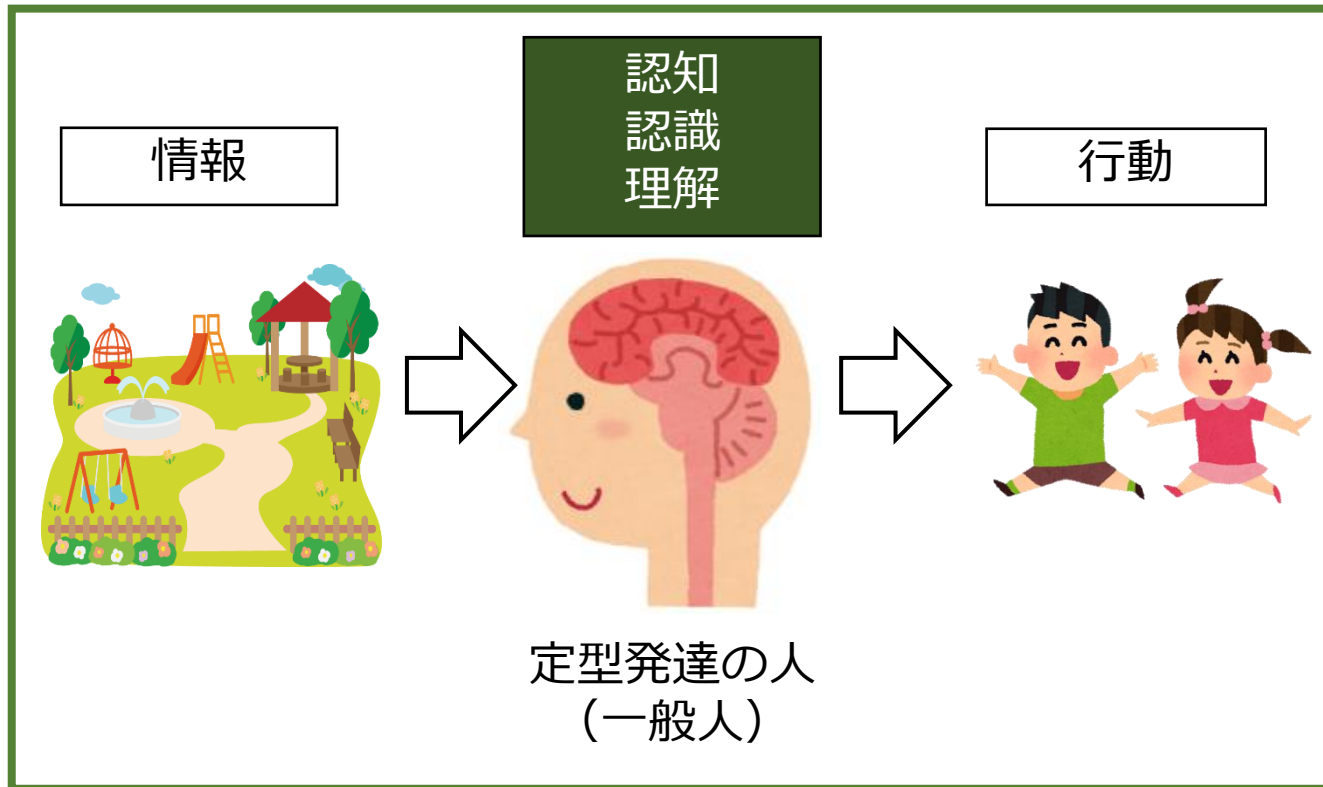
- 知的障害あり（96.6%）、自閉症あり（52.6%）
- 知的障害と自閉症を併せ持つ人は50.8%
→強度行動障害リーフレット（平成25年度厚生労働省）には「強度行動障害になりやすいのは、重度・最重度の知的障害があったり、自閉症の特徴が強い『コミュニケーションが苦手な人』です」という記載がある。
- 強度行動障害がある人を支援している機関は、
障害者支援施設：77.1%、生活介護事業所：50.0%
就労継続支援 B 型事業所：4.2%、
支援学校：33.3%、精神科医療機関：44.4%

自閉症について

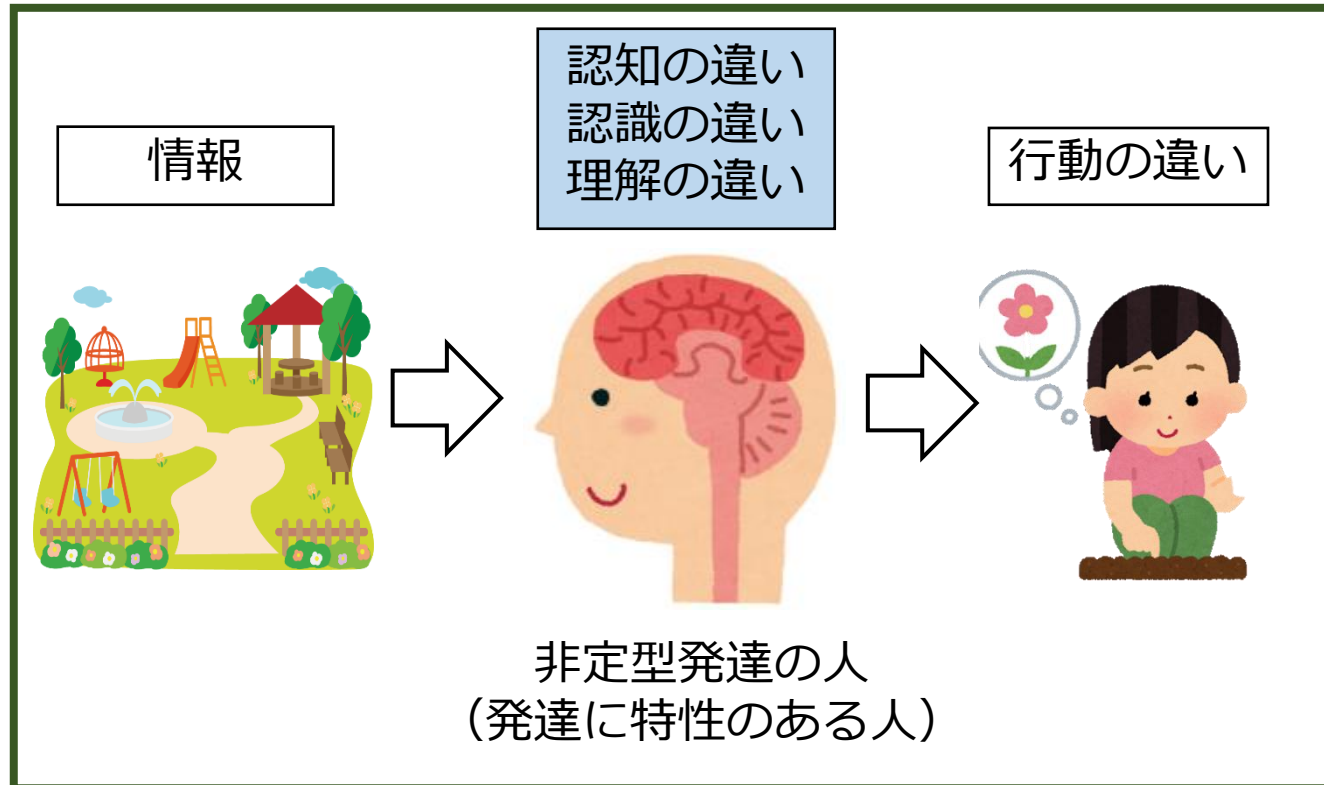
- 現在、自閉症のことを正式には「自閉スペクトラム症」もしくは「自閉症スペクトラム障害」と呼びます。いろいろなタイプがいて、境目のない連続体として広がっているという考え方です。
- 自閉症は、社会性やコミュニケーションの困難、想像力（目の前にないことをイメージすること）の困難が診断基準となり、感覚の特異性も診断の際に考慮されます。



人は情報を脳で処理をして行動をしている。



自閉症は脳の機能的な障害



自閉症の特性を整理する

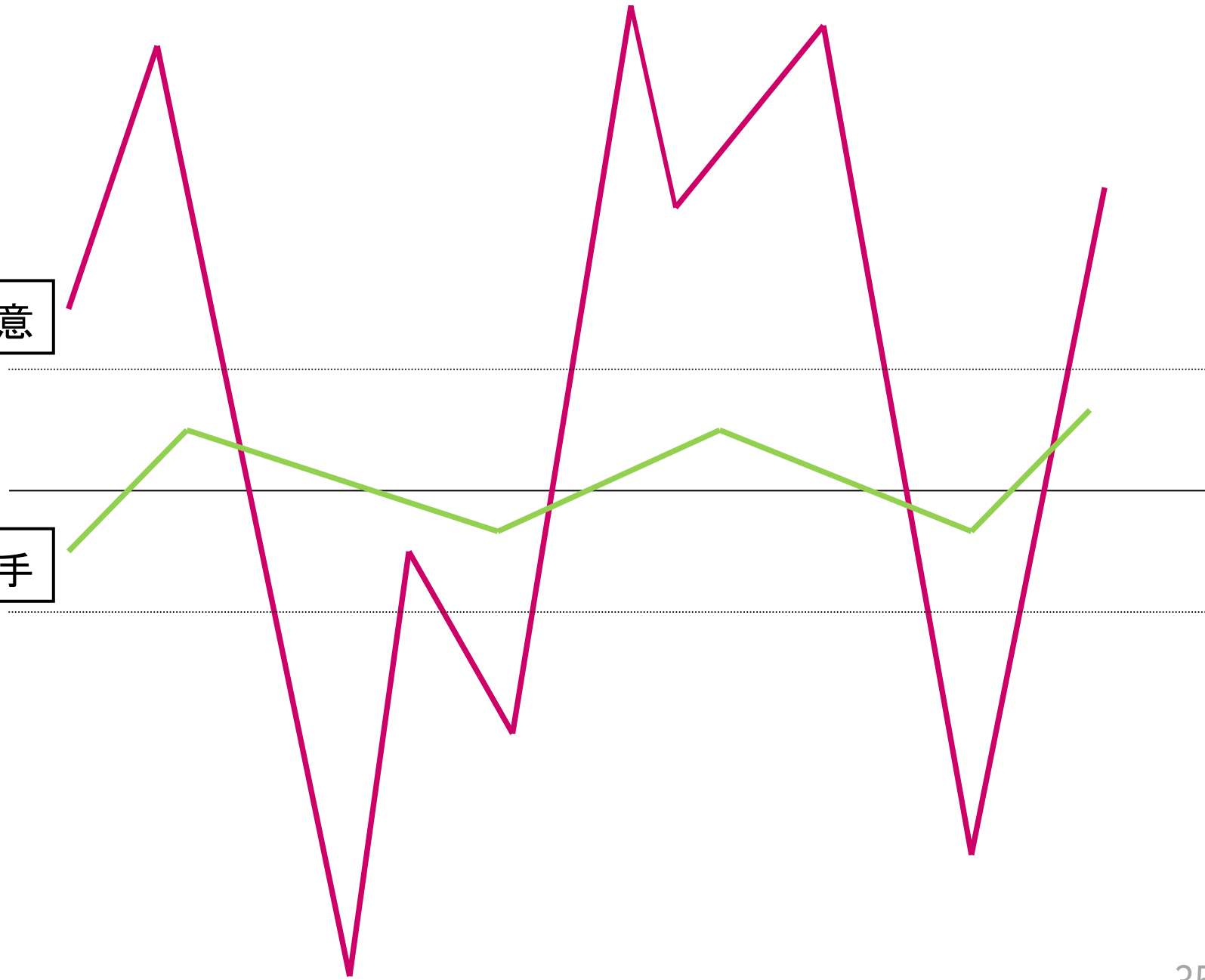
なぜ、自閉症の特性を整理するのか

- 自閉症の人たちは社会では少数派です。その物事のとらえ方は、多くの人たちとは異なります。自閉症の人たちがどのような物事のとらえ方をしているのかは、特性を把握し整理することで見えてきます。

- 特性は、「強み」と「弱み」と言い換えることもできます。「強み」は支援に生かすもので、「弱み」は支援者が配慮するところと言えます。それゆえ、特性の把握においては「強み」と「弱み」の両面を整理しておくことが重要です。

得意

苦手



- 自閉症の人たちの物事のとらえ方に合わせた支援をすることで、自閉症の人たちは適切に学ぶことができ、強度行動障害という状況に陥ることなく、よりよい生活を送ることができます。
- 私たちは、自閉症の人たちの特性を常に学び、支援の基盤に置く必要があるのです。

ここでは、自閉症の特性を次のように整理しています。

- 社会性の特性
- コミュニケーションの特性
- 想像力の特性
- 感覚の特性

視点① 社会性の特性

【人や集団との関わりに難しさがある】

- ・ 相手への関心が薄い
- ・ 相手から期待されていることを理解することが難しい
- ・ 相手が見ているものを見て、相手の考えを察することが難しい

【状況の理解が難しい】

- ・ 周囲で起こっていることへの関心が薄い
- ・ 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい
- ・ 見えないものの理解が難しい

☆自分がすべきことが明確であれば、集団への適応が増す。

視点② コミュニケーションの特性

【理解が難しい】

- ・話し言葉の理解が難しい
- ・一度にたくさんのかを理解するのが難しい
- ・抽象的であいまいな表現の理解が難しい

【発信が難しい】

- ・話し言葉で伝えることが難しい
- ・どのようにして伝えたらいいか分からない
- ・誰に伝えていいか分からない

視点② コミュニケーションの特性

【やりとりが難しい】

- ・ 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい
- ・ 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい
- ・ やりとりの量が多いと処理が難しい

☆話し言葉だけではない、たとえば目に見えるツールを活用することで、伝達度が増す。

視点③ 想像力の特徴

※想像力：目の前にないことをイメージする力

【自分で予定を立てることが難しい】

- ・ 段取りを適切に組むことが難しい
- ・ なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい
- ・ 今やることを自分で判断することが難しい

【変化への対応が難しい】

- ・ 先の予測をすることが難しい
- ・ 臨機応変に判断することが難しい
- ・ 自分のやり方から抜け出すことが難しい

視点③ 想像力の特徴

【物の一部に対する強い興味】

- ・興味・関心が狭くて強い
- ・細部が気になり違いに敏感
- ・少しの違いで大きな不安を感じる

☆目の前に存在する視覚情報があるとわかりやすさが増す。

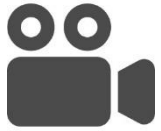
☆自分が興味・関心のある対象への思いが強みになることも多い。

視点④ 感覚の特性

【感覚が過敏または鈍感】

- ・聴覚の過敏や鈍麻がある
- ・視覚の過敏や鈍麻がある
- ・触覚の過敏や鈍麻がある
- ・嗅覚の過敏や鈍麻がある
- ・味覚の過敏や鈍麻がある
- ・前庭覚の特有の感覚がある

☆感覚に関する反応が、心身の状況や調子のバロメーターとなることも多い。



ここで動画を見ましょう

学びと肯定的理解の重要性

- 「理解に始まって理解に終わる」のが支援なので、わかったつもりにならないことが大切です。
- 基礎基本の学びをおろそかにせず、基礎基本にいつも立ち返ることはとても重要です。

苦手なことには配慮し、得意なことは活かすのが支援の基本です。

繰り返しになりますが、得意なことを把握することはとても大切です（苦手とされていることも「ここまではできる」という見方もできるし、視点を変えれば「強み」になることもあるはずです）。

③ 支援のアイデア

- ・ 障害特性に基づいた支援

目で見えてわかる支援が基本

目で見えてわかる支援をするのはなぜか？

- 自閉症の人は目に見えないことの意味を理解したり思いを伝えたりすることに苦手さがあるから
- 複数の情報を処理することに苦手さがあるから
- 雑多な環境の中から必要な情報に目を向けることに苦手さがあるから

目で見えてわかる支援をするために

- わかりにくい情報や生きにくい環境で暮らしている人たち。一人一人にわかりやすい形で届けたり整理したりする必要がある
 - = その人に合わせた支援
 - = 合理的配慮

支援のポイントは
どこにあるか

確実に伝えたい6つの情報

- 「いつ」
- 「どこで」
- 「何を」
- 「どのくらい」
- 「どうやって」
- 「次は」

6つの情報を確実に伝えるための5つの工夫

- 時間の工夫（生活の見通し）
- 場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）
- 方法の工夫（やり方・終わり・次）
- 見え方の工夫（ヒント・着目）
- やりとりの工夫（コミュニケーションツール）

時間の工夫（生活の見通し）

- どんな流れで生活するのかという理解を助ける。
- 言われるがまま（または好き放題）ではなく、自分で適切に情報をキャッチし行動できることを大事にする。

場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）

- この場所では何をするのかという理解を助ける。
 - 整理整頓は基本中の基本
 - エリア（境界）を明確に
 - 場所と活動とが1対1対応できれば理想だが…
- 苦手な刺激を少なくするための配慮をする。

方法の工夫（やり方・終わり・次）

- 「何を」「どのくらい」「どうやって」「次は」という理解を助けるために
 - やることの内容や数や順序が違ってても進め方は同じという“システム”を提示する。

見え方の工夫（ヒント・着目）

- 見てすぐにわかる情報を提示するために
 - 必要な情報に注目しやすくする工夫
 - 見るだけで何をすれば良いかがわかる工夫
 - 情報や材料が見やすい・扱いやすい工夫

やりとりの工夫 (コミュニケーションツール)

- 伝え合いわかり合うコミュニケーションのために
 - コミュニケーションの手続きを視覚的に示し、コミュニケーションの成功体験をサポート

支援を見直すことの重要性

- 自閉症の特性に基づいた予防的な支援を展開しても、うまくいかないことは当然出てきます。そんなときは、改めて今までの支援を見直し、支援の補整や補強をしていきます。
- この見直し作業を繰り返しながら、本人に合った支援を整え、本人が力を発揮しやすい環境をつくっていくのです。

④ 基本的な情報収集

- ・ 行動を見る視点

「行動チェックシート」

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーリア)		
	発信が難しい	コ: 行動や仕事などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更で混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好み、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

行動を見る視点の大切さ

- ここまでの講義で、強度行動障害の状態にある人たちは、自分の気持ちをうまく訴えられない特性があることを学びました。
- うまく訴えられない人たちのことを理解するためには、行動が手がかりになります。
- 行動をきちんと観察することで、本人の訴えたいことだけでなく、障害の特性を理解することにもつながります。
- 客観的に観察することで、行動の背景にはさまざまな苦手さがあることに気がつくことができます。

まとめ

本人の行動は「困っている」サインかもしれません

- 本人の行動をヒントに
- 特性に気づき
- 適切な支援を組み立てていくことで

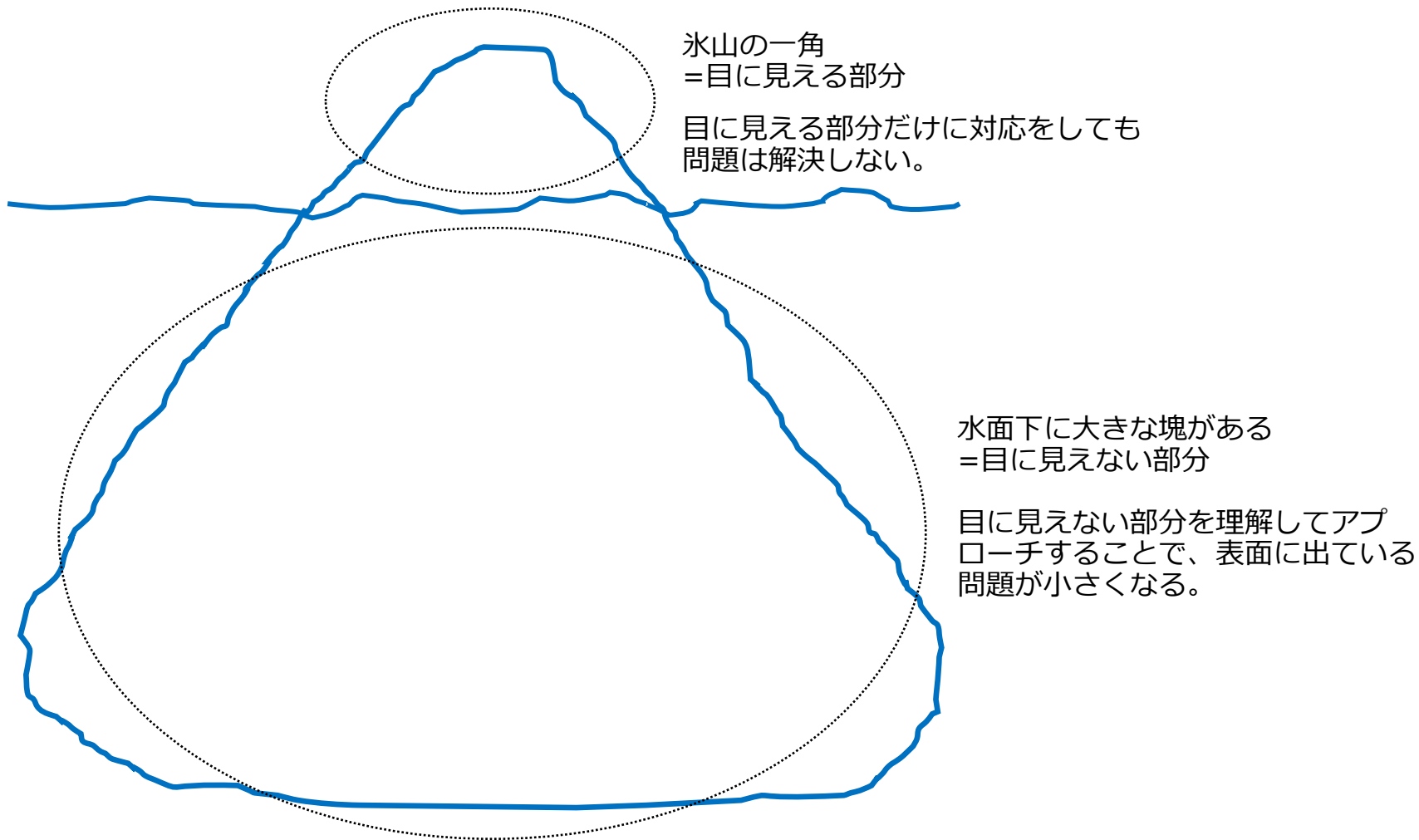


支援も本人の活動も成功しやすくなります

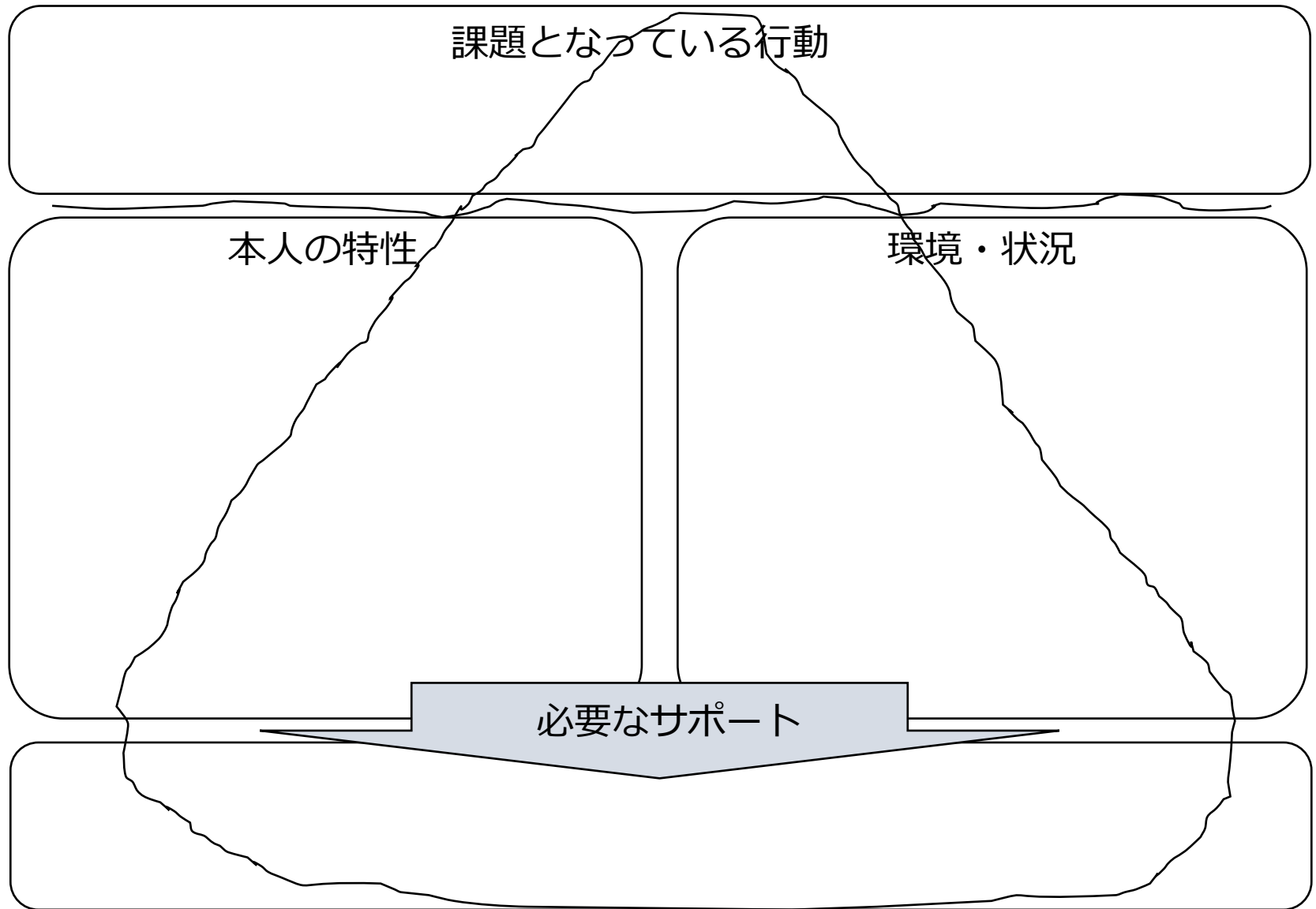
⑤特性の分析

- ・特性の把握と適切な対応

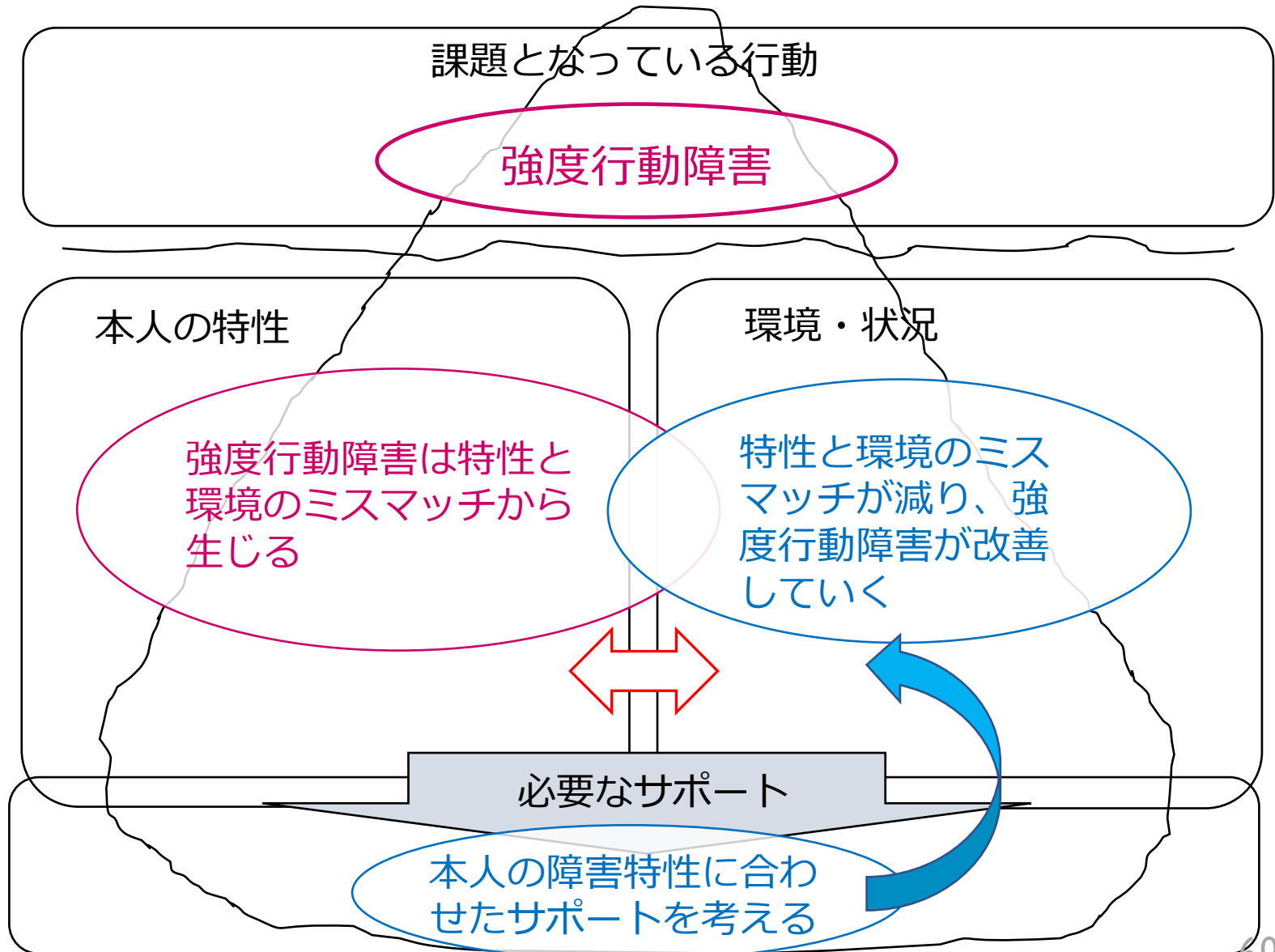
行動の背景を知るための「冰山モデル」



冰山モデルシート



冰山モデルシート



氷山モデルシートと補足シートの関係

	前	✓	本人の具体的な行動
社会性	人の集まりに馴染むことができるか	✓	✓
	状況の理解が難しい	○	
コミュニケーション	言葉が通じにくい	○	
	状況の理解が難しい	○	
環境力	自分で予定を立てることが難しい	○	
	物への一部に対する興味	○	
感覚	感覚が敏感または鈍感	○	

	課題となっている行動（本人が行っている行動）		
	『』	』	
社会性	人の集まりに馴染むことができるか	1) 相手への関心が低い 2) 相手の気持ちに寄り添うことができない 3) 相手の気持ちに寄り添うことが難しい 4) 周囲で起きていることへの関心が低い 5) 周囲の様子から察知できずに行動することが難しい 6) 見えるものへの関心が低い	支援のアイデア 読み取ってあげ、察してあげては、具体的に伝える A) 具体的に伝える(見え方の視点、やじりの視点) B) 誰にどう伝えるかという具体的な方法を伝える(見え方の視点、やじりの視点) C) よく伝える(方法の視点、やじりの視点) D) 「いい」で「何を」の情報を伝えてみる E) 話、絵、写真、シミュレーション、具体的な例で伝える(やじりの視点、見え方の視点)
	状況の理解が難しい	7) 状況の理解が難しい 8) 一歩にたどることを理解することが難しい 9) 抽象的で難しい言葉の理解が難しい 10) 視覚的な情報を伝えることが難しい 11) 話の筋が通らない 12) 話に伝えないことができない 13) 視覚的な情報や状況に合わせたコミュニケーションが難しい 14) 視覚的な情報や状況に合わせたコミュニケーションが難しい 15) 状況の理解が難しい	本人が理解できる見える情報(文章、話、絵、写真、シミュレーション、具体的な例)で伝える(やじりの視点、見え方の視点)
	コミュニケーション	16) 周囲の状況に合わせたコミュニケーションが難しい 17) なんとなく、思い込みのコミュニケーションが難しい 18) 今の状況に合わせて行動することが難しい 19) 先の予測をすることが難しい 20) 周囲の状況に合わせて行動することが難しい 21) 自分だけの行動だけで行動することが難しい 22) 周囲とつながることが難しい 23) 周囲の状況に合わせて行動することが難しい 24) 少しのことで大きな不安を感じる	本人が理解しやすいツール(文章、話、絵、写真、シミュレーション、具体的な例)で伝える F) 視覚的なツールでやり取りできるようにする(やじりの視点、見え方の視点)
	環境力	25) 環境の理解や予測が難しい 26) 環境の理解や予測が難しい 27) 環境の理解や予測が難しい 28) 環境の理解や予測が難しい 29) 環境の理解や予測が難しい 30) 環境の理解や予測が難しい	G) 本人に分りやすい予定や変更を伝える(時間の視点) H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点、場所の視点) I) 活動や目標を具体的に示すことができるようにする(方法の視点) J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点) K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
	感覚		

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	顔色は悪くありませんか(言葉・表情・姿勢・顔に響いて等) 相手の目線は適切ですか 言葉のタイミングは適切ですか 言葉をするとその立場は適切ですか その他	
物	見る・触る・感じるようなものはありますか 見る・触る・感じるようなものはありますか 物の集まったところはありますか その他	
場所	何をすべき場所なのか見分けがよくなっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 環境確認はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	
状況	本人の体調はいいと比べてどうですか その活動の頻りに前になることであれば大丈夫ですか その活動の頻りに前になることであれば大丈夫ですか その活動の目的(どうするか、どうなりたいのかなど)は理解できていますか その他	
音	その場所にはどんな音がしていましたか その中に本人が苦手なものがありますか	
気温	その場所の気温は何度くらいでしたか(あるいは暑かった・寒かった等) その気温は本人にとって快適なものでしょうか	
湿度	その場所の湿度は何%くらいでしたか(あるいは蒸っていた・乾燥していた等) その湿度は本人にとって快適なものでしょうか	
臭い	その場所にはどんな臭いがありましたか その中に本人が苦手なものがありますか	
その他	その他本人が不安定になる原因になるかもしれないもの	

本人の強み(ストレンス)	活かせる場面や状況
わかることとできること 例) なかなか寝た・ベッドタイムになったら寝る / パネルを使うのが上手 など	
好きなこと(遊び方、過ごし方、キャラクターなど) 例) 好きなこと / パネルの活用 / OOOキャラクター / ビューtifulな色 / 色を合わせる	
得意なこと(これは強みとされている) 見方を覚えれば得意かもしれないこと 例) 目的がわかれば決まることがある / 言葉が苦手だけれども同じことはできる	
その他	

行動チェックシート

特性確認シート

環境確認シート

強み確認シート

支援のアイデア

氷山モデルシートと補足シートの関係

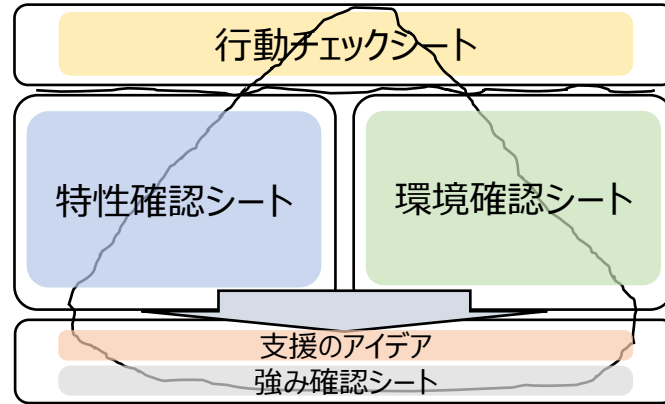
行動チェックシート	
項目	内容
1. 目標設定	目標を設定し、達成するための計画を立てる。
2. 計画の実行	計画に従って行動し、進捗を確認する。
3. 振り返り	完了後、振り返りを行い、今後の改善点を考える。
4. 評価	達成状況を評価し、達成感や課題を共有する。
5. 継続	達成した目標を継続し、新たな目標を設定する。

行動チェックシート

特性確認シート	
項目	内容
1. 目的	目的を明確にし、達成するための計画を立てる。
2. 計画	計画を立て、実行する。
3. 実行	計画に従って行動し、進捗を確認する。
4. 振り返り	完了後、振り返りを行い、今後の改善点を考える。
5. 評価	達成状況を評価し、達成感や課題を共有する。
6. 継続	達成した目標を継続し、新たな目標を設定する。

特性確認シート

支援のアイデア



環境確認シート		
項目	確認項目	対応
人	関係者の役割や責任を明確にする。	
物	必要な資源や情報を確保する。	
場所	作業環境を整える。	
時間	作業スケジュールを管理する。	
費用	作業コストを管理する。	
法律	関連法規を遵守する。	
リスク	作業リスクを評価し、対策を講じる。	
その他	その他の確認事項を記入する。	

環境確認シート

強み確認シート	
項目	内容
1. 強みの抽出	個人やチームの強みを抽出し、活用する。
2. 強みの活用	抽出した強みを目標達成に活用する。
3. 強みの共有	強みを共有し、チーム全体の力を高める。
4. 強みの継続	強みを継続的に活用し、成長を促す。

強み確認シート

冰山モデルシートが完成しました

課題となっている行動 水遊びを止められて自傷をする

本人の特性

- 1) 相手への関心が薄い
- 5) 周囲の様子から期待されていることを理解するのが難しい
- 6) 見えないものの理解が難しい
- 7) 話し言葉の理解が難しい
- 11) どのようにして伝えたらいいかわからない
- 18) 今やるのが自分で判断することが難しい
- 19) 先の予測をすることが難しい
- 22) 興味関心が狭くて強い
- 25) 聴覚の過敏や鈍麻がある
- 27) 触覚の過敏や鈍麻がある

環境・状況

人：支援者は言葉で指示を出している
物：水道が見えやすい場所へ出かけている
場所：公園での目的が柵でゆれるか、水道で遊ぶかに見えていた
状況：どうなったら終わりかがわかりにくい
状況：公園に何をしに行ったのかわからない

必要なサポート

(支援のアイデア)

- C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える
- D) 本人が理解できる見える情報で伝える
- G) 本人に分かりやすく予定を伝える

(本人の強み→活かせるような場面や状況)

- ・お茶を見せるとベンチに座って飲むことがわかる→活動の切り替えにお茶を使えないか
- ・絵本の「くるま」を見て「外出」するのだと理解したことがある→イラストで活動を知らせられないか
- ・物に注目できる→タイマーなどで終わりを伝えられないか
- ・揺れる感覚に没頭することがある→揺れる感覚で適切な遊びを提供できないか

まとめ

- 課題となる行動には、障害特性に起因する何らかの理由がある
- 「冰山モデル」を使った行動の背景を捉える考え方が有効
- 「本人の特性」と「環境や状況」を整理し、課題となっている要因を明らかにすることが根拠に基づいた適切な支援の第1歩
- 導き出された支援のアイデアは、本人の強みを使って具体化される

⑥ チームプレイの基本

- ・ チームプレイの必要性

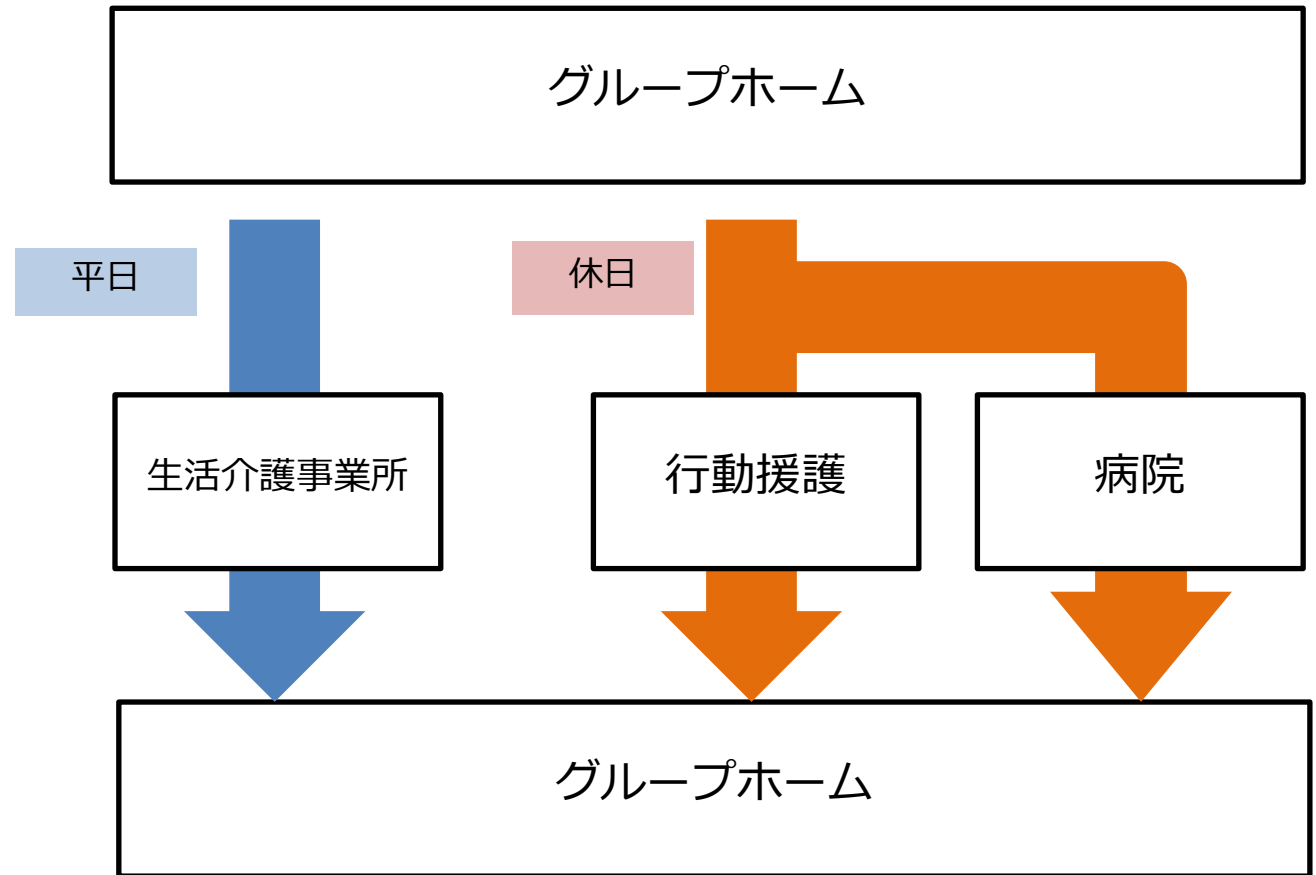
チームで支援する必要性

一日で考えてみると、
様々な生活場面で成り立っている。

- 暮らしの場面（家庭やグループホームなど）
- 日中活動の場面（保育園や学校、福祉事業所など）
- 外出の場面（家族や行動援護など）

→それぞれの場面で関わる関係者がちがう。

田中さんの一日



田中さんのライフステージ



乳幼児期から成人期まで、様々なライフステージがあり、それぞれに事業所や支援者が関わる

本人の現在の生活は、
さまざまな関係者で支えられています。

支援チームをつくる

田中さんの生活



複数の事業所や
支援機関が関わる

事業所の中でも、
複数の職員が本人に関わります。

グループホーム



田中さん

世話人Aさん

世話人Bさん

グループホーム
管理者

世話人Cさん

複数の支援者が関わる

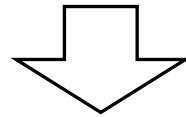
- I その人の特性や人生のニーズを把握する
- II その人の特性に配慮した支援を考える
- III その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう

※PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。支援を考える際もこのサイクルを重視します。

- IV 支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて支援を見直し、支援の補整や補強をする

関係者が必要な支援や特性を共有することが重要

それぞれの関係者が、本人の特性に関係なく、
思い思いのやり方で接してしまうと・・・



本人が混乱してしまう。

それぞれの場面やライフステージにおける関係者が、
本人を支えるチームのメンバーとして、
本人の特性や配慮すべきことについて共通の認識を持ち、
同じ方針に沿った統一した支援をしていくことが大切。

統一した支援をするために

チームにおける情報共有や連携の方法

- 日頃からお互いに頻繁なやりとり（情報共有）をする
- 個別の支援会議（ケース会議）を開催する
- サービス等利用計画
- 個別支援計画
- 支援手順書

日頃からお互いに 頻繁なやりとり（情報共有）をする

- 体調
- 生活リズム（睡眠や食事、排泄など）の変化
- 日課などの環境の変化
- 強度行動障害などの課題となる行動の有無

個別の支援会議（ケース会議）を開催する



- 情報の共有
- 記録方法
- うまくいかない時の対応

サービス等利用計画・
個別支援計画・支援手順書

本人ニーズに基づく支援計画

「本人ニーズ」

夢や目標、支援してほしいこと、困っていること

- ・ コミュニケーションの苦手さを補う支援
- ・ 困りごとの背景にある障害特性や環境要因を知る
- ・ 自己決定のための本人にあった情報提供

本人ニーズに基づく支援計画を考えるためには、
特性の理解とアセスメントの視点が欠かせない

サービス等利用計画



本人の望む生活に対し、支援機関がそれぞれのような役割を果たしチームで支えていくことを示したもの

ご本人の望む生活や目標

サービス等利用計画



グループホーム



日中活動や就労の支援

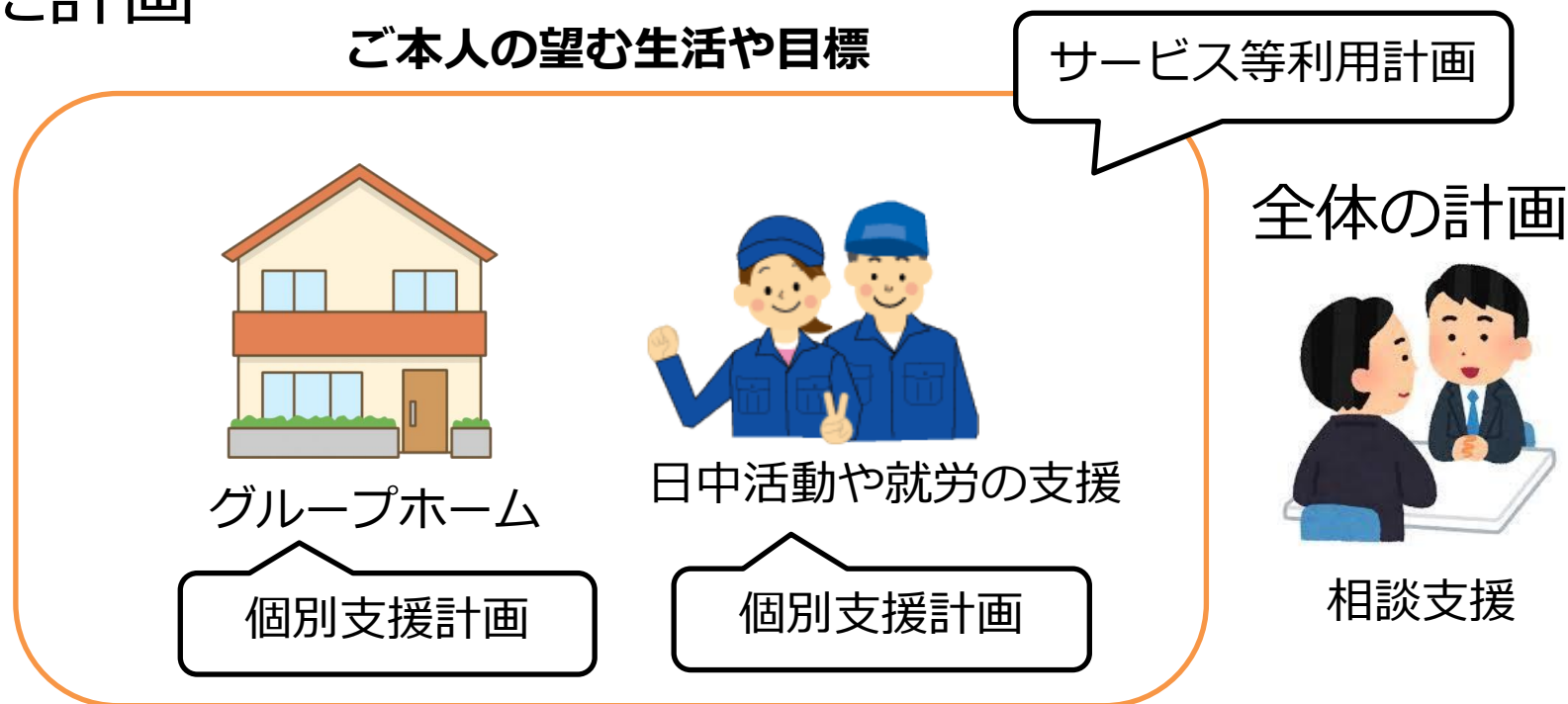
全体の計画



相談支援

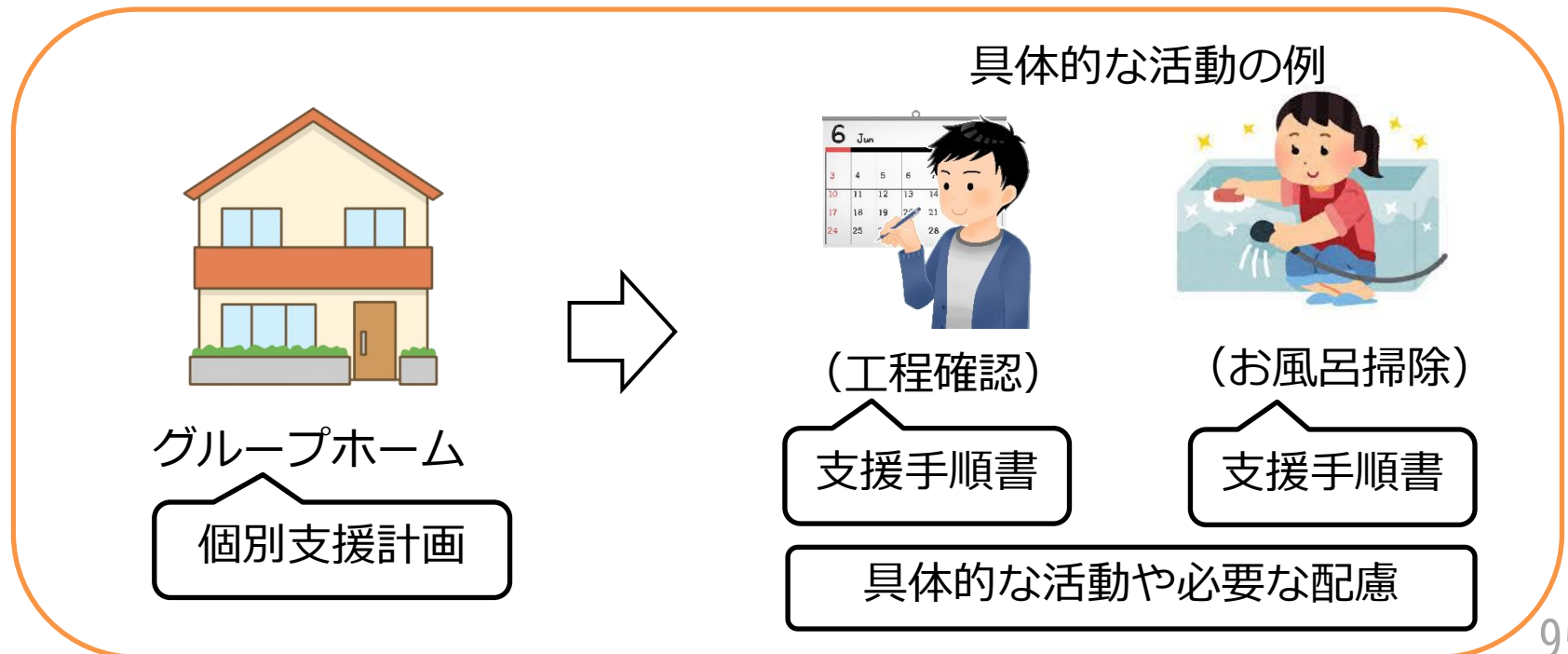
個別支援計画

サービス等利用計画で示された役割を基に、支援機関ではどのような目標をもち、何に配慮して支援をするのか、具体的な目標と支援内容を記入した計画



支援手順書

個別支援計画の内容から、具体的な活動とその工程・必要な配慮の方法などをその人に合わせて詳細に記入したもの



「支援手順書」の例 1 (文字)

時間	活動	サービス手順
9:30- 10:00	来所	【スケジュール1：朝の準備】 静養室（スケジュール）→静養室（着替え）→静養室（休憩）→アラーム（9:50）→作業室
10:00- 10:45	班別 活動	【スケジュール2：DVD組み立て×2回】 作業室（作業15分）→静養室（休憩10分）→アラーム→トイレ→静養室（スケジュール）→作業室（作業15分）
10:45- 11:00	お茶 休憩	【スケジュール3：お茶休憩】 作業室→静養室（スケジュール）→手洗い→静養室（お茶休憩）→アラーム→作業室
11:00- 11:45	班別 活動	【スケジュール4：DVD組み立て×2回】 作業室（作業15分）→静養室（休憩10分）→アラーム→トイレ→静養室（スケジュール）→作業室（作業15分）→静養室

【連絡事項】

- 活動の切り替えは静養室で行います。原則として活動ごとにスケジュールを確認します。
- 静養室での休憩の終わりはアラームで知らせます。
- ロッカーは静養室に移動しました。着替えは静養室で行ってください。
- ○○さんと動線が重ならないように注意してください（特に朝、休憩時間）
- 自立課題終了後、帰りの準備をするまでに20分間の休憩が入ります。

【問合せ事項】

「支援手順書」の例2 (文字)

(● ● ●) 支援手順書

時間	活動	サービス手順		メモ
		本人の行動	支援者	
16:00	おやつ	スタッフルームにて、おやつ、飲み物をもらう	カード提示により、本人におやつ、飲み物を渡す	
		中庭を3~5周歩く	時間によって、回数提示を変える(1周約5~6分)	
16:30	散歩	三段BOXにある作業を上から行う	時間によって量を調節する	
17:00	部屋で作業	食堂に移動	スムーズに移動できない場合はカード提示する	
17:30	夕食	歯磨きを行う	仕上げ磨きを行う	
18:00	歯磨き	入浴準備(タオル、シャンプー、	常同行動が見られる場合は、~	
18:30	入浴			

【緊急時のとき】

【気をつけておいてほしいこと】

・常同行動により、一つ一つの活動に参加するまでの時間が多大になることが多くみられている。また、他の利用者にこだわり、それが原因でトラブルになることも多く、そうなったら、他の~利用者を一時的にその場から離れてもらうなど、距離を置いて20分ほど様子を見る。

「支援手順書」の例3 (写真)

Kさん 支援手順書

起床時対応 (当直明け)



当直明け
職員が準備
6-30



押し入れ中の作業題材をテーブル横



- ① 布団干し
- ② トイレ
- ③ 着替え
- ④ ひげそり
- ⑤ 掃除
- ⑥ 新聞 (時間がなければ無し)
- ⑦ ごはん
- ⑧ 歯みがき
- ⑨ 部屋で作業
- ⑩ 朝の会



声かけは
シンプルに。

日課の説明

職員がカードを指さしながら、
本人に読んでもらう
(活動内容の説明は要りません)



本人が一番上のカ
ードを取り、カ
ード入れに入れる

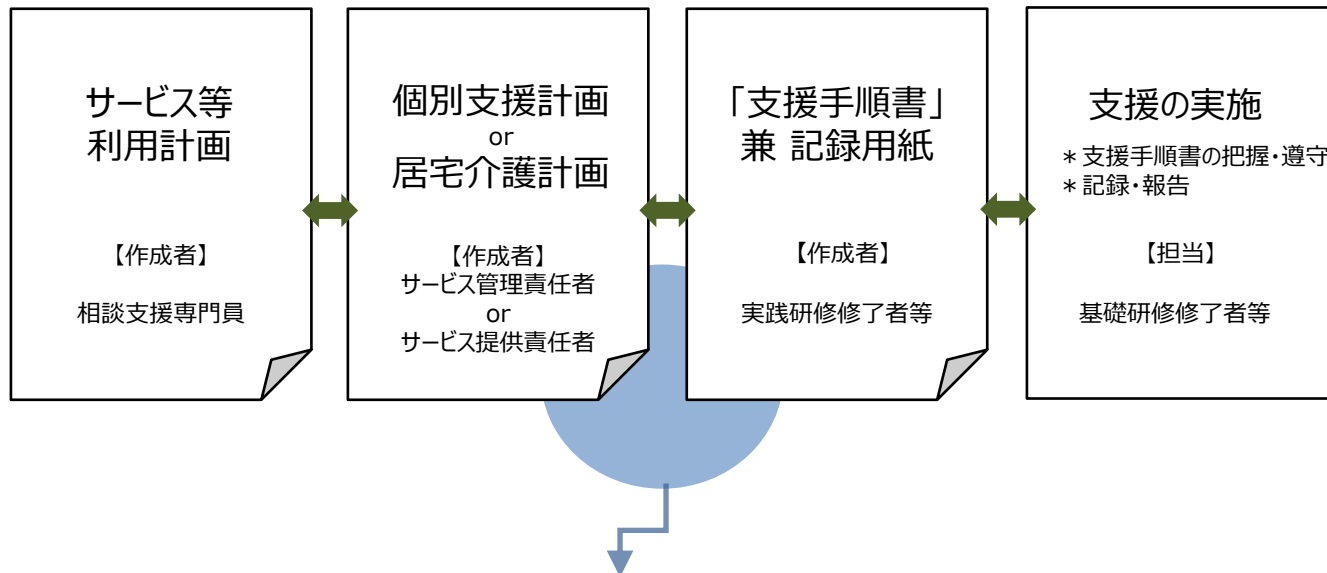
自分でやらせてもら
うことが大切

※ 別途記録用紙あり

現場で支援を実施するときには、
支援手順書に沿って支援することが大切

= 本人の特性に合わせた統一した支援

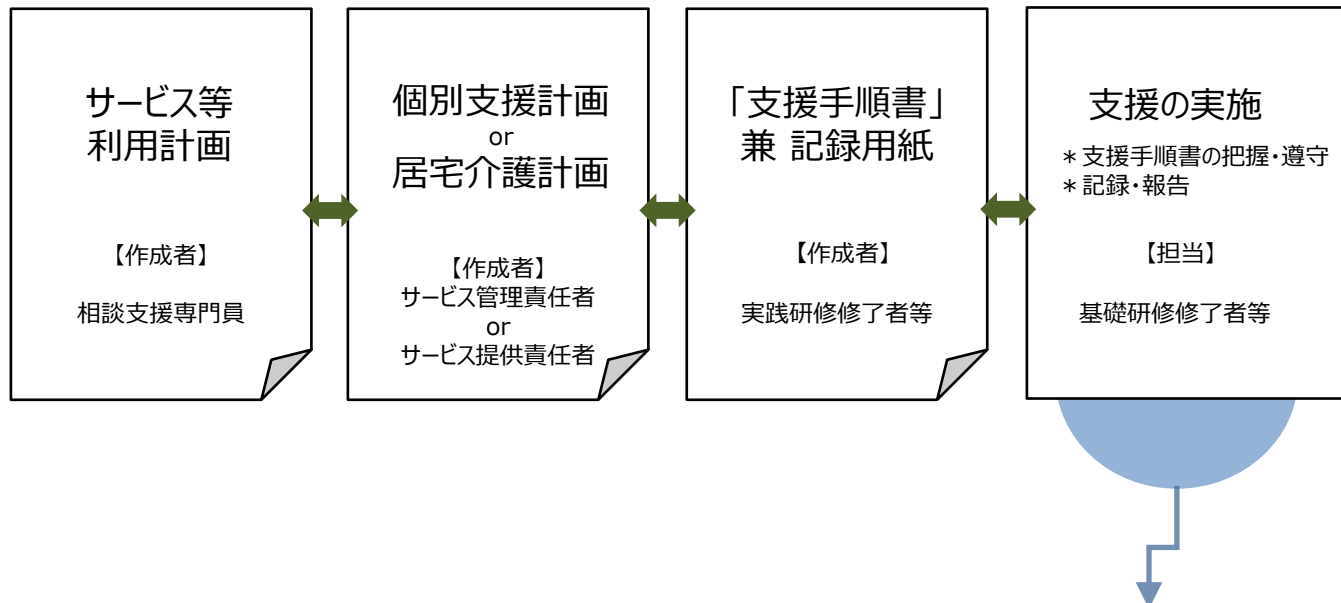
個別支援計画と支援手順書の関係



強度行動障害の支援においては、個別支援計画や居宅支援計画といった大まかな支援内容では、適切な支援を行うことが難しい。障害特性に配慮した留意点を整理し、日々の日課や各活動の詳細を決め、時間単位で各活動をどのような流れで行っていくかを詳細に記した「支援手順書」が必要となる。

支援の実施と記録

支援の実施と記録



実際の支援に入る時には、支援手順書に沿って支援をすること、支援時の本人の様子などを記録しておくことが大切。

支援手順書に従って記録する際の留意点

事前に確認しておくポイント

事前準備	支援ツールの準備など、事前の準備ができているか
支援手順書の内容	支援者が支援手順書の内容を理解できているか、内容に変更がないか
その日の状況	体調（睡眠、排便、てんかん発作などのリズムなど）やその日の状況（自宅でいつものこだわりができなかったなどで、落ち着かない様子など）にも影響を受けやすいので記録しておく

客観的な記録

記録の重要性

正しい状態像をつかむ

チームで情報を共有する

支援の効果を確認する

支援のベース

正しい状態像をつかむ

- 大変な人？大人しい人？・・・など印象では具体的な状態像がわからない
- いつ、どこで、どのような行動をとっているかなど、具体的な情報から正しい状態像を知る
- 正しい状態像を知ることによってその人にあった支援につながる

情報共有の重要性

- ・ チームで支援したり、対応を考えていく上で情報共有は重要
- ・ 直接の関わりで得られた情報をチームで共有する

情報共有のベースとなる記録

例

今日は大変
だった

何が？ 誰が？
状況がわかりにくい

田中さんの水遊びを止
めたら、頬を叩く自傷
があった。
支援者も対応に困った。

具体的に記述

具体的な状況が
共有できる

情報共有のベースとなる記録


- ・ 具体的な状況を記録する
- ・ 支援者の主観と具体的な状況をわけて記録する
- ・ 「いつ・どこで・誰が・どのように」を意識する
- ・ 読み手を意識する

→具体的な状況を共有することで、支援者の共通認識を持ちやすい

- ・ 支援手順書に基づいて支援したが上手くいかなかったなので自分の時は対応を変えている

→バラバラの支援に

緊急時は除く

- ・ うまくいかなかった時は上司に相談したりチームで共有する
- ・ チームで共有し支援手順書を改定していく
- ・ 日々の「報告・連絡・相談」が大切 

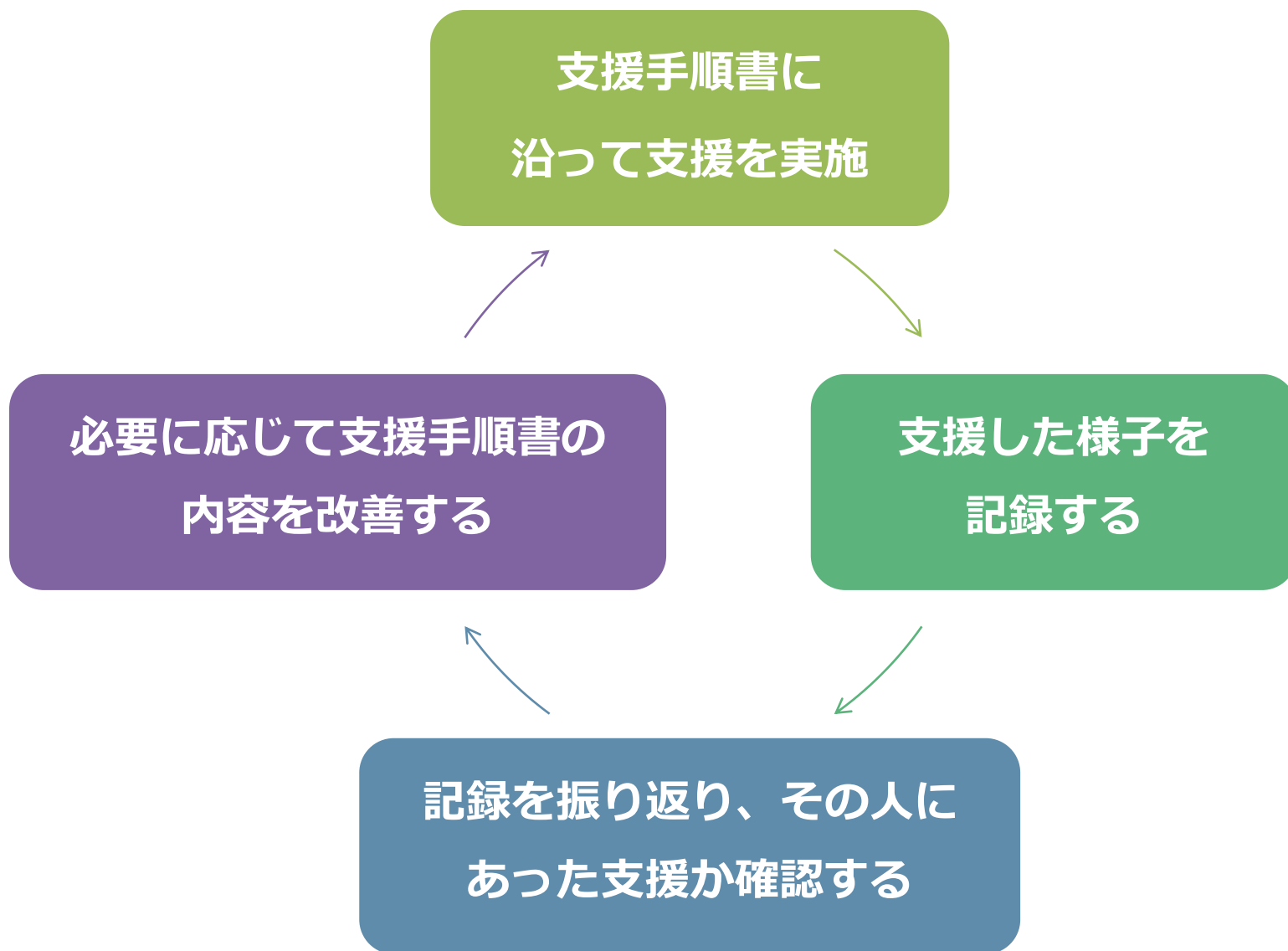
支援の効果を確認する

- 支援に取り組んだ結果が記録として残っていると振り返りしやすい
- 支援の結果を振り返りながら、その支援が適切かどうか？改善点があるか？を確認していく

計画の見直し

- 記録をもとに
 - 上手くいった支援は継続・発展させる
 - 上手くいかなかった支援は見直しする
- = 見直しを繰り返しより本人にあった支援手順書に

支援の実施



⑦ 支援を組み立てるための基本

- ・ 支援を組み立てるための基本的な流れ

- 支援においては次のような道筋を大切にします。

- I その人の特性や人生のニーズを把握する
- II その人の特性に配慮した支援を考える
- III その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう

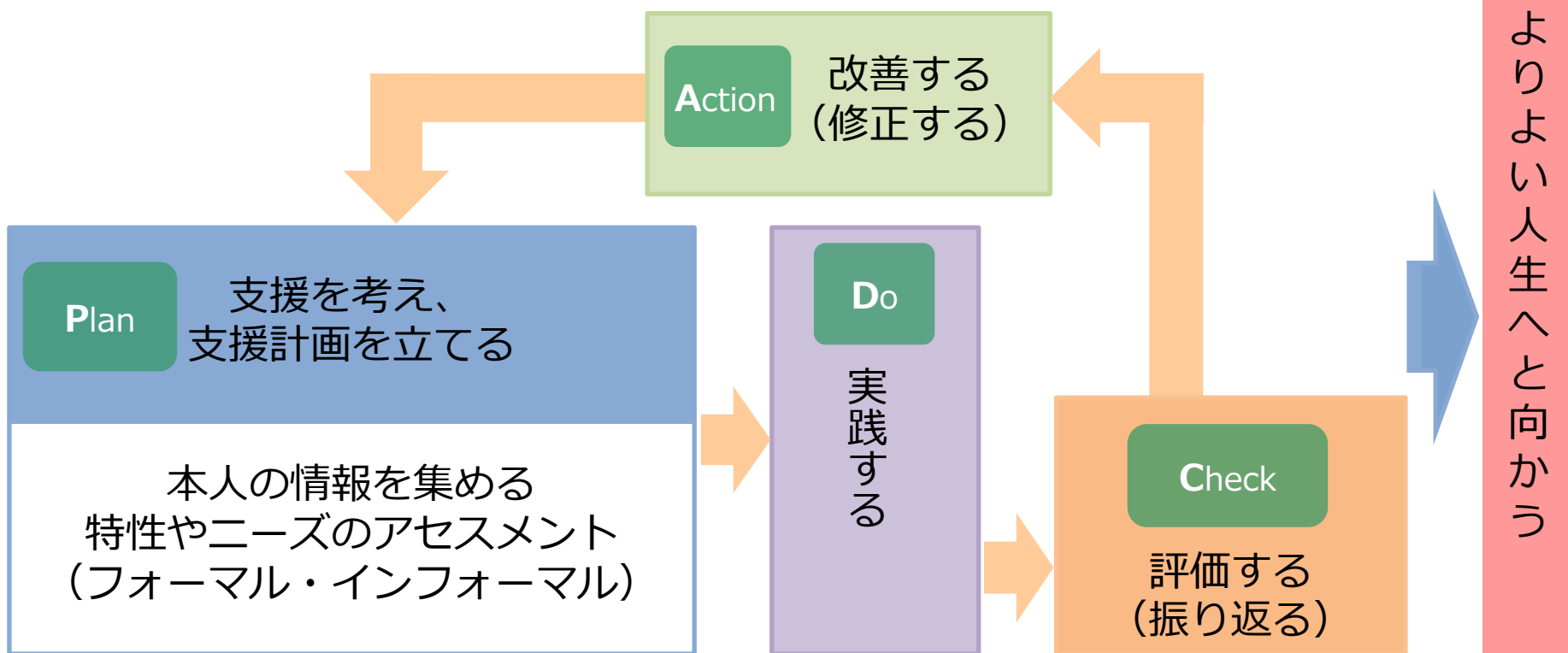
※PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。支援を考える際もこのサイクルを重視します。

- IV 支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて支援を見直し、支援の補整や補強をする

この講義では、Ⅲについて主にお話しします。

予防的で基本的な支援をベースに、
プラスアルファの取り組みをするが、そこにもPDCAサイクルはある

強度行動障害の支援



予防的で基本的な支援

⑧実践研修の進み方と 演習の構成

実践研修の進み方①

① アセスメントの方法

演習1

- ・ 具体的なアセスメントの方法
(行動チェックシートの記入)

演習2

- ・ 障害特性に基づくアセスメント
(冰山モデルの作成)

② 支援手順書の作成

演習3

- ・ アセスメントに基づく支援手順書の作成 (1)

演習4

- ・ アセスメントに基づく支援手順書の作成 (2)

③ 記録の分析と支援手順書の修正

演習5

- ・ 記録の方法
- ・ 記録の分析と支援手順書の修正

実践研修の進み方②

④組織的なアプローチ

講義 2

- ・ 組織的なアプローチの重要性



⑤実践報告

講義 3

- ・ チームの支援の実際



⑥関係機関との連携

演習 6

- ・ 医療機関との連携方法

演習の構成



- ・ 演習 1 から演習 5 まで順番に行うことが、支援手順書を作成するプロセスとなります。

【演習全体で学ぶこと】

- ① 支援者が統一した支援を実施するために必要な、障害特性に合わせた支援手順書の作成方法
- ② P D C A サイクルの流れで支援を改善していくために必要な、記録に基づく支援手順書の修正方法

実践研修修了者が目指すもの

【支援手順書の作成】

- ・強度行動障害の状態にあるケースに対し、基礎研修で学んだことを踏まえながら支援手順書を作成する。

【支援手順書の内容と記録方法を伝達する】

- ・支援の統一に向けて、「支援手順書」のサービス提供方法と日々の支援の記録方法について、現場スタッフに正確に伝達する。

【検証と修正】

- ・一定期間実施した支援の結果を取りまとめ、サービス管理責任者および現場スタッフと相談し、支援方法の変更や継続について議論する。

アセスメントの方法

- 具体的なアセスメントの方法
- 障害特性に基づくアセスメント

この時間で学ぶこと

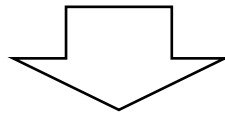
- これまで行動障害が現れやすい人たちへの支援においては、
「障害特性に合わせた支援が必要であること」
「支援者が統一した支援をすること」
が大切であることを確認してきました。
- この時間では、支援者が統一した支援を実施するために必要な、障害特性に合わせた支援手順書を作成するための根拠となるアセスメントの方法について学びます。

演習の流れ



アセスメントの方法

- ・ 具体的なアセスメントの方法



- i) アセスメントについて
- ii) 事例の紹介
- iii) 本人の行動を確認する

i) アセスメントについて

アセスメント

- ・ アセスメントとは？
「評価」や「実態把握」
- ・ 基本的なアセスメント情報
「医学的な診断」「障害支援区分」「療育手帳」など

実際の支援には、
支援の内容に直結
する詳しい情報が
必要

「フォーマルなアセスメント」
・ 知能検査、発達検査など標準化
された検査

「インフォーマルなアセスメント」
・ 日常の観察やインタビューによっ
て得られる情報

行動チェックシート

本人の行動を観察して具体的な行動を書き込むシート

本人の障害特性に基づく行動に着目することができたり、課題となる行動を絞り込むことができる

行動チェックシート

差込資料②

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）		
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点） E) 本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点） F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする（やりとりの視点・見え方の視点）
		8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
		11) どのようにして伝えたらよいか分からない	
		12) 誰に伝えてよいか分からない	
やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせてコミュニケーションが難しい		
	14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい		
	15) やりとりの量が多いと処理が難しい		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える（時間の視点） H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする（時間の視点・場所の視点） I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする（方法の視点） J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする（方法の視点）
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い		
	23) 細部が気になり違いに敏感		
	24) 少しの違いで大きな不安を感じる		
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする（場所の視点） L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する（場所の視点）
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

本人の行動について、その背景となる特性を確認するためのシート

必ずしも「課題となっている行動」だけでなく、本人の行動から隠れている特性を整理することができる

特性に対応する支援のアイデアも確認することができる

環境確認シート

本人の特性と合っていない
環境を確認するためのシート

支援する人や、さまざまな刺激・情報など見落としがちな環境の項目を振り返ることができる

環境確認シート

差込資料⑤

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（言葉・指さし・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	
物	見ると勘違いするような物がありますか 見ると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていきますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感触などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうなったら終わるのかなど）は理解できていますか その他	
音	その場所にはどんな音がしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
気温	その場所の気温は何度くらいでしたか（あるいは暑かった・寒かった等） その気温は本人にとって快適なものですか	
湿度	その場所の湿度は何%くらいでしたか（あるいは蒸していた・乾燥していた等） その湿度は本人にとって快適なものですか	
臭い	その場所にはどんな臭いがしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	

強み(ストレングス) 確認シート

本人の得意なこと、できること
などを確認するためのシート

具体的な支援を組み立てるとき
にヒントとなる

強み (ストレングス) 確認シート

差込資料⑥

本人の強み (ストレングス)	活かせそうな場面や状況
<p>わかること・できること 例) なくなったら 終わり、ペットボトルのふたを 開ける ハサミを使うのが上手 など</p>	
<p>好きなこと (遊び方、過ごし方、キャラクターなど) やりたがること 例) ハンモックで 揺れる ○○のキャラクター ピッタリはまる 色を合わせる</p>	
<p>得意なこと (これには助けられているなど) 見方を変えれば 得意かもしれないこと 例) 目的がわかれば 待つことができる 変更は苦手だがいつもと 同じ ことはできる</p>	
<p>その他</p>	

ii) 事例の紹介

名前：田中正則（たなかまさのり）さん(仮名)

年齢：32歳 性別：男性

診断名：自閉スペクトラム症 重度知的障害 IQ:30

利用しているサービス：共同生活援助・生活介護・
行動援護

IQについて振り返りましょう

軽度	IQ 50-69
成人期においてその精神年齢は概ね9歳から12歳相当	
中度	IQ35-49
成人期においてその精神年齢は概ね6歳から9歳相当	
重度	IQ20-34
成人期においてその精神年齢は概ね3歳から6歳相当	
最重度	IQ 20未満
成人期においてその精神年齢は概ね3歳未満	

※軽度、中度、重度、最重度の区分はICD-10による。

田中さんは、グループホームに住む重度知的障害を伴う、自閉スペクトラム症の男性です。

平日はグループホームから生活介護事業所に通い、休日は、ときどき行動援護でヘルパーさんと外出しています。

田中さんの普段の行動には、様々な自閉スペクトラム症の特性が現れています。

※「田中さんの基本情報」参照

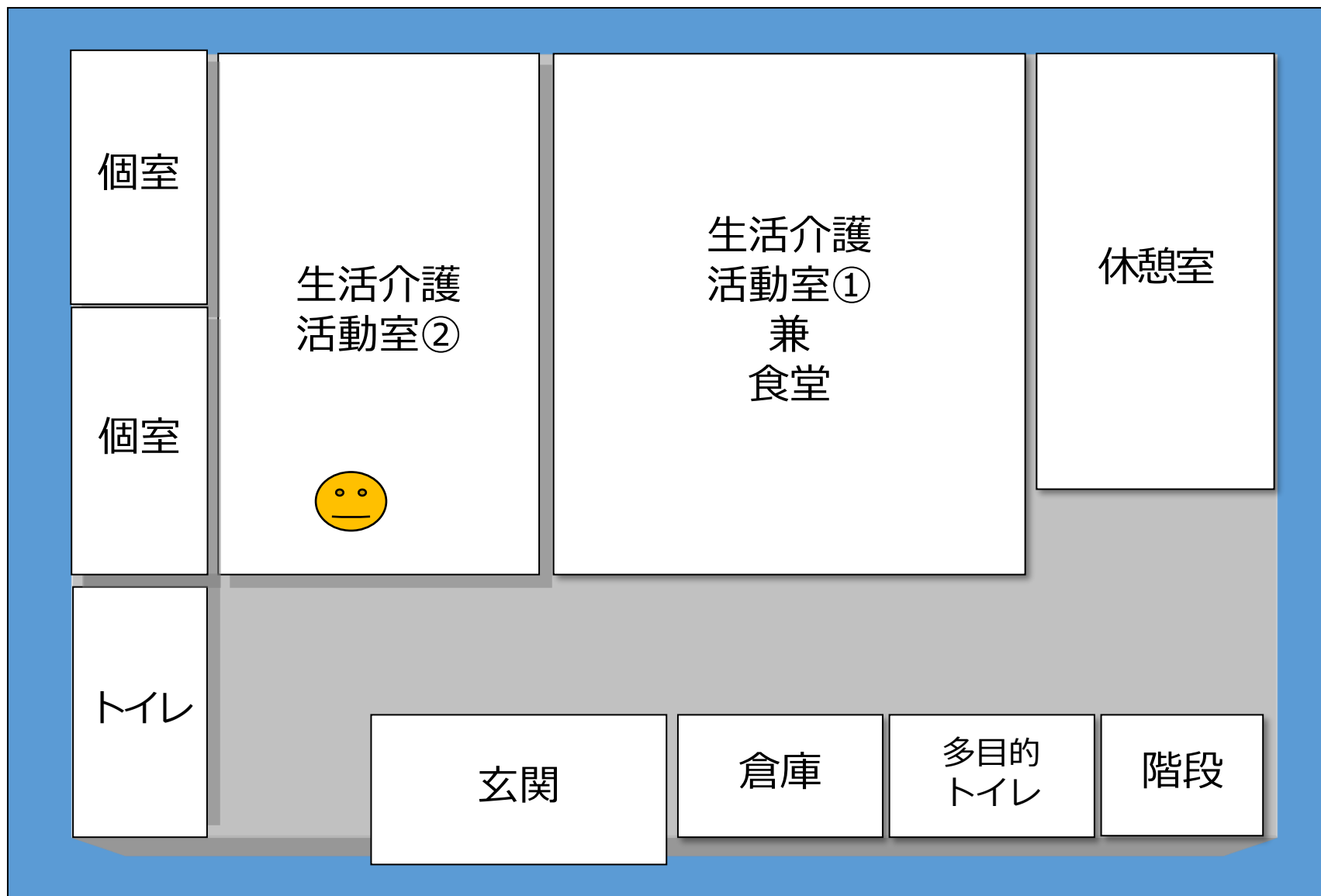
田中さんの活動場面

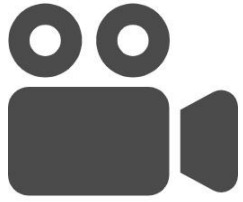
ある平日の午前中の生活介護事業所での様子です。
作業をやることになっていますが、田中さんは午後からのお出かけのことが気になっています。

担当している職員は、田中さんに作業をしてもらうために、懸命に声をかけて作業をするように促しています。

しかし、田中さんはお出かけのことが気になり、作業どころではないようです・・・。

生活介護事業所の中の配置図





動画の視聴

iii) 本人の行動を確認する

行動を見る視点の大切さ

- 行動障害のある人たちは、自分の気持ちをうまく訴えられない特性があります。
- うまく訴えられない人たちのことを理解するためには、行動が手がかりになります。
- 行動をきちんと観察することで、本人の訴えたいことだけでなく、障害の特性を理解することにもつながります。
- まずは、生活介護事業所での田中さんの具体的な行動を確認していきましょう。

行動に注目する

「行動チェックシート」を使って、田中さんの行動を確認します。

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方向的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する				
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコリア)		
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
	シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない			
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
セ: やりとりが続かない				
ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある				
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更で混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

個人ワーク | 行動に注目する

1. 行動チェックシートで生活介護事業所での田中さんの行動を確認します。

社会性の特徴

社会性の特徴について、田中さんの行動に現れているところを確認してみましょう。

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	<input type="checkbox"/>	
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い	<input type="checkbox"/>	
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	<input type="checkbox"/>	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない	<input type="checkbox"/>	
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない	<input type="checkbox"/>	
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する	<input type="checkbox"/>	

行動チェックシート

	例	✓	本人の具体的な行動
社会性	ア: 視線が合わない	<input type="checkbox"/>	
	イ: 人との関わりが一方的であることが多い	<input type="checkbox"/>	
	ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	<input type="checkbox"/>	
	エ: 周囲に合わせて行動できない	<input type="checkbox"/>	
	オ: 周囲の状況に対して興味を示さない	<input type="checkbox"/>	
	カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する	<input type="checkbox"/>	
コミュニケーション	キ: 言葉で指示しても行動できない	<input type="checkbox"/>	
	ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	<input type="checkbox"/>	
	ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーリア)	<input type="checkbox"/>	
	コ: 行動が仕草などで自分の気持ちを見わづ	<input type="checkbox"/>	
	ク: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない	<input type="checkbox"/>	
	シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	<input type="checkbox"/>	
想像力	ス: やりとりがわからない	<input type="checkbox"/>	
	セ: やりとりが難しい	<input type="checkbox"/>	
	ソ: 言葉に反論したり、黙らぬことがある	<input type="checkbox"/>	
	タ: やることがないときに口を開いている、しっししている	<input type="checkbox"/>	
	チ: 自分から動くことができない	<input type="checkbox"/>	
	ツ: 予定の変更に同意することが多い	<input type="checkbox"/>	
感覚	テ: 自分のルールを覚えることが難しい	<input type="checkbox"/>	
	ト: 目標が変更されると混乱することが多い	<input type="checkbox"/>	
	ナ: 活動の中で休憩したり、変更することができない	<input type="checkbox"/>	
	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある	<input type="checkbox"/>	
	ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	<input type="checkbox"/>	
	ネ: 細かいことが気になることがある	<input type="checkbox"/>	
感覚が敏感または鈍感	ノ: 目を覆く、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	<input type="checkbox"/>	
	ハ: 知しがる、目を閉じる、指先打を嫌がる、ネラネラに泣き出す、などの行動がある	<input type="checkbox"/>	
	ヒ: 特定の感触に敏感する、感触に嫌がる、または嫌しくないように行動がある	<input type="checkbox"/>	
	フ: 匂い、温度、質感の強い味を好む、同じものは好み、など行動がある	<input type="checkbox"/>	
	ヘ: 特定の匂い、温度、質感、感触に嫌がる、臭いを入れない場所がある、などの行動がある	<input type="checkbox"/>	
	ホ: クルム両足、ロッキングが多い、高い場所が好き、不機嫌、身体が動かしにくい特徴がある	<input type="checkbox"/>	

例えば、このような行動に注目します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	
		イ: 人との関わりが一方向的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	✓	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		

チェックが入っているところに本人の具体的な行動を書き込んでみましょう

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	支援者が話しかけても支援者の方を向かない
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	✓	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		

コミュニケーションの特性

コミュニケーションの特性について、田中さんの行動に現れているところを確認してみましょう。

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーリア)		
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	状況の理解が難しい	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
		エ: 周囲に合わせる行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーリア)		
		コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
想像力	物への対応が難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
		タ: やることがいておにの口している、しっしてしま		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の喪失に混乱することが多い		
情緒	感情が敏感または鈍感	テ: 自分のルールを破ると怒れることが多い		
		ト: 目標が変更されると混乱することが多い		
		ニ: 活動や途中で休憩、変更することができない		
		ホ: 特定の物へのこだわりや執着がある		
		ヘ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ニ: 誰かがいなくなるとやるべきことができないことがある		
行動	特定の興味の対象がある	ハ: 話を聞く、特定の音や言葉を聞く、特定の音や言葉を繰り返す、などの行動がある		
		ヒ: 特定の音や音に反応する、特定の音や音に反応する、または音に反応しないなどの行動がある		
		フ: 特定の音や音に反応する、特定の音や音に反応する、または音に反応しないなどの行動がある		
		ヘ: 特定の音や音に反応する、特定の音や音に反応する、または音に反応しないなどの行動がある		
		ト: 特定の音や音に反応する、特定の音や音に反応する、または音に反応しないなどの行動がある		
		チ: 特定の音や音に反応する、特定の音や音に反応する、または音に反応しないなどの行動がある		

例えば、このような行動に注目します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ ン	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーリア)	✓	
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

チェックが入っているところに本人の具体的な行動を書き込んでみましょう

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコラリア)	✓	
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

想像力の特徴

想像力の特徴について、田中さんの行動に現れているところを確認してみましょう。

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動	
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない			
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い			
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する			
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせず行動できない			
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない			
コミュニケーション	理解が難しい	カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する			
		キ: 言葉で指示しても行動できない			
	発信が難しい	ク: 言葉で指示されたことと違うことをする			
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーアクト)			
	やりとりが難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす			
		カ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない			
	想像力	自分で予定を立てることが難しい	シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
			ス: ややとりがみ合わない		
			セ: ややとりが頻かない		
		変化への対応が難しい	ソ: 言葉に反応し、声の大きさや表情に反応がある		
タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている					
チ: 自分から動くことができない					
物の一部に対する強い興味		ツ: 予定の変更に混乱することが多い			
		テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い			
感覚	特定の物などへの強い興味	ト: 日課が変更されると混乱することが多い			
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない			
	感覚が敏感または鈍感	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある			
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない			
	感覚が敏感または鈍感	ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある			
		ノ: 目を覆い、特定の物を見る、特定の物を見つめる、他人の行動がある			
		ハ: 隠し、目を閉じる、特定の物を見る、手や顔を隠す、特定の行動がある			
		ヒ: 特定の物に触れたい、特定の物に寄りかかる、または触れていないようになり行動がある			
感覚が敏感または鈍感	ヘ: 強い興味、特定の物への強い興味、同じものばかりが好き、特定の行動がある				
	フ: 特定の物への強い興味、特定の物への強い興味、特定の物への強い興味、特定の物への強い興味				
	ホ: 入らない場所がある、特定の行動がある、特定の行動がある、特定の行動がある				
	ヘ: 入らない場所がある、特定の行動がある、特定の行動がある、特定の行動がある				

例えば、このような行動に注目します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない	✓	
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	✓	
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		

チェックが入っているところに本人の具体的な行動を書き込んでみましょう

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない	✓	
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	✓	
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		

感覚の特性

感覚の特性について、田中さんの行動に現れているところを確認してみましょう。

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
感覚	感覚が敏感または鈍感	シ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関心なく行動する		
		エ: 周囲に合わせず行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を引かない		
コミュニケーション	理解が難しい	カ: 危険や迷惑、社会のルールに気が付かず行動する		
		キ: 言葉で指示しても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をもそのまま繰り返す（エコーリア）		
		コ: 行動や仕事などで自分の気持ちを表現する		
	発信が難しい	カ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		キ: 言葉はあるが自分の気持ちと正確に伝えることができない		
		ク: やりとりが合わない		
		ケ: やりとりが難しい		
		コ: 言葉に誤り、勘違い、思い込みがある		
想像力	自分が予定を立てることが難しい	セ: やりとりが難しい		
		テ: やることがないときに口を開いている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の放棄に慣れていることが多い		
		テ: 自分のルールを覚えることが難しい		
	変化への対応が難しい	ト: 目標が変更されると混乱することが多い		
		チ: 活動を途中で中断したり、変更することができない		
		ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ホ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ニ: 嫌いなことがあってもやる必要がある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	シ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

例えば、このような行動に注目します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
感 覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

チェックが入っているところに本人の具体的な行動を書き込んでみましょう

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
感 覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

行動に注目するということ

- この後の演習では、「作業中に自傷をする」という田中さんの行動について、その背景を探っていき、必要なサポートを整理したうえで、田中さんに合った支援の手順書を作っていきます。
- しかし、支援を組み立てるためには、自傷することだけに注目するのではなく、田中さんがさまざまな苦手さをもっていることに気づくことが大切です。
- 検討すべき行動を探すためだけではなく、本人の特性に気づくためにも客観的な観察（アセスメント）が必要です。

記入例

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	支援者が話しかけても支援者の方を向かない 支援者が作業をするようにはたらきかけても動かない、水遊びに行く、「お出かけ」と言って歩き出す
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	✓	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		

記入例

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	支援者が「作業をしましょう」と言っても座っている
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	支援者が「作業をしましょう」と言うと水遊びに行く
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコリア）	✓	「作業をしましょう」と言われて「作業」と繰り返す
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	「お出かけ」と言って立ちあがる、歩きだす
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	「お出かけ」という言葉だけで自分の気持ちを伝えようとしている
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

記入例

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		部屋に入るとイスに座ってじっとしている お出かけにこだわり作業ができない
		チ: 自分から動くことができない	✓	
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	✓	
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		

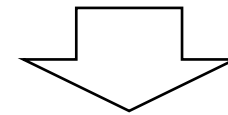
記入例

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
感 覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	常に耳をふさいでいる
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	キラキラした刺激が好き（基本情報より）
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	水道の水を長時間触っている
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

アセスメントの方法

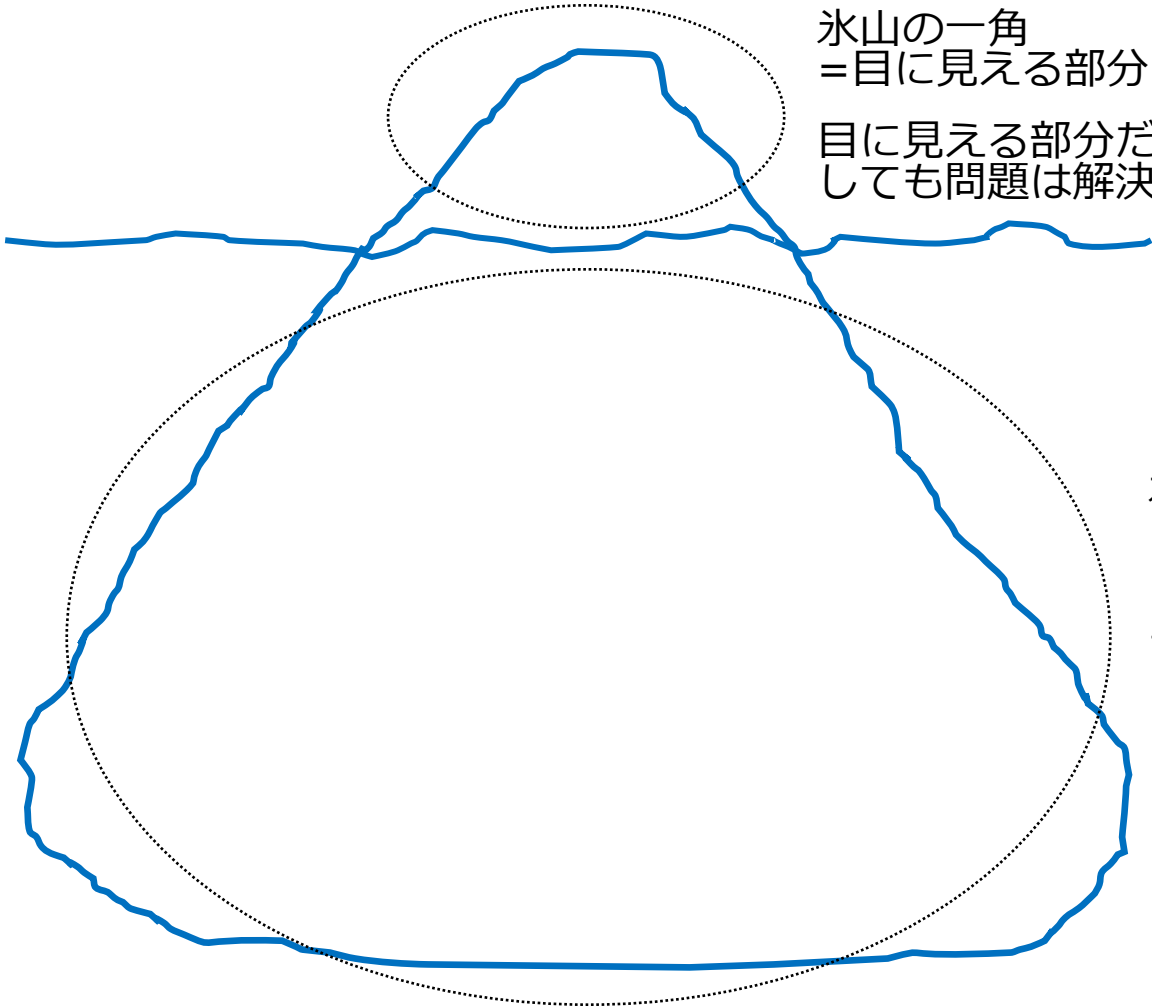
- ・ 障害特性に基づくアセスメント



- i) 氷山モデルについて
- ii) 課題となる行動の確認
- iii) 本人の特性を整理する
- iv) 行動に影響を与えている環境や状況を整理する
- v) 必要なサポートを整理する

i) 氷山モデルについて

行動の背景を知るための「冰山モデル」



The diagram illustrates the iceberg model of behavior. A solid blue line represents the visible part of the iceberg above the water surface. A dotted line represents the much larger, submerged part of the iceberg below the surface. A horizontal line indicates the water level. A small dotted circle highlights a peak of the visible part, while a larger dotted circle encompasses the entire submerged part.

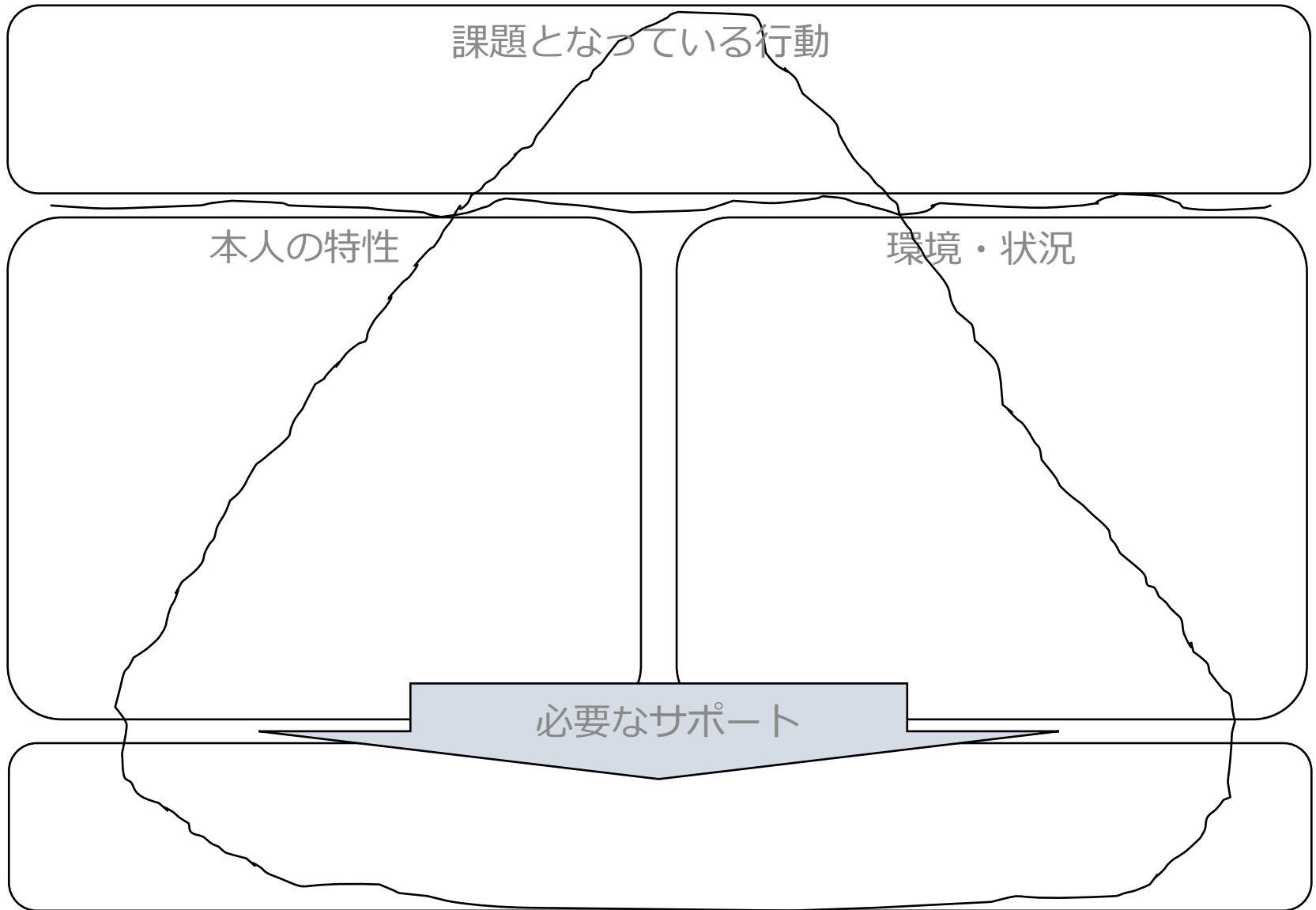
氷山の一角
=目に見える部分

目に見える部分だけに対応を
しても問題は解決しない。

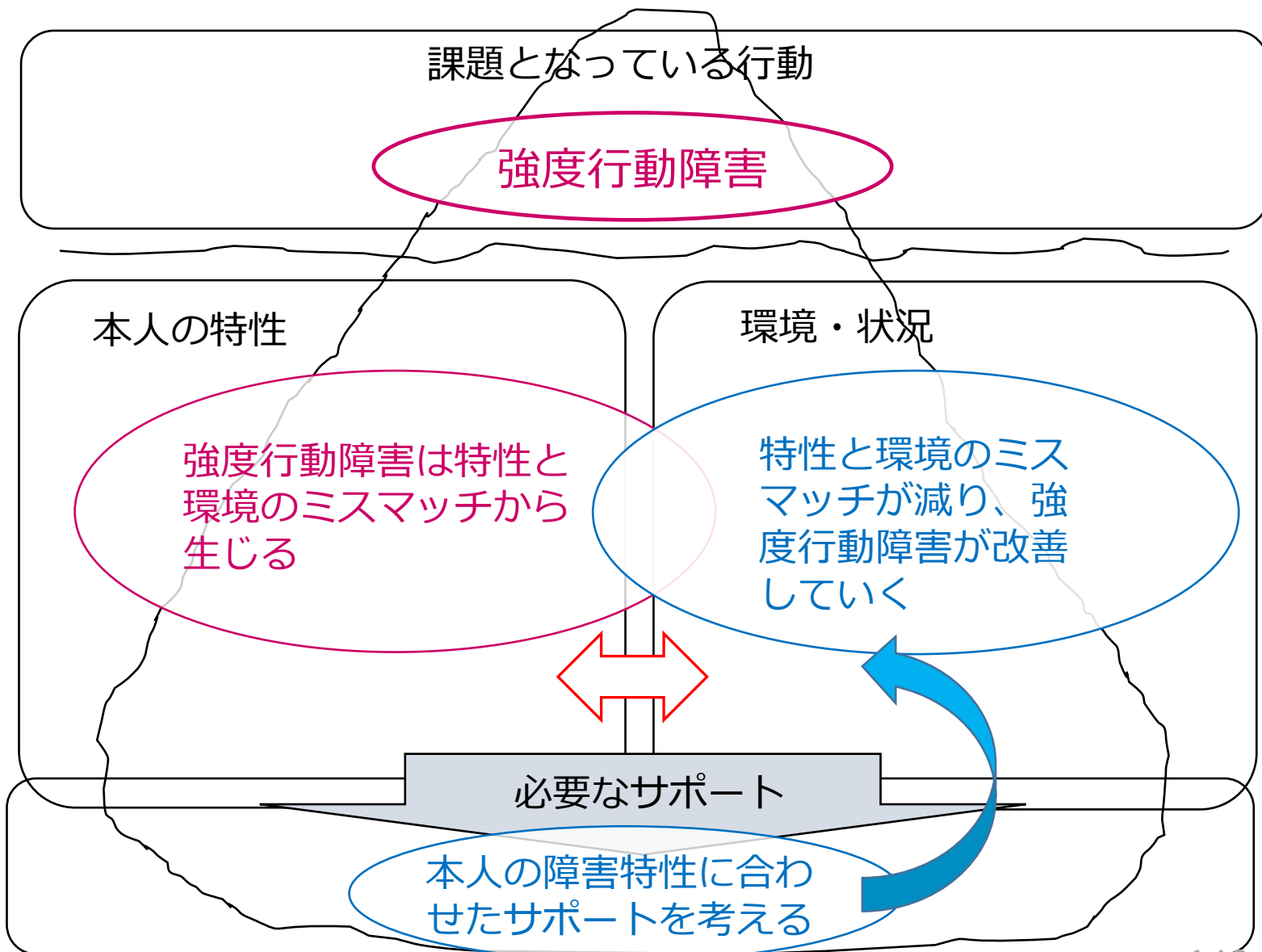
水面下に大きな塊がある
=目に見えない部分

目に見えない部分を理解して
アプローチすることで、表面
に出ている問題が小さくなる。

冰山モデルシート



氷山モデルシート



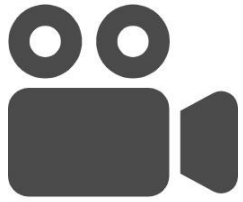
ii) 課題となる行動の確認

課題となる行動の表出

お出かけが気になって、田中さんはなかなか作業ができません。

田中さんに作業をしてもらうために、職員も懸命に働きかけています。

ある時、お出かけが気になる田中さんを職員が制止しようとする、田中さんは大きな声をあげて飛び跳ねながら自分の顔を叩いてしまいました。



動画の視聴

行動チェックシート の追加

行動チェックシート

ワークシート③

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	支援者が話しかけても支援者の方を向かない 支援者が作業をするようにはたらかけても動かない、水遊びに行く、「お出かけ」と言って歩き出す
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	✓	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	支援者が「作業をしましょう」と言っても座っている 支援者が「作業をしましょう」と言うと水遊びに行く 「作業をしましょう」と言われて「作業」と繰り返す 「お出かけ」と言って立ちあがる、歩きだす 「お出かけ」という言葉だけで自分の気持ちを伝えようとしている
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）	✓	
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		部屋に入るとイスに座ってじっとしている
		チ: 自分から動くことができない	✓	
		ツ: 予定の変更で混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	✓	
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	常に耳をふさいでいる キラキラした刺激が好き（基本情報より） 水道の水を長時間触っている
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

行動チェックシートの追加

行動チェックシート

記入例

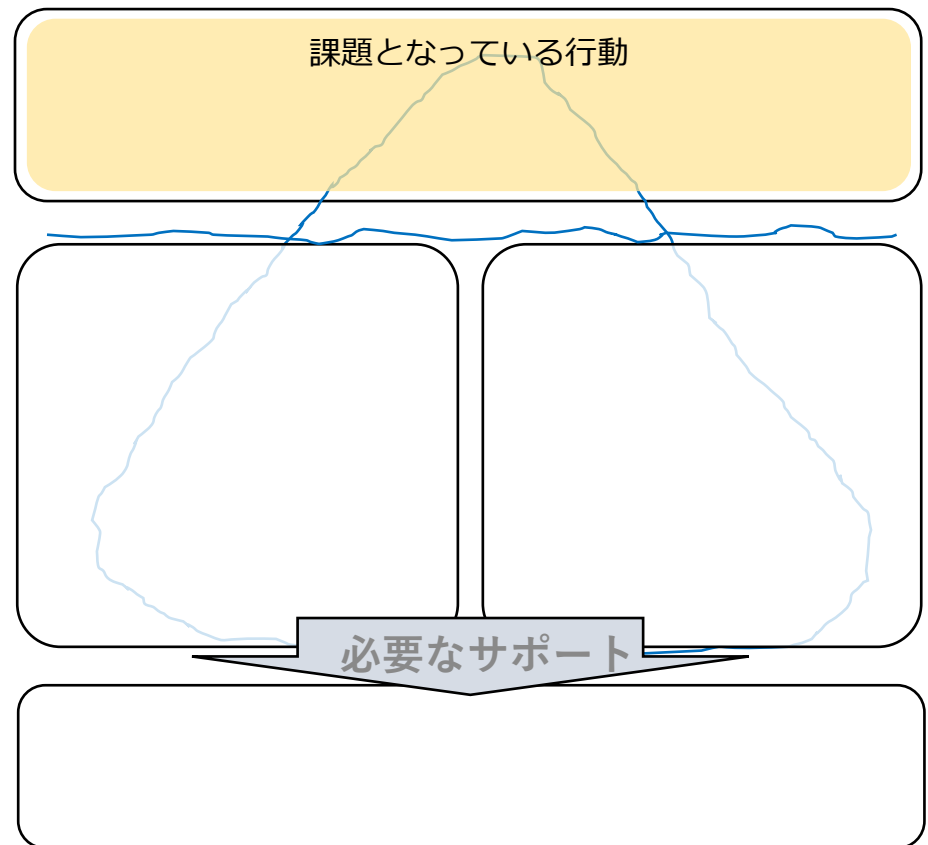
		例	✓	本人の具体的な行動
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	支援者が「作業をしましょう」と言っても座っている
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	支援者が「作業をしましょう」と言うと水遊びに行く
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）	✓	「作業をしましょう」と言われて「作業」と繰り返す
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	「お出かけ」と言って立ちあがる、歩きだす 支援者から止められて作業中に自傷をする
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	「お出かけ」という言葉だけで自分の気持ちを伝えようとしている
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

「行動チェックシート」の中から課題となっている行動を確認します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）		
	発音が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やりとりが難しい	ス: やりとりが合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにクワクワしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更で混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 目標が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
	感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を犬音、鳥にする、などの行動がある	
ハ: 乾しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある				
ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある				
フ: 辛い食べ物、刺激の強い味を好み、同じものばかりを食べる、など行動がある				
ヘ: 特定の臭いを嫌がる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある				
ホ: クールル回る、ロッピングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある				

冰山モデルシート



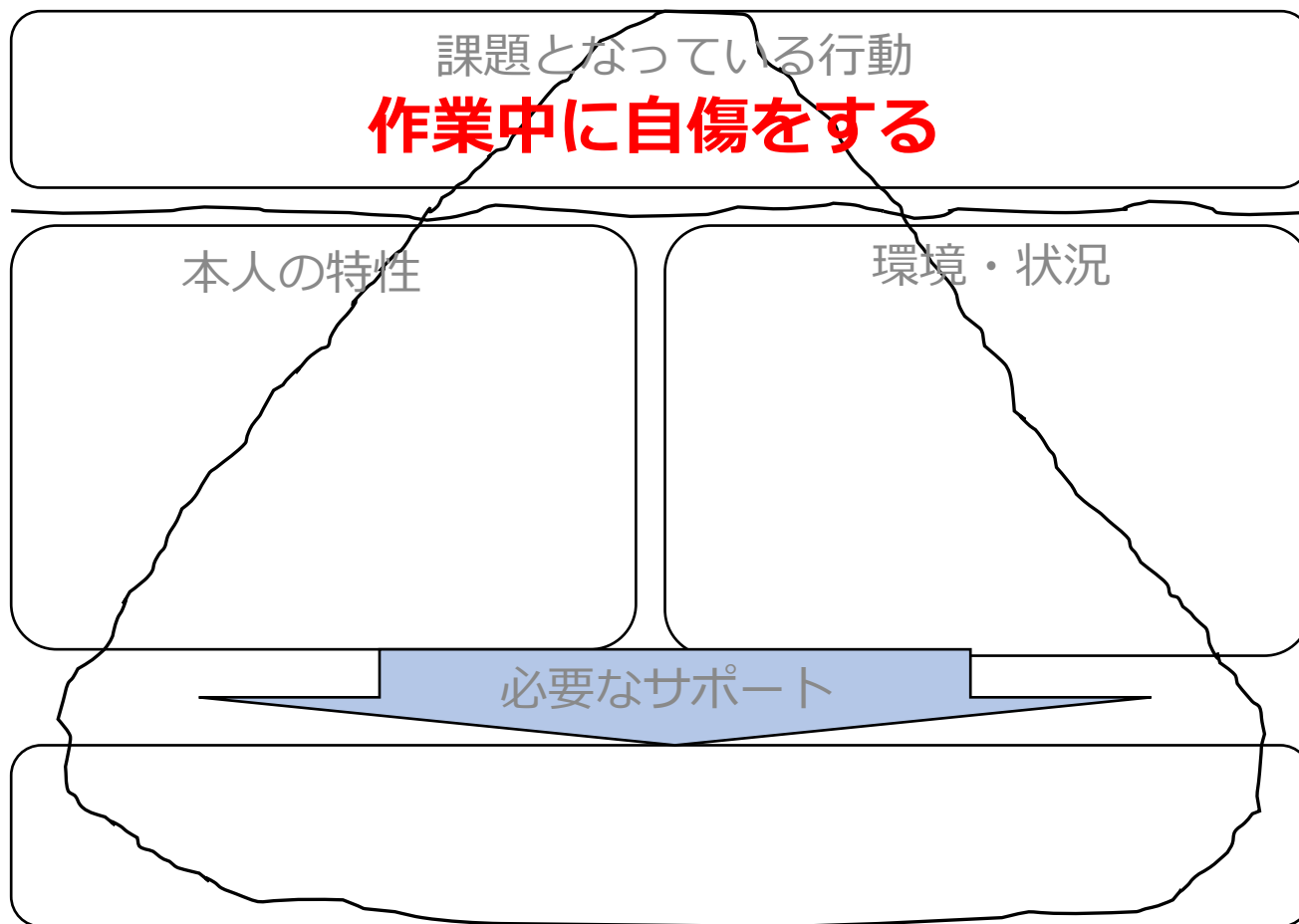
		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	支援者が話しかけても支援者の方を向かない 支援者が作業をするようにはたらかけても動かない、水遊びに行く、「お出かけ」と言って歩き出す
		イ: 人との関わりが一面的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	✓	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	支援者が「作業をしましょう」と言っても座っている 支援者が「作業をしましょう」と言うとき水遊びに行く 「作業をしましょう」と言われて「作業」と繰り返す 「お出かけ」と言って立ちあがる、歩きたす支援者から止められて作業中に自傷をする 「お出かけ」という言葉だけで自分の気持ちを伝えようとしている
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）	✓	
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		部屋に入るとイスに座ってじっとしている
		チ: 自分から動くことができない	✓	
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	✓	
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	常に耳をふさいでいる キラキラした刺激が好き（基本情報より） 水道の水を長時間触っている
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好み、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

「お出かけ」と言って立ち上がる、歩き出す、支援者から止められて
作業中に自傷をする

今回は、この行動に対応する支援手順書を作っていきます

。

氷山モデルを使って田中さんの行動を整理します。



課題となっている行動

1. 自分自身の生命あるいは健康に著しい危険を与える行動
2. 周囲の人あるいは状況に著しい危険ないし混乱を与える行動
3. 自分自身の意味ある活動への参加や学習を著しく妨げる行動

以上3つの条件のうち少なくともひとつに該当する行動と言われる。

参考文献『発達障害児の問題行動その理解と対応マニュアル』志賀利一

1. 自分自身の生命あるいは健康に著しい危険を与える行動
→自傷で田中さんがケガをするかもしれない
2. 周囲の人あるいは状況に著しい危険ないし混乱を与える行動
→大声を聞いた他の利用者が恐怖を感じるかもしれない
→支援者も恐怖を感じるかもしれない
3. 自分自身の意味ある活動への参加や学習を著しく妨げる行動
→作業ができなくなるかもしれない

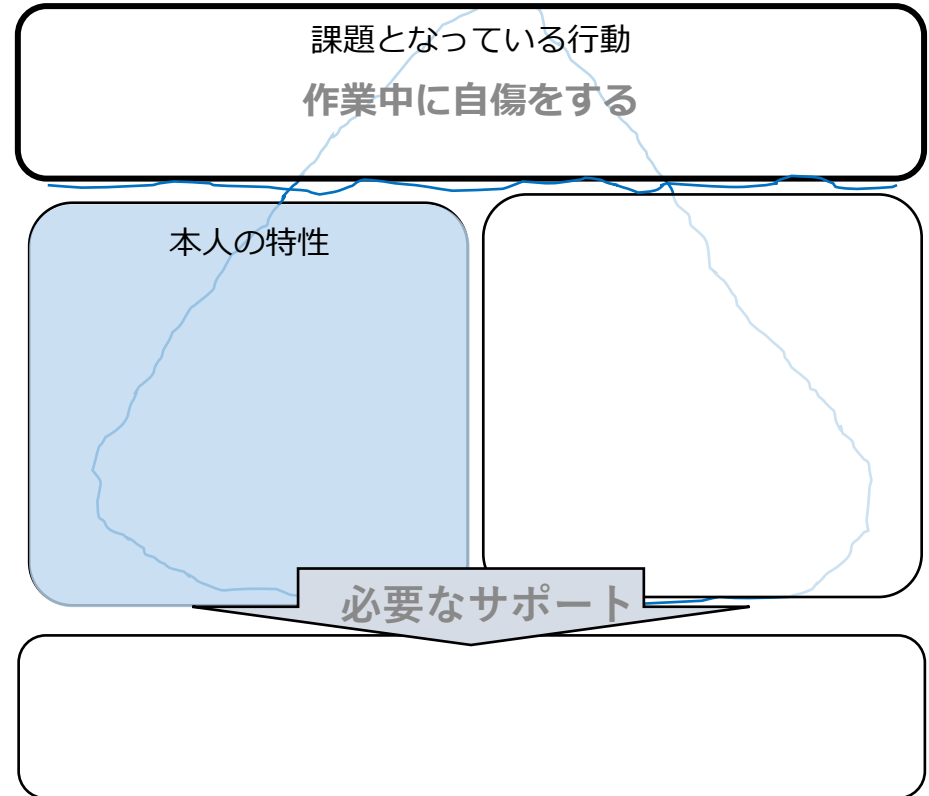
iii) 本人の特性を整理する

「特性確認シート」を使って本人の特性を整理します

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
		4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
	状況の理解が難しい	5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点)
		8) 一度にたくさんのことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	E) 本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点)
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない	
		12) 誰に伝えていいかわからない	
やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)	
	14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい		
	15) やりとりの量が多いと処理が難しい		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点・場所の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	I) 活動に興味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点)	
	23) 細部が気になり濃くに敏感		
	24) 少しの違いで大きな不安を感じる		
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍感がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍感がある	
		27) 触覚の過敏や鈍感がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍感がある	
		29) 味覚の過敏や鈍感がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

氷山モデルシート



課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷する 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	✓
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	
		8) 一度にたくさんのかたを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
		11) どのようにして伝えたいのか分からない	
		12) 誰に伝えていいか分からない	
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	
		23) 細部が気になり違いに敏感	
24) 少しの違いで大きな不安を感じる			
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

田中さんが作業中に自傷をする理由を考えます

個人ワーク | 本人の特性を整理する

1. 特性確認シートで「作業中に自傷をする」
に
関係する特性をピックアップします。
2. 氷山モデルシートの本人の特性の欄に転記
します。

田中さんが作業中に自傷をする背景と考えられる特性にチェックを入れてみましょう

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	汲み取ってもらう、察してもらうではなく、 A) 具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) C) ように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	

＜次のような仮説を立てながらチェックを入れます。＞

「相手への関心が薄い」**ので**、
 「支援者の指示に注目しにくかった」**かもしれない**。

田中さんが作業中に自傷をする背景と考えられる特性にチェックを入れてみましょう

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動） 『 作業中に自傷する 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点） E) 本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点） F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする（やりとりの視点・見え方の視点）
		8) 一度にたくさんのことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない	
		12) 誰に伝えていいかわからない	
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい	

田中さんが作業中に自傷をする背景と考えられる特性にチェックを入れてみましょう

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える (時間の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする (時間の視点・場所の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする (方法の視点)
		23) 細部が気になり違いに敏感	
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる	

田中さんが作業中に自傷をする背景と考えられる特性にチェックを入れてみましょう

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
感 覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする (場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する (場所の視点)
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

グループワーク | 本人の特性を整理する

1. 司会・記録・発表を決めます
2. 「作業中に自傷をする」に関係する特性をグループで共有します
※「冰山モデルシート(グループ用)」に記入

記入例

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』

		背景となる特性		支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	✓	汲み取ってもらう、察してもらうではなく、 A) 具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える (見え方の視点・やりとりの視点) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかる C) ように伝える (方法の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	✓	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい		
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い		
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい		
		6) 見えないものの理解が難しい	✓	

記入例

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動） 『 作業中に自傷する 』

		背景となる特性		支援のアイデア
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	✓	D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点）
		8) 一度にたくさんのかを理解するのが難しい		
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい		
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい		E) 本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点）
		11) どのようにして伝えたいか分からない	✓	
		12) 誰に伝えていいか分からない		
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい		F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする（やりとりの視点・見え方の視点）
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい		
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい		

記入例

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』

		背景となる特性		支援のアイデア
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	✓	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える (時間の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい		
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	✓	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい		H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする (時間の視点・場所の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい		
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい		
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	✓	I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする (方法の視点)
		23) 細部が気になり違いに敏感		
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる		

記入例

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』

		背景となる特性		支援のアイデア
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	✓	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする (場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある		
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある		
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある		L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する (場所の視点)
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある		
		30) 前庭覚の特有の感覚がある		

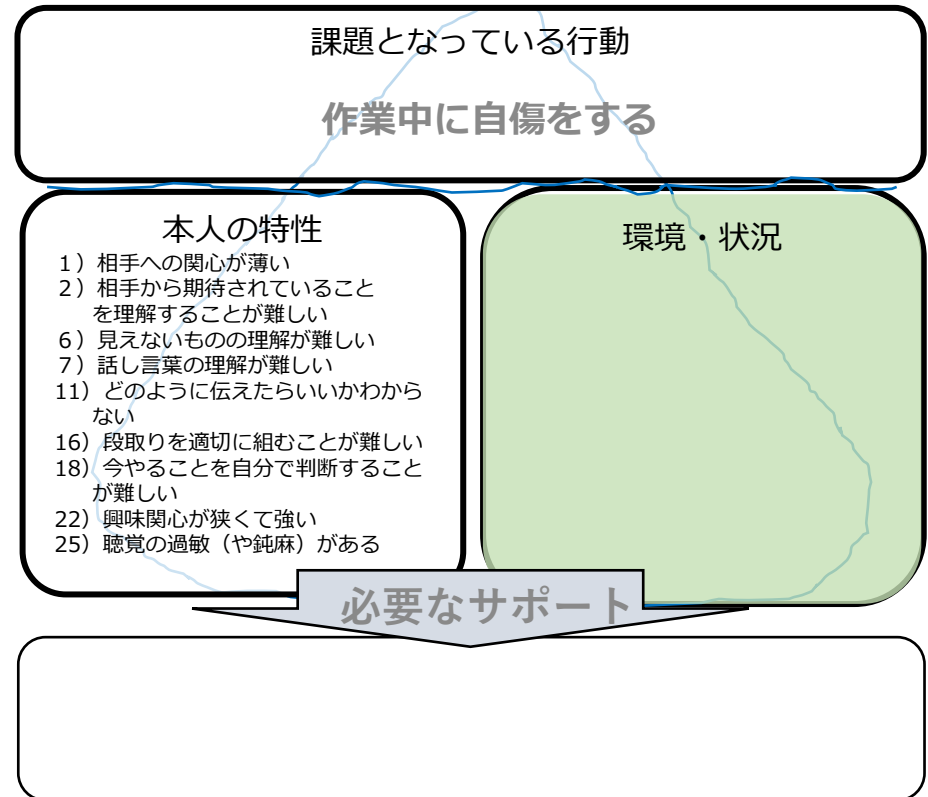
iv) 行動に影響を与えている
環境や状況を整理する

「環境確認シート」を使って行動に影響を与えている環境や状況を整理します

環境確認シート

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（言葉・指差し・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	
物	見ると勘違いするような物がありますか 見ると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていませんか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感覚などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうなったら終わるのかなど）は理解できていますか その他	
音	その場所にはどんな音がしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
気温	その場所の気温は何度くらいでしたか（あるいは暑かった・寒かった等） その気温は本人にとって快適なものですか	
湿度	その場所の湿度は何%くらいでしたか（あるいは蒸していた・乾燥していた等） その湿度は本人にとって快適なものですか	
臭い	その場所にはどんな臭いがありましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	

氷山モデルシート



次のような項目を確認しながら、田中さんの行動に関わりがありそうな具体的な環境を記入します

環境確認シート

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（言葉・指さし・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	
物	見ると勘違いするような物がありますか 見ると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感触などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうなったら終わるのかなど）は理解できていますか その他	

次のような項目を確認しながら、田中さんの行動に関わりがありそうな具体的な環境を記入します

環境確認シート

項目	環境確認の視点	具体的な環境
音	その場所にはどんな音がしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
気温	その場所の気温は何度くらいでしたか（あるいは暑かった・寒かった等） その気温は本人にとって快適なものですか	
湿度	その場所の湿度は何%くらいでしたか（あるいは蒸していた・乾燥していた等） その湿度は本人にとって快適なものですか	
臭い	その場所にはどんな臭いがしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	

個人ワーク | 環境や状況を整理する

1. 環境確認シートで「作業中に自傷をする」
ときの環境や状況を書き出します。
2. 冰山モデルシート of 環境・状況の欄に転記
します。

グループワーク | 環境や状況を整理する

1. 「作業中に自傷をする」ときの環境や状況をグループで共有します

※氷山モデルシート（グループ用）に記入

記入例

環境確認シート

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（言葉・指さし・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	支援者は言葉で指示を出している
物	見ると勘違いするような物がありますか 見ると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	作業の道具が準備されていない
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	近くに水遊びができる場所がある
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感触などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうしたら終わるのかなど）は理解できていますか その他	今何をしたらいいかはっきりわかりにくい いつお出かけに行くのかわかりにくい

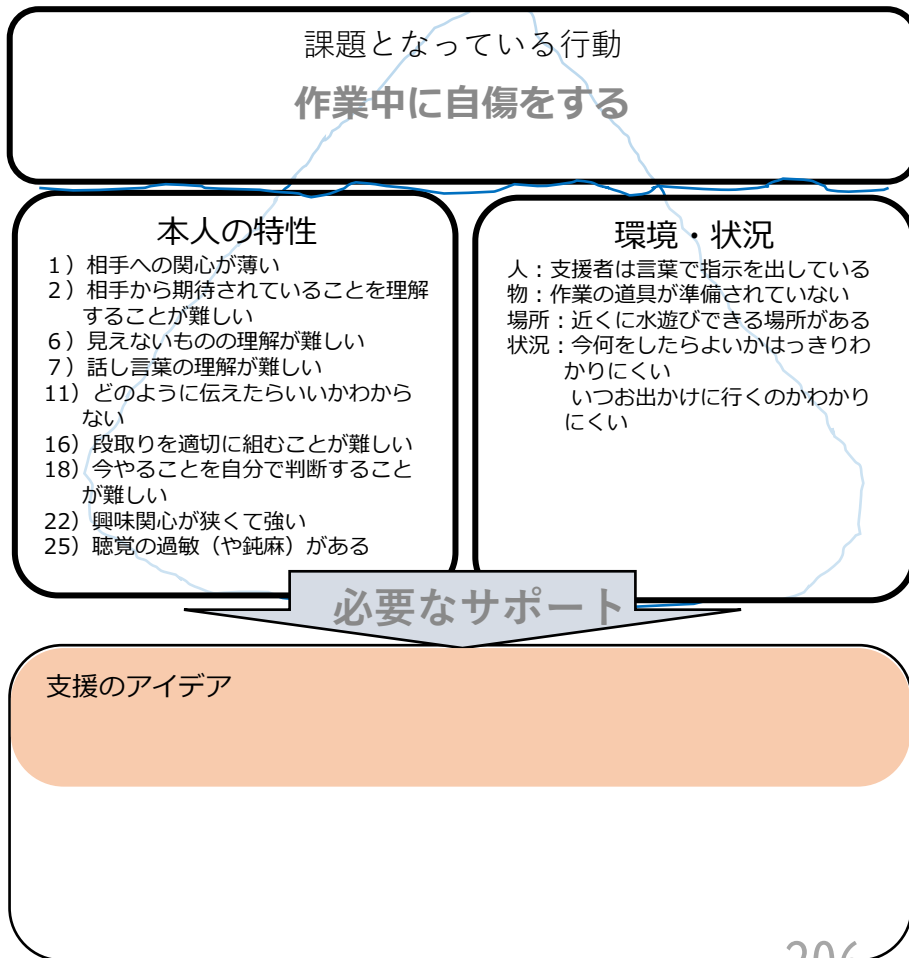
V) 必要なサポートを整理する

必要なサポートを「特性確認シート」の「支援のアイデア」を使って整理します

特性確認シート

課題となっている行動 (本人が困っている行動) 『 』		
	背景となる特性	支援のアイデア
社会性	1) 相手への関心が薄い	汲み取ってもらう、察してもらうではなく、 具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) A) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える (見え方の視点・やりとりの視点) B) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える (方法の視点・やりとりの視点) C)
	2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
	3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
	5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
	6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報 (文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など) で伝える (やりとりの視点・見え方の視点) E) 本人が発信しやすいツールを (文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など) 提供する (やりとりの視点・見え方の視点) F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする (やりとりの視点・見え方の視点)
	8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい	
	9) 抽象的であまいな表現の理解が難しい	
	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
	11) どのようにして伝えたいかわからない	
	12) 誰に伝えていいかわからない	
想像力	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える (時間の視点) H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする (時間の視点・場所の視点)
	14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
	15) やりとりの量が多いと処理が難しい	
感覚	16) 段取りを適切に組むことが難しい	I) 活動に興味や目的を持つことができる工夫をする (方法の視点) J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする (方法の視点) K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする (場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する (場所の視点)
	17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
	18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	19) 先の予測をすることが難しい	
感覚	20) 臨機応変に判断することが難しい	21) 活動に興味や目的を持つことができる工夫をする (方法の視点) 22) 興味関心が狭くて強い 23) 細部が気になり違いに敏感 24) 少しの違いで大きな不安を感じる 25) 聴覚の過敏や鈍麻がある 26) 視覚の過敏や鈍麻がある 27) 触覚の過敏や鈍麻がある 28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある 29) 味覚の過敏や鈍麻がある 30) 前庭覚の特有の感覚がある
	21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	22) 興味関心が狭くて強い	
	23) 細部が気になり違いに敏感	
	24) 少しの違いで大きな不安を感じる	
	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	
	26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
	27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
	28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
	29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
30) 前庭覚の特有の感覚がある		

氷山モデルシート



田中さんの行動の背景となる特性に対応した支援のアイデアをピックアップします。

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』			
	背景となる特性	支援のアイデア	
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点) D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察するのが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解するのが難しい	
		6) 見えないうもの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	E) 本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点) F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)
		8) 一度にたくさんのごことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
		11) どのようにして伝えたいかわからない	
		12) 誰に伝えていいかわからない	
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点) H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点・場所の視点) I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点) J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点)
		17) なんとなく、たいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	
		23) 細部が気になり違いに敏感	
24) 少しの違いで大きな不安を感じる			
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

個人ワーク | 支援のアイデアを整理する

1. 特性確認シートで「作業中に自傷をする」背景となる特性に対応する支援のアイデアをピックアップします。
2. 氷山モデルシートの支援のアイデアの欄に転記します。

グループワーク | 支援のアイデアを整理する

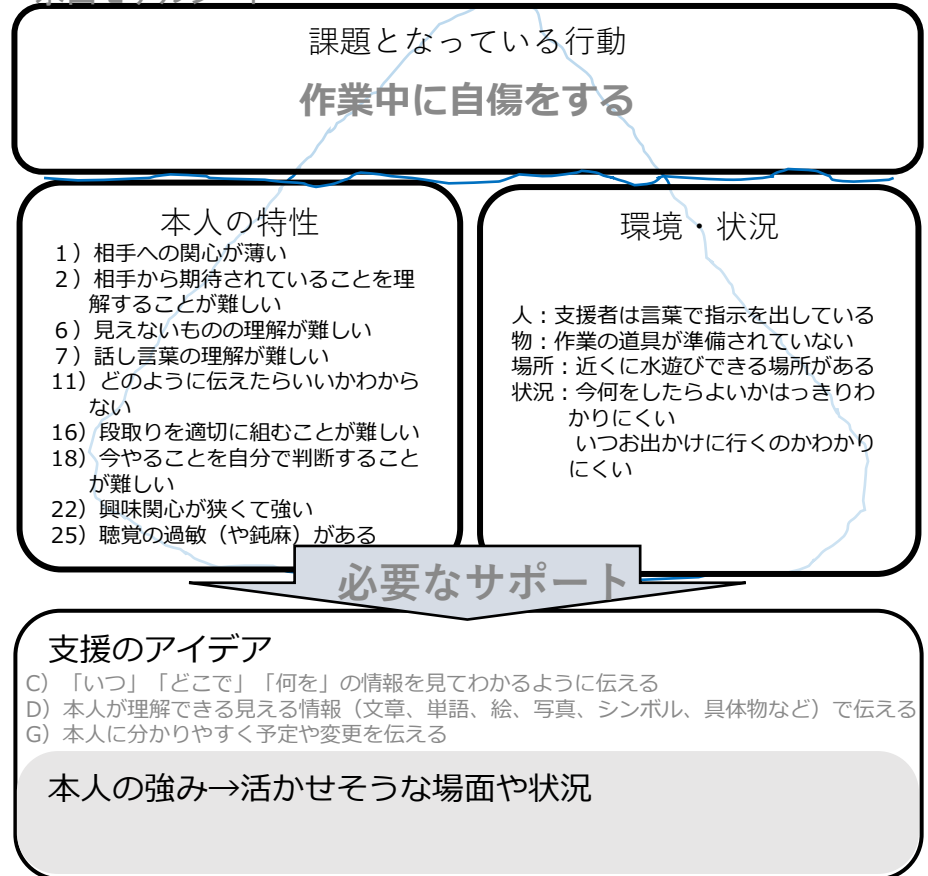
1. 「作業中に自傷をする」に関係する特性に対応する支援のアイデアをグループで共有します
※氷山モデルシート（グループ用）に記入

さらに「強み（ストレングス）確認シート」 を使って具体化します

強み(ストレングス)確認シート

本人の強み（ストレングス）	活かせそうな場面や状況
<p>わかること・できること</p> <p>例) なくはったら終わり、ペットボトルのふたを開ける ハサミを使うのが上手 など</p>	
<p>好きなこと（遊び方、過ごし方、キャラクターなど） やりたがること</p> <p>例) ハンモグで揺れる ○○のキャラクター ヒックリはまる 色を合わせる</p>	
<p>得意なこと（これには助けられているなど） 見方を変えれば得意かもしれないこと</p> <p>例) 目的がわかれば待つことができる 変更は苦手だがいつもと同じことはできる</p>	
<p>その他</p>	

氷山モデルシート



「強み」(ストレングス)とは

支援をするときに活かせそうな、本人の能力や環境

※ストレングスモデル

その人が元来持っている強さに注目し、それを引き出して活用していこうとする考え方

障害特性も「リフレーミング」により強みになる場合もある。

(参考) リフレーミング

ある枠組み（フレーム）で捉えられている物事を、
枠組みをはずして違う枠組みで見ること

今までの考えとは「解釈を変える・視点を変える」

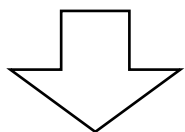
「違った角度からアプローチする」ことにより、誰もが潜在的に持っている能力を使って、意図的に自分や相手の生き方を健全なものにし、ポジティブなものにしていく。

リフレーミングの例

「水をどのくらい飲めましたか？」

【ポジティブ】

半分も飲めている

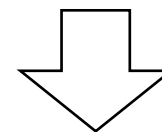


「あと少しで飲み終わりますね。」
「頑張ってますね。」



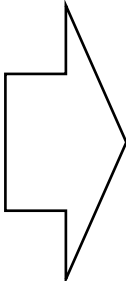
【ネガティブ】

半分しか飲めていない



「全然飲めていない
ですね。」
「早く飲んでください
いよ。」

リフレーミングの例

- 動作が遅い
 - 大雑把
 - 頑固、融通がきかない
 - 気が散りやすい
 - 自己中心的
 - 心配性
 - 自分勝手
 - 作業が雑
 - 集団で行動できない
 - 飽きっぽい
 - しつこい
 - 人に流されやすい
- 
- 一つ一つ丁寧にできる
 - 小さいことが気にならない
 - 強い意志を持っている
 - 好奇心旺盛
 - 自分のことを大切にできる
 - 先のことを予測できる
 - 主体的に行動できる
 - 大まかなことはできる
 - 1人で行動できる
 - 気持ちの切り替えが早い
 - ねばり強い
 - 状況把握ができています

リフレーミングの考え方の大切さ

リフレーミングは、問題、課題への対応方法を考えるときに用いることが多い。

問題・課題解決において

- ① 「できない理由」ではなく「どうやったらできるか」を考えるようになる
- ② その人自身を変えようとするのではなく、環境、支援方法を変えるようになる
- ③ ピンチをチャンスに変える思考習慣が身につく

本人の強み（ストレングス）と活かせそうな場面や状況を書き出します

強み（ストレングス）確認シート

本人の強み（ストレングス）	活かせそうな場面や状況
<p>わかること・できること 例) なくなったら終わり、ペットボトルのふたを開ける ハサミを使うのが上手 など</p>	
<p>好きなこと（遊び方、過ごし方、キャラクターなど） やりたがること 例) ハンモックで揺れる ○○のキャラクター ビックリはまる 色を合わせる</p>	
<p>得意なこと（これには助けられているなど）見方を変えれば得意かもしれないこと 例) 目的がわかれば待つことができる 変更は苦手だがいつもと同じことはできる</p>	
<p>その他</p>	

個人ワーク | 強み（ストレングス）を整理する

1. 強み（ストレングス）確認シートで、本人の強み（ストレングス）と活かせそうな場面や状況を書き出します。
2. 冰山モデルシートの本人の強み→活かせそうな場面や状況の欄に転記します。

グループワーク | 強み（ストレングス）を整理する

1. 本人の強み（ストレングス）と活かせそうな場面や状況をグループで共有します

※氷山モデルシート（グループ用）に記入

記入の仕方

本人の強み（ストレングス） →活かせそうな場面や状況

発 表

1. 記入した氷山モデルの内容を発表します

記入例

課題となっている行動

作業中に自傷をする

(本人の特性)

- 1) 相手への関心が薄い
- 2) 相手から期待される行動を理解することが難しい
- 6) 見えないものの理解が難しい
- 7) 話し言葉の理解が難しい
- 11) どのようにして伝えたらいいかわからない
- 16) 段取りを適切に組むことが難しい
- 18) 今やることを自分で判断することが難しい
- 22) 興味関心が狭くて強い
- 25) 聴覚の過敏（鈍麻）がある

(環境・状況)

人：支援者は言葉で指示を出している
物：作業の道具が準備されていない
場所：近くに水遊びができる場所がある
状況：今何をしたらいいかわかりにくい
状況：いつお出かけに行くのかわかりにくい

必要なサポート

(支援のアイデア)

- C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える
- D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える
- G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える

(本人の強み→活かせるような場面や状況)

- ・作業の机に座ることができる → ・やることを分かりやすくすれば座って作業ができないか
- ・同じマークを見ると重ねることができる → ・活動を伝えるときにマークを活用できないか
- ・キラキラするものが好き → ・好きな活動を楽しみに他の活動に取り組むことができないか

まとめの講義

1. 強度行動障害が現れている方への支援は、アセスメントに基づいた本人の障害特性を理解して、根拠のある支援を組み立てることが基本です。
2. アセスメントは、本人の障害特性だけでなく、環境や状況も含めて行うことが重要です。

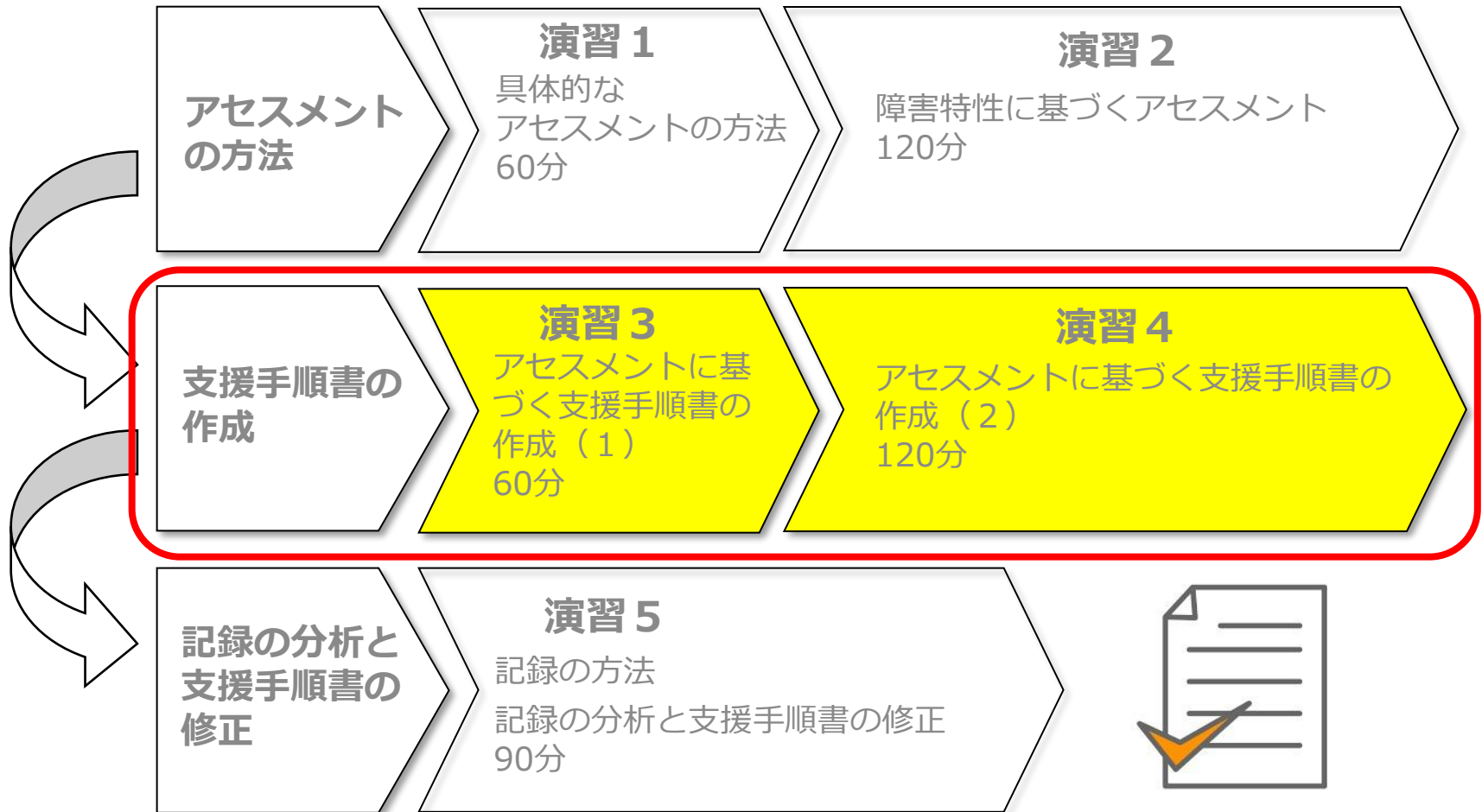
手順書の作成

- ・ アセスメントに基づく支援手順書の作成（1）
- ・ アセスメントに基づく支援手順書の作成（2）

この時間で学ぶこと

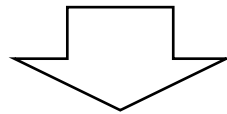
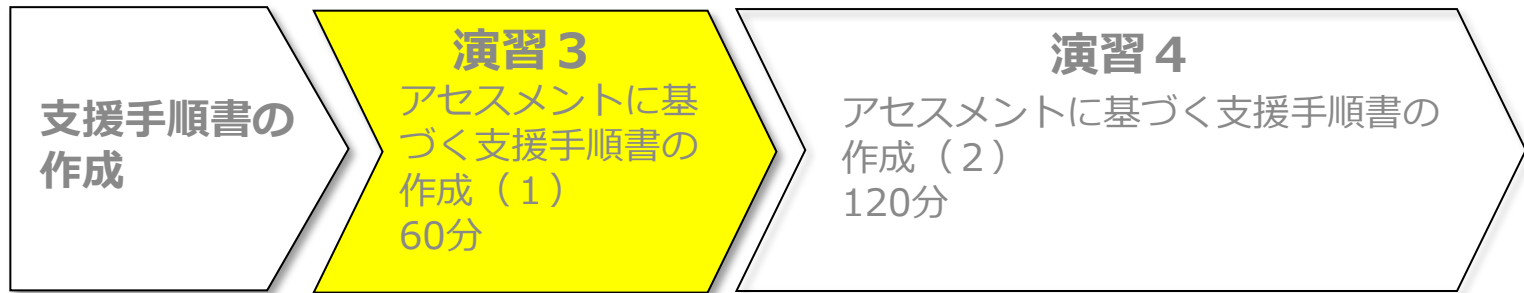
- この時間では、支援者が統一した支援を実施するために必要な、障害特性に合わせた支援手順書の作成方法を学びます。

演習の流れ



手順書の作成

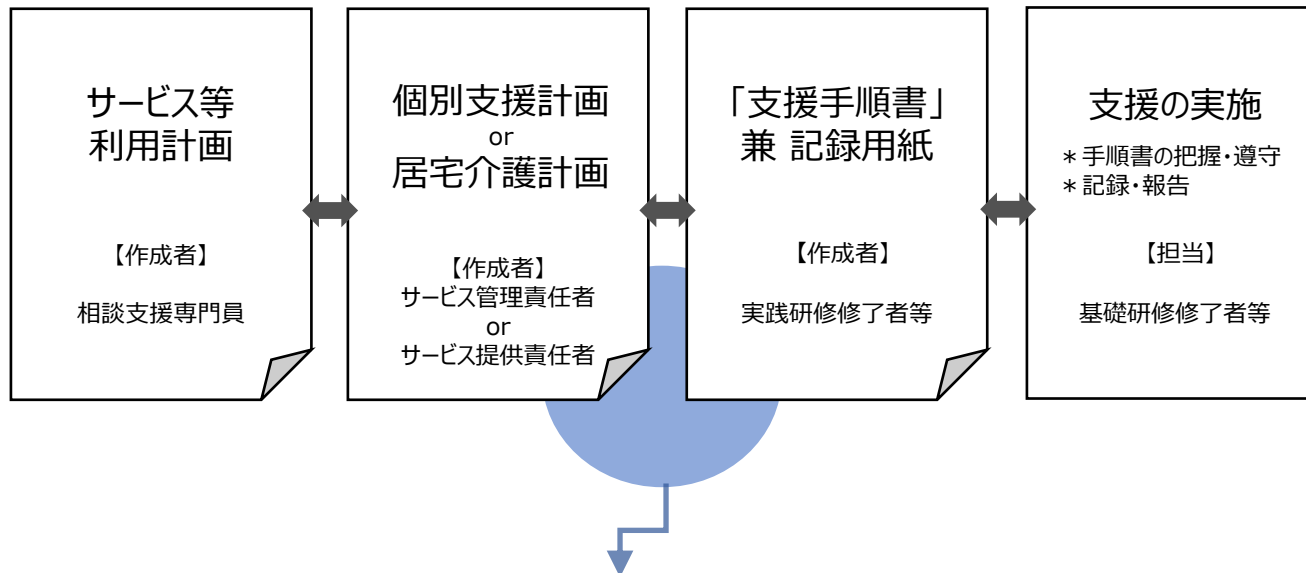
- ・ アセスメントに基づく支援手順書の作成（1）



- i) 支援手順書について
- ii) 支援手順書の作成
 - 氷山モデルの完成
 - 活動の手順を決める

i) 支援手順書について

個別支援計画と支援手順書の関係

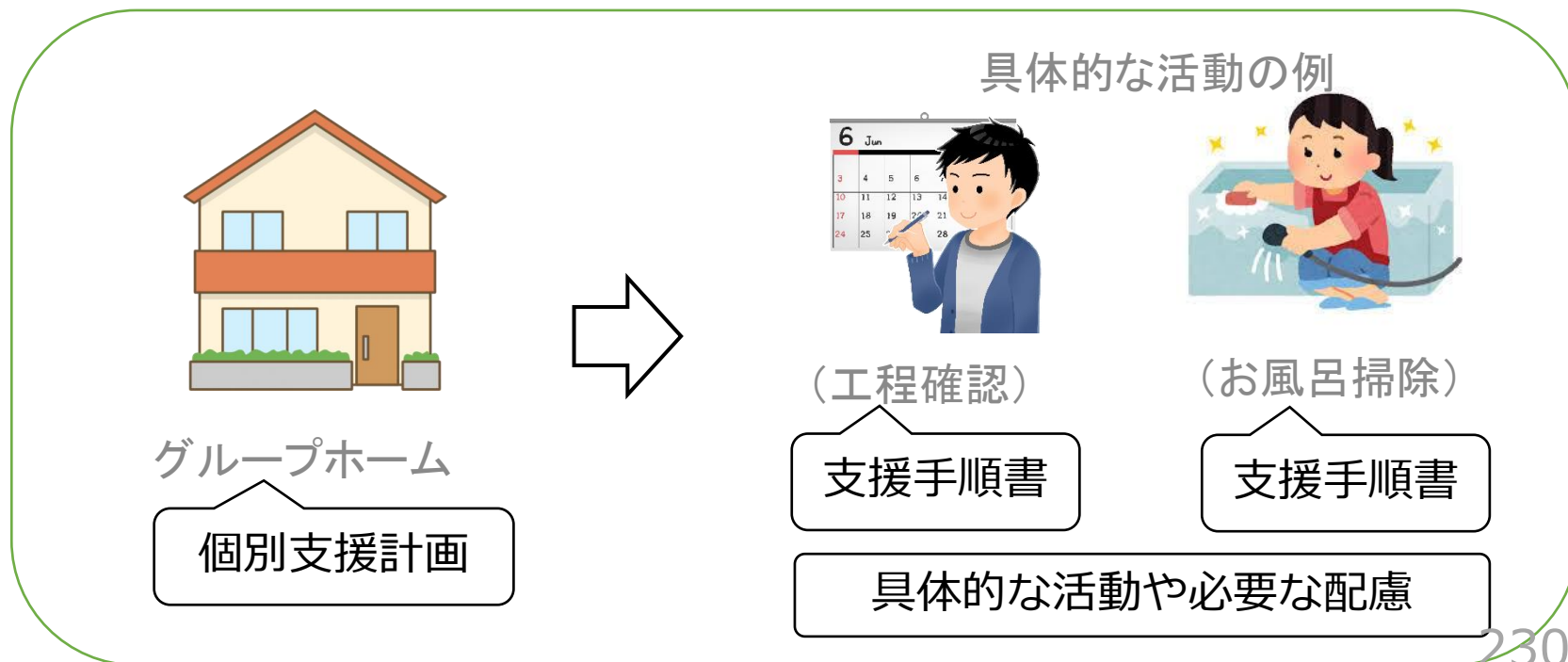


強度行動障害の支援においては、個別支援計画や居宅支援計画といった大まかな支援内容では、適切な支援を行うことが難しい。障害特性に配慮した留意点を整理し、日々の日課や各活動の詳細を決め、時間単位で各活動をどのような流れで行っていくかを詳細に記した「支援手順書」が必要となる。

支援手順書

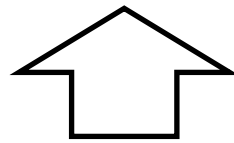


個別支援計画の内容から、具体的な活動とその工程・必要な配慮の方法などをその人に合わせて詳細に記入したもの



現場で支援を実施するときには、支援手順書に沿って支援することが大切

= 本人の特性に合わせた統一した支援



現場で支援する人が統一して支援ができるように、根拠があり、分かりやすい支援手順書を作成することが大切

田中さんのサービス等利用計画

サービス等利用計画

利用者氏名(児童氏名)	田中正則さん	障害支援区分	区分6	相談支援事業者名	〇〇相談支援事業所			
障害福祉サービス受給者証番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	利用者負担上限額	0円	計画作成担当者	〇〇〇〇			
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号						
計画作成日	〇年△月〇日	モニタリング期間(開始年月)	3ヶ月(次回:〇年〇月)	利用者同意署名欄				
利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)	グループホームで暮らしながら、自分の望む生活を送りたい。 週末は、外出をして好きなところにてかけたり、公園で遊んだり、買い物をしたいと思っています。							
総合的な援助の方針	本人が落ち着いて活動できるように、環境を整えながら自分から積極的に活動できるように手伝います。							
長期目標	自分で予定を理解し、グループホームで自分らしい生活がおくれるようになる。							
短期目標	気になることがあるとずっと続けてしまったり、思うように活動できないとパニックになってしまうので、落ち着いて活動できるようになりたい。							
優先順位	解決すべき課題(本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等		課題解決のための本人の役割	評価時期	その他留意事項
				種類・内容・量(頻度・時間)	提供事業者名(担当者名・電話)			
1	平日、毎日通い安定した生活リズムを維持しながら、仕事をがんばりたい。	無理すぎない程度に仕事を設定して、1日の日中の活動リズムを組み立て生活する。	6ヶ月	生活介護 ー8日/月 10:00-16:00 軽作業、余暇活動など	〇〇生活介護 担当:Aさん 電話:〇〇-△△△△	決めた日程に沿って活動し、落ち着いて過ごせるようなリズムを整えていく。	3ヶ月	落ち着かない時は、原因を分析しながら、本人がわかりやすい環境などを整えてください。
2	不安な気持ちを和らげ穏やかに生活を送りたい。	落ち着いて活動できるような環境を作りながら、安心して暮らせるようになる。	3ヶ月	生活介護 ー8日/月 共同生活援助	〇〇生活介護 担当:Aさん グループホーム△△ 担当Bさん	不穏になった時に、何が原因なのか表現できるように環境や道具を揃えていく。	3ヶ月	不安なことを伝えられない様子がありましたら、環境設定をお願いします。
3	休みの日は、外に出かけて、楽しく過ごしたい。	休日で天気の良い日は、外出し好きなところ遊びに行く。	6ヶ月	行動援護 40時間/月 (週休2日のうち、どちらか)	ヘルパーステーション □□□ 担当:Cさん	遊びたい事などを、順番や時間を決めて、楽しめるようになる。	3ヶ月	好きな事はやり続けてしまうことがあるので、気をつけながら楽しく過ごせるように支援をお願いします。
4	困ったことがあって、普段関わる人に相談しづらい時に相談したい。	自分では解決できない悩みや疑問を気軽に相談できるように。	6ヶ月	計画相談	〇〇相談支援事業所	定期的に訪問してもらった時などに、不安な事があったら相談する。	6ヶ月	定期訪問以外の時に話したいような訴えがあった場合は、職員を通じて連絡をください。

田中さんの個別支援計画

生活介護事業所□□□

個別支援計画

利用者氏名: 田中正則さん

○年○月○日

サービス等利用計画の総合的な援助の方針	本人が落ち着いて活動できるように、環境を整えながら自分から積極的に活動できるように手伝います。
利用者及び家族の希望・ニーズ	予定を理解し、見通しをもって自分で活動できるようになりたい。
総合的な援助の方針	混乱しないよう環境を整え、わかりやすく予定や活動内容を伝え、自分で動けるように支援する。
長期目標	自分で予定を確認し、自分で活動内容を理解して動けるようになる。
短期目標	視覚的な手がかりを頼りにして、作業の時間を1人で最後までできるようにする。

具体的な到達目標及び支援計画等

具体的な到達目標	本人の役割	支援内容 (内容・留意点等)	支援期間 (頻度・時間・期間等)	担当者	優先順位
活動の流れを理解し取り組むことで見通せない不安を解消する	予定を確認して理解して動く	本人が理解できる予定の伝え方を見つけ、確実に伝わるように環境を整える。予定が理解できず、混乱することを減らし、活動に参加できるように工夫する。	1ヶ月ごとに状況を確認する(3ヶ月後にモニタリング会議を行う)	A	1
活動に取り組みやすくすることで、生活リズムを整える	作業をする場所に自分で移動し、わかる作業を最後まで行う	声かけをしなくても、理解して作業を始められるように環境を整える。声かけで混乱をさせないように気をつける。	作業時間に集中的に行う1ヶ月後に状況を確認する(6ヶ月後にモニタリング会議を行う)	A	2
外出を楽しみに活動できるようになる	外出の日程を理解し、外出を楽しむ	「おでかけ」という言葉や絵本の車で外出できると勘違いすることなく、どこを頼りにすればいつ外出があるのかわかるように工夫する。	月に2回程度3ヶ月後に状況を確認する	A	3

本人への説明

年 月 日

利用者氏名

サービス提供責任者名

ii) 支援手順書の作成

※今回使用するシートは支援手順書の一例です。
支援手順書に決まった様式はありません。

○氷山モデルの完成

補助シートを使って作成した氷山モデルを完成させます。

必要なサポートに記載した「支援のアイデア」と「強み（ストレングス）」を活かした支援の具体的な内容を考えます。

グループワーク | 必要なサポートの具体的な内容を考える

1. 必要なサポートの具体的な内容をグループ
で話し合います

※氷山モデルシート（グループ用）に記入

課題となっている行動
作業中に自傷をする

本人の特性

環境・状況

「支援のアイデア」や「活かせそうな強み」の内容を根拠にして具体的なサポートの方法を記入する。

必要なサポート

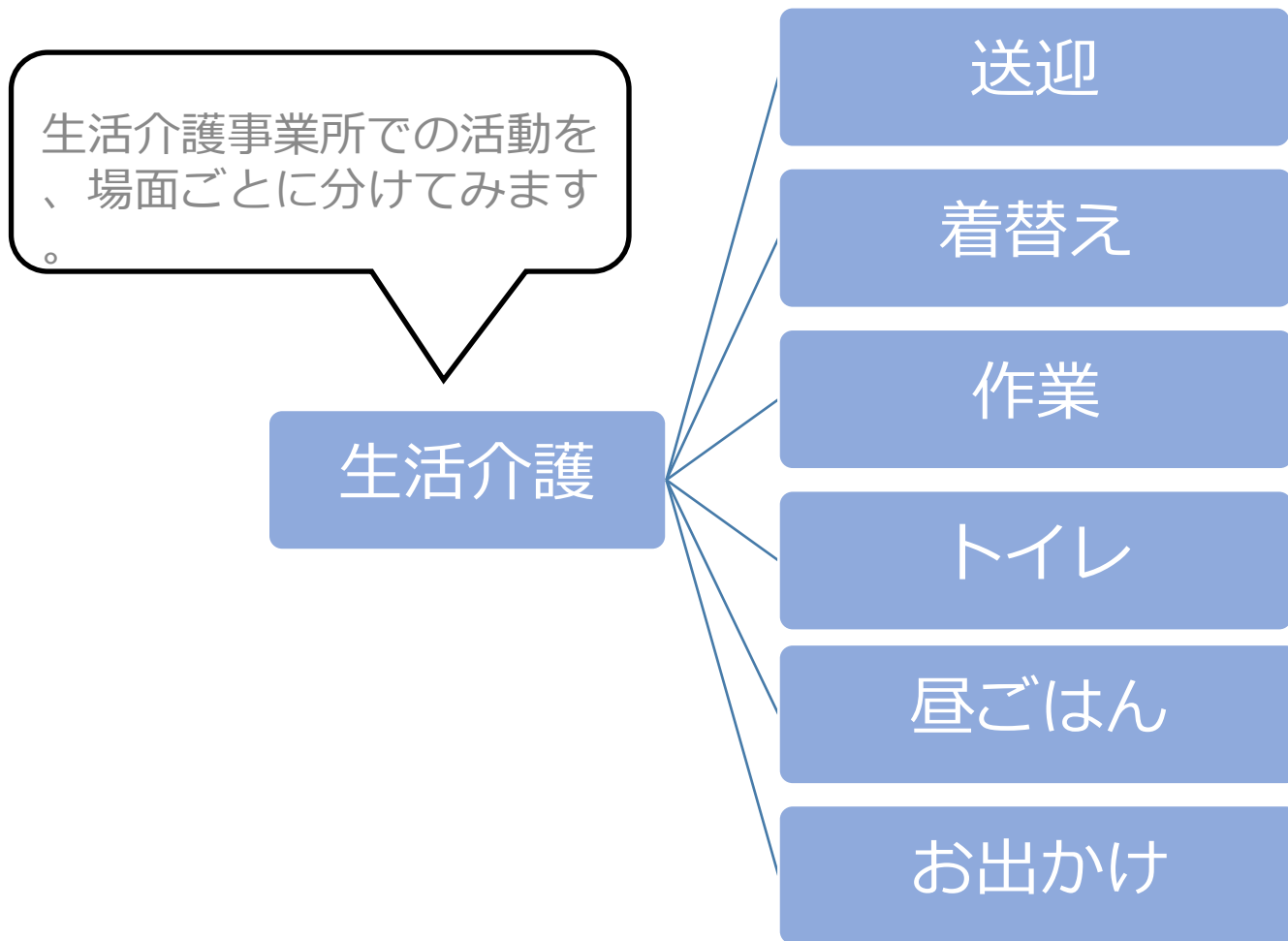
支援のアイデア

具体的なサポート

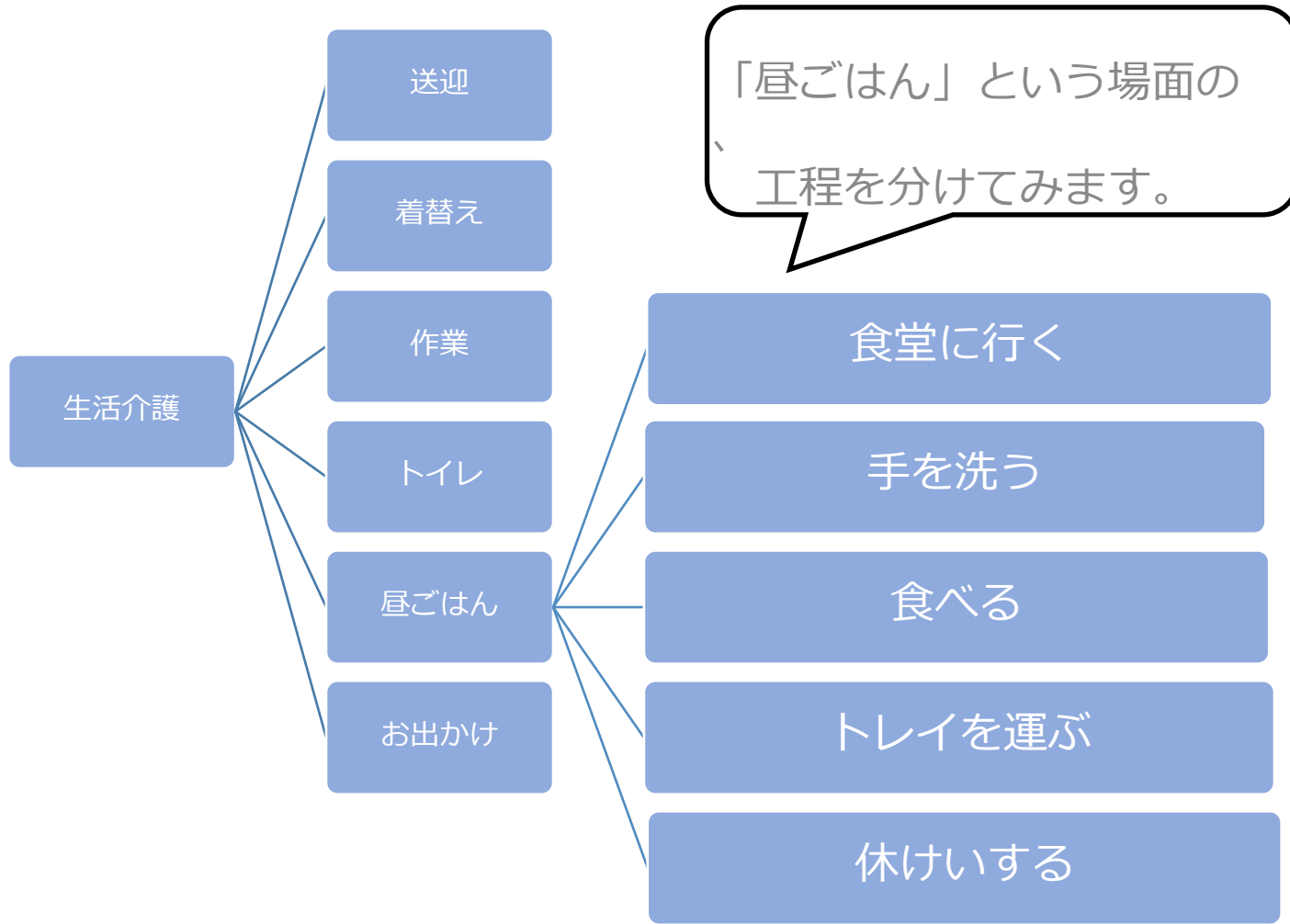
本人の強み→活かせそうな場面や状況

○活動の手順を決める

1. 場面を分ける



2. 活動の工程を分ける



【昼ごはん】

支援手順書に 落とし込む

日付け	20〇〇年〇月×日	氏名	田中正則さん	記入者		支援員B	
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)			
事前準備							
食堂に行く							
手を洗う							
食べる							
トレイを運ぶ							
休けいする							

身近なことの工程を考えてみましょう

カップラーメンを作る工程
を考えてみましょう。

1.

2.

3.

4.

5.

.

.

.

田中さんの作業場面での工程 (作業室へ移動から休憩まで) を考えます

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

日付け	20〇〇年〇月×日	氏名	田中正則さん	記入者		支援員B	
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子(記録)				
事前準備							

個人ワーク | 活動の工程を考える

1. 田中さんの作業の場面での工程を考えます。
2. 支援手順書に工程を記入します。

グループワーク | 活動の工程を考える

1. 田中さんの作業の場面での工程を共有し、グループの工程を決定します。

工程の共有 (記入例)

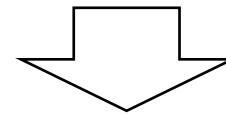
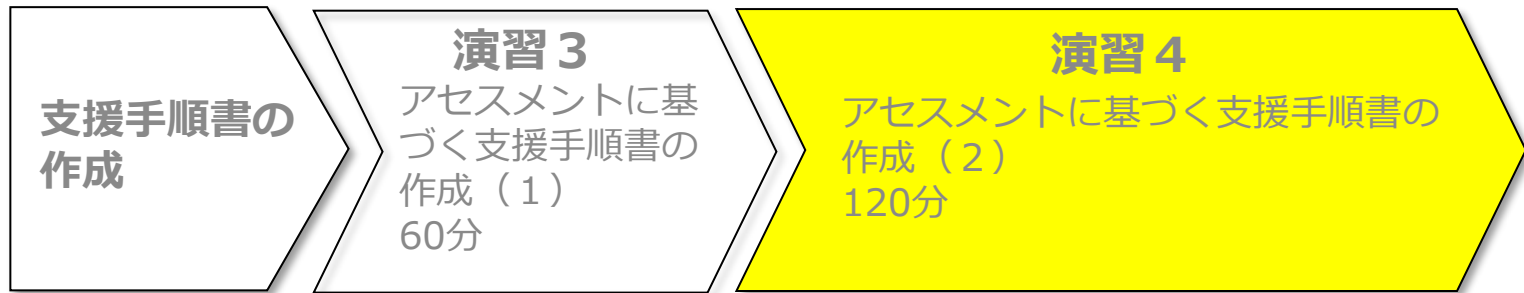
支援手順書/記録用紙

【作業場面】

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
事前準備					
移動					
作業①					
作業②					
作業③					
移動					
休憩					

手順書の作成

- ・ アセスメントに基づく支援手順書の作成（2）



ii) 支援手順書の作成

- 本人の動きを想定する
- 支援者の動きや必要な配慮を考える

個人ワーク | 活動の手順を考える

1. 工程ごとに本人の動きを想定します。
2. 支援手順書に本人の動きを記入します。

グループワーク | 活動の手順を決める

1. 場面ごとの想定される本人の動きをグループで共有します

※支援手順書（グループ用）に記入

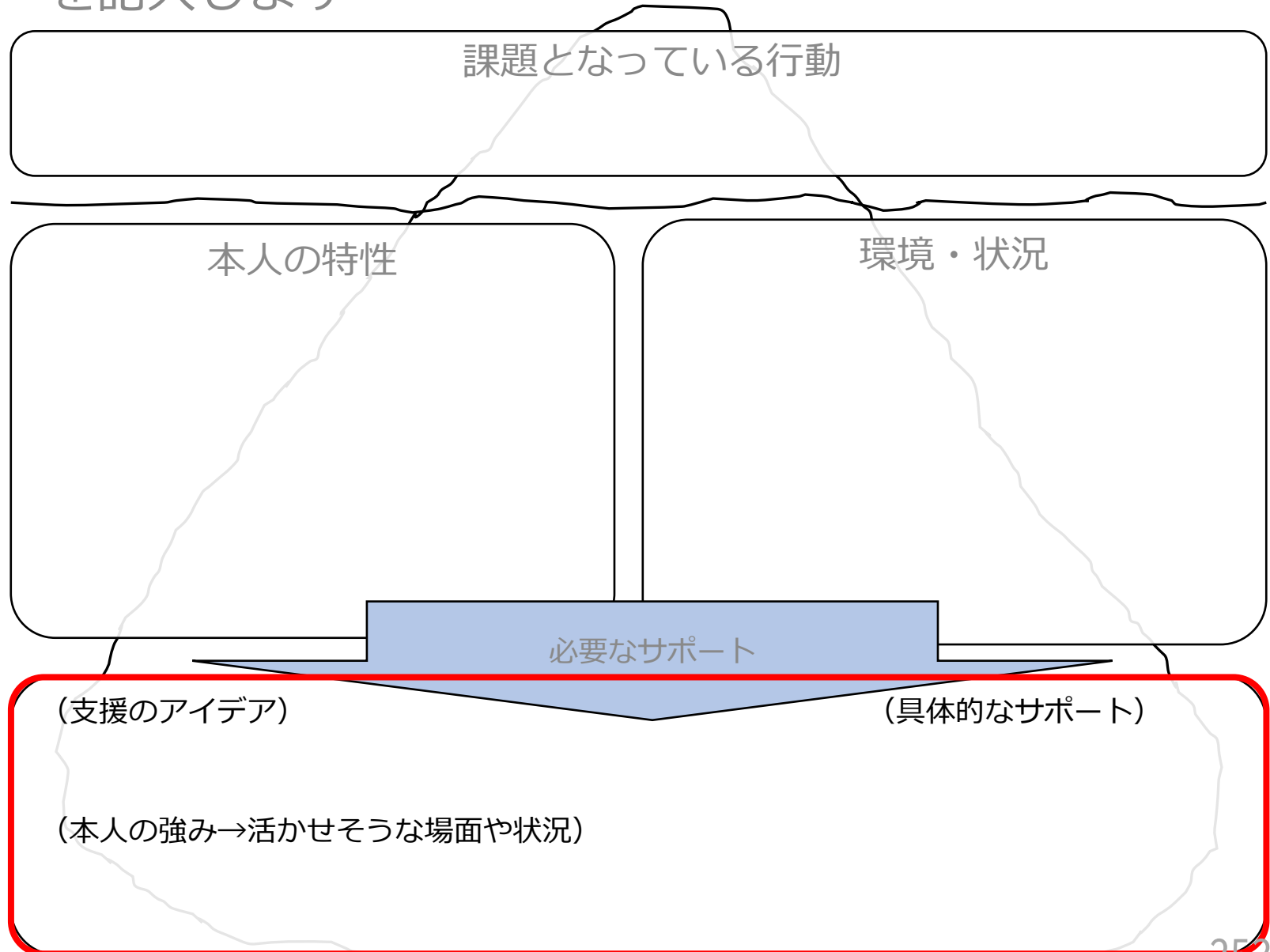
○支援者の動きや必要な配慮を考える

支援手順書/記録用紙
【作業場面】

日付け	20〇〇年〇月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
事前準備		3			
		2			
1					
252					

1. 当日までに準備しておくことを記入する。
2. 冰山モデルの「必要なサポート」欄を根拠に、支援者の動きや必要な配慮を記入する。
3. 当日の事前準備を記入する。

必要なサポートを根拠に、支援者の動きや必要な配慮を記入します



1. 当日までに準備しておくことを記入します

当日までに準備しておくことも考えます

- 1 (1) 事前に室内の環境で確認しておくこと
- (2) 支援ツールなど事前に作っておくもの・用意しておくものなど

※今回は、支援手順書の下欄に記載してください。

支援手順書/記録用紙
【作業場面】

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子(記録)		
事前準備					
1					

個人ワーク | 支援者の動きや必要な配慮を考える

必要なサポートを根拠に

1. 当日までに準備しておくことを記入します
2. 支援者の動きや必要な配慮を記入します
3. 当日の事前準備を記入します

グループワーク | 支援者の動きや必要な配慮を考える

必要なサポートを根拠に

1. 当日までに準備しておくことをグループで共有します
2. 支援者の動きや必要な配慮をグループで共有します
3. 当日の事前準備をグループで共有します
※支援手順書（グループ用）に記入

発 表

1. 活用した氷山モデルの必要なサポート
2. 当日までに準備しておくこと
3. 当日の事前準備の内容
4. 活動の手順と支援者の動きや必要な配慮

まとめの講義

1. 強度行動障害が現れている方への支援は、支援者が統一した支援をすることが重要。そのために支援手順書を作成する必要があります。
2. 支援手順書は、アセスメントを根拠に作成することが原則で、工程ごとに丁寧に組み立てます。

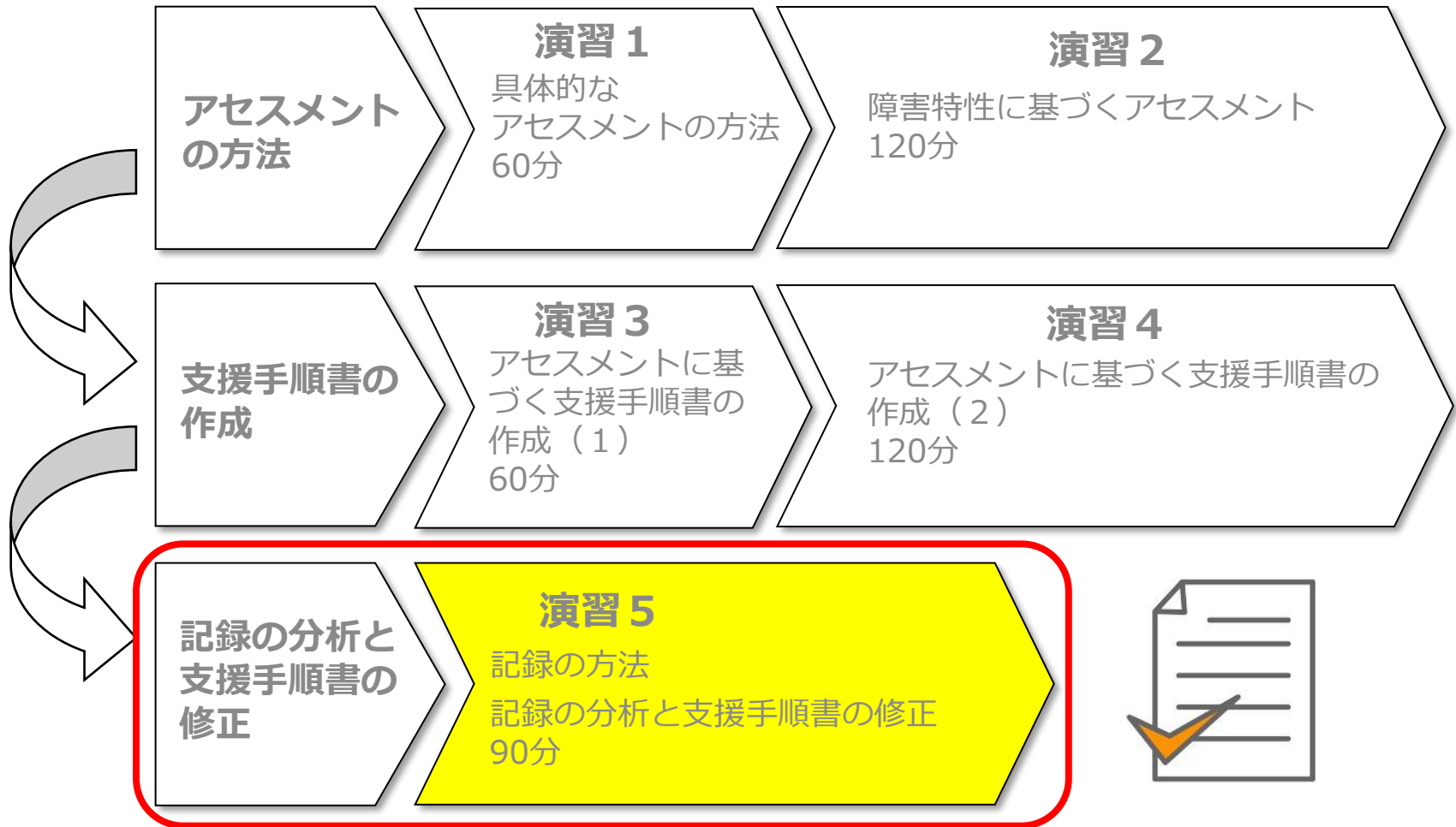
記録の分析と支援手順書の修正

- 記録の方法
- 記録の分析と支援手順書の修正

この時間で学ぶこと

- PDCAサイクルで支援を改善していくために必要な、記録に基づく支援手順書の修正方法を学びます。
- PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していくの流れのことです。

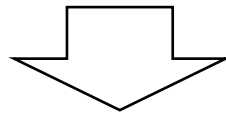
演習の流れ



記録の分析と
支援手順書の
修正

演習5

記録の方法
記録の分析と支援手順書の修正
90分



- i) 記録に基づく支援の振り返り
 - 支援の振り返りと修正の重要性
 - 田中さんの支援の記録

- ii) 支援手順書の修正
 - 支援手順書の記録の確認
 - 支援の修正の方向性
 - 支援手順書の修正

i) 記録に基づく支援の振り返り

○支援の振り返りと修正の重要性

正確なアセスメントの難しさ

本人はコミュニケーションや自分自身で振り返ることが苦手（自閉症の特性）

支援現場には混乱を助長する環境がある場合もある

支援の修正の重要性

支援者は、できるだけ客観的な情報を集め、
仮説に基づき支援を考える。

(= 支援手順書の作成)

支援を実施し、結果を振り返るプロセスの中
で成果を確認し、アセスメントを深める

(= 支援手順書の修正)

スモールステップでより良い支援を作り上げて
いく。

実施した記録が
重要

○田中さんの支援の記録

- ・ 支援手順書の確認
- ・ 動画の視聴
- ・ 「本人の様子」欄への記録

個人ワーク | 支援手順書の記録

1. 動画を見て、支援手順書の「本人の様子」の欄に記録をします

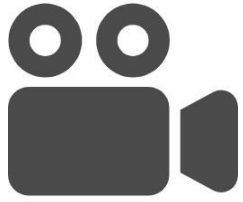
田中さんの 支援手順書

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者		支援員B	
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)			
事前準備		「さぎょうカード」の準備 「きゅうけいカード」の準備 「おでかけカード」の準備 作業机に作業①をセットする					
移動	「さぎょうカード」を受け取り作業机に移動する	入口のところで待つ 田中さんが来たら「さぎょうカード」を手渡す ※入口近くのテーブル席に座らないように、田中さんとテーブルの間に立つ					
作業①	着席し作業①をする 終了したら作業②が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業①を片付け 作業②を机に置く					
作業②	作業②をする 終了したら作業③が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業②を片付け 作業③を机に置く					
作業③	作業③をする 終了したら「きゅうけいカード」を受け取る	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業③を片付け 「きゅうけいカード」を渡す					
移動	休憩室に行く	休憩室に行くのを見守る					
休憩	休憩する	休憩中に作業道具を片付ける					

- *「さぎょうカード」「きゅうけいカード」「おでかけカード」を作っておく
- *「おでかけ」と言われた時の対応
 - ・「おでかけ×」カードを見せて、今やっていることを続けてもらうようにする
- *本人と関わる際の注意点
 - ・声かけは最小限にする。(声かけが多くなると混乱しやすいため)



動画の視聴

支援手順書の記録の記入

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
事前準備		「さぎょうカード」の準備 「きゅうけいカード」の準備 「おでかけ×カード」の準備 作業机に作業①をセットする			
移動	「さぎょうカード」を受け取り作業机に移動する	入口のところで待つ 田中さんが来たら「さぎょうカード」を手渡す ※入口近くのテーブル席に座らないように、田中さんとテーブルの間に立つ			
作業①	着席し作業①をする 終了したら作業②が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業①を片付け 作業②を机に置く			
作業②	作業②をする 終了したら作業③が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業②を片付け 作業③を机に置く			
作業③	作業③をする 終了したら「きゅうけいカード」を受け取る	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業③を片付け 「きゅうけいカード」を渡す			
移動	休憩室に行く	休憩室に行くのを見守る			
休憩	休憩する	休憩中に作業道具を片付ける			

*「さぎょうカード」「きゅうけいカード」「おでかけ×カード」を作っておく

*「おでかけ」と言われた時の対応
・「おでかけ×」カードを見せて、今やっていることを続けてもらうようにする

*本人と関わる際の留意点
・声かけは最小限にする。(声かけが多くなると混乱しやすいため)

グループワーク | 支援手順書の記録の共有

1. 司会・記録・発表を決めます
2. 支援手順書の記録の内容をグループで共有
します

※支援手順書__修正用（グループ用）に記入

ii) 支援手順書の修正

○ 支援手順書の記録の確認

支援手順書に沿って支援を実施した際の、本人のそれぞれの行動について、記録に基づいて確認する。

本人が想定と違う動きをしている時にはしっかり観察して記録する。
課題となる行動に発展しやすく、支援の見直しをするポイントとなる。

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
事前準備		「さぎょうカード」の準備 「きゅうけいカード」の準備 「おでかけカード」の準備 作業机に作業①をセットする			
移動	「さぎょうカード」を受け取り作業机に移動する	入口のところで待つ 田中さんが来たら「さぎょうカード」を手渡し ※入口近くのテーブル席に座らないように、田中さんとテーブルの間に立つ			
作業①	着席し作業①をする 終了したら作業②が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業①を片付け 作業②を机に置く			
作業②	作業②をする 終了したら作業③が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業②を片付け 作業③を机に置く			
作業③	作業③をする 終了したら「きゅうけいカード」を受け取る	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業③を片付け 「きゅうけいカード」を渡す			
移動	休憩室に行く	休憩室に行くのを見守る			
休憩	休憩する	休憩中に作業道具を片付ける			

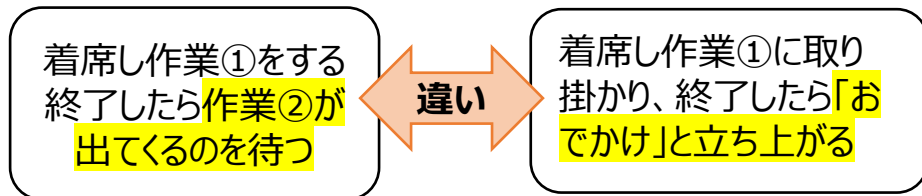
- *「さぎょうカード」「きゅうけいカード」「おでかけカード」を作っておく
- *「おでかけ」と言われた時の対応
・「おでかけ×」カードを見せて、今やっていることを続けてもらうようにする
- *本人と関わる際の注意点
・声かけは最小限にする。(声かけが多くなると混乱しやすいため)

○支援手順書の記録の確認

例えば「作業①」の工程で

想定した行動

本人の様子



支援手順書の見直しが必要

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子(記録)		
事前準備		「さぎょうカード」の準備 「きゅうけいカード」の準備 「おでかけ×カード」の準備 作業机に作業①をセットする			
移動	「さぎょうカード」を受け取り作業机に移動する	入口のところで待つ 田中さんが来たら「さぎょうカード」を手渡す ※入口近くのテーブル席に座らないように、田中さんとテーブルの間に立つ			
作業①	着席し作業①をする 終了したら作業②が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業②を片付け 作業③を机に置く	着席し作業①に取り掛かり、終了したら「おでかけ」と立ち上がる		
作業②	作業②をする 終了したら作業③が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業②を片付け 作業③を机に置く			
作業③	作業③をする 終了したら「きゅうけいカード」を受け取る	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業③を片付け 「きゅうけいカード」を渡す			
移動	休憩室に行く	休憩室に行くのを見守る			
休憩	休憩する	休憩中に作業道具を片付ける			

*「さぎょうカード」「きゅうけいカード」「おでかけ×カード」を作っておく

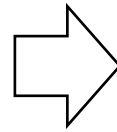
*「おでかけ」と言われた時の対応

・「おでかけ×」カードを見せて、今やっていることを続けてもらうようにする

*本人と関わる際の注意点

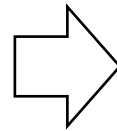
・声かけは最小限にする。(声かけが多くなると混乱しやすいため)

1. 自立して取り組める。
期待した成果がでて
いる。



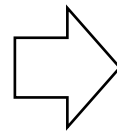
支援を継続する。
生活の中で広げていく。

2. 少し手助けが必要。
十分ではないが成果
がでている。



支援内容を分析し、より
効果的な支援を検討する
。
より自立できるように支援
手順書を手直しする。

3. 全くできない。
成果がでない。



支援そのものを見直す。

それぞれの行動ごとに見ていくことで
、
手直しのポイントがつかみやすい

(参考)

「スキルの確認（スキルの評価）」

支援が本人の実際のスキルと合っているかを、
普段関わっているスタッフが短時間に現場で
実施できるインフォーマルアセスメントです。

スキルの確認の例

○コミュニケーション（受信・発信）について

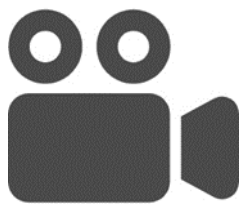
- ・言葉がどのくらい理解できているか
- ・嫌なときなどの表現の仕方
- ・活動の選択ができるか など

○認知について

- ・活動のやり方やルールを理解できているか
- ・スケジュールやタイマーなどの意味を理解できているか
- ・どのような視覚情報だと理解できるか
- ・文字、数字、色、矢印 など

○取り組み方について

- ・支援者の指示や手助けについての理解
- ・課題や指示には前向きに応じられるか など



動画の視聴

グループワーク | 支援手順書の修正

支援手順書を修正します

※支援手順書_修正用（グループ用）に修正点を書き込みます。

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

ワークシート⑩:グループ用

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者		支援員B	
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子（記録）			
事前準備		「さぎょうカード」の準備 「きゅうけいカード」の準備 「おでかけカード」の準備 作業机に作業①をセットする					
移動	「さぎょうカード」を受け取り作業机に移動する	入口のところで待つ 田中さんが来たら「さぎょうカード」を手渡す ※テーブルに座らないように、田中さんとテーブルの間に立つ					
作業①	着席し作業①をする 終了したら作業②が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業①を片付け 作業②を机に置く					
作業②	作業②をする 終了したら作業③が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業②を片付け 作業③を机に置く					
作業③	作業③をする 終了したら「きゅうけいカード」を受け取る	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業③を片付け 「きゅうけいカード」を渡す					
移動	休憩室に行く	休憩室に行くの見守る					
休憩	休憩する	休憩中に作業道具を片付ける					
<p>*「さぎょうカード」「きゅうけいカード」「おでかけカード」を作っておく</p> <p>*「おでかけ」と言われた時の対応 ・「おでかけ」カードを見せて、今やっていることを続けてもらうようにする</p> <p>*本人と関わる際の注意点 ・声かけは最小限にする。（声かけが多くなると混乱しやすいため）</p>							

発 表

1. 支援手順書の修正内容

○支援の修正の方向性（参考資料）

記録に基づく振り返りのポイント

成果	<ul style="list-style-type: none">・ 支援することで、期待された効果があったか 例：自傷行為が減る、自立して活動に取り組める
本人の理解	<ul style="list-style-type: none">・ 支援の内容や使用したツールについて本人の理解 例：カードの意味がわかる、選択ができるなど
本人や家族の納得の度合い	<ul style="list-style-type: none">・ 支援について本人や家族の納得の度合い
実施のスムーズさ	<ul style="list-style-type: none">・ 計画に沿って支援現場で継続して実施できているか
支援者の関わり方	<ul style="list-style-type: none">・ 本人への教授の仕方、促しかた、フェードアウト
その他観察できた特性	<ul style="list-style-type: none">・ 支援の中で観察できた本人の特性 例：終わりがわかると集中できる、情報が多いと混乱しやすい

支援の修正の方向性(参考資料)

成果	<ul style="list-style-type: none">・プラスの成果を踏まえて支援のステップアップの検討をする。・マイナスの成果を踏まえて支援を修正する。・本人の自閉症の特性やスキルを再確認する。
本人の理解	<ul style="list-style-type: none">・本人の理解度に合わせたツールを使用する。・本人が理解しやすい環境設定をする。
本人や家族の納得の度合い	<ul style="list-style-type: none">・本人、家族のニーズを再確認する。・家庭と事業所の認識の違いを埋める。
実施のスムーズさ	<ul style="list-style-type: none">・必要な時間に支援者を確保する。・タイムスケジュールを見直す。・必要に応じて上長に相談する。
支援者の関わり方	<ul style="list-style-type: none">・支援手順書の内容を周知徹底する。・過干渉になっていないか再確認する。・本人の特性やスキルに合わせた伝え方の再確認。
その他観察できた特性	<ul style="list-style-type: none">・観察できた行動、特性を今後の支援に活用する。

【作業場面】

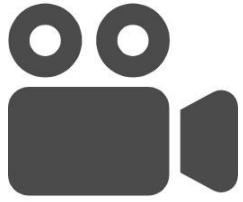
修正後の 支援手順書

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員 B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子（記録）	
事前準備		活動カードの準備 予定確認カードの準備 作業×3の準備 個室にキラキラの準備			
移動	作業室②に行く 予定確認カードを受け取る	入口のところで待つ 田中さんが来たら予定確認カードを渡す			
予定確認	予定確認カードをポケットに入れ活動を確認する	予定確認カードを入れたら、活動を指さしながら読み上げる			
作業机に向かう	さぎょうカードを取り机に移動してさぎょうカードを貼る	本人がさぎょうカードを取ったら離れて見守る			
作業①	マークを確認し作業①をする	離れて見守る			
作業②	マークを確認し作業②をする	離れて見守る			
作業③	マークを確認し作業③をする 終わったら予定確認カードを取る	離れて見守る			
予定確認	予定確認カードをポケットに入れ予定を確認する	予定を確認するのを見守る			
移動	きゅうけいカードを取り個室に移動してきゅうけいカードを貼る	休憩室に行くのを見守る			
休憩	キラキラを見て休憩する	休憩中に作業を片付ける			

* 予定確認の場所、予定確認カード、さぎょうカード、きゅうけいカードを作っておく

* 本人と関わる際の注意点

- ・ 声かけは最小限にする。（声かけが多くなると混乱しやすいため）
- ・ 予定を見てわかるように示す。
- ・ 作業の順番を同じマークを重ね合わせる方法でお知らせする。できるだけ自分で活動してもらうようにする。



動画の視聴

支援手順書をより良いものに

「支援を広げる」

- ・ うまくいった内容を他の場面に広げていく
- ・ 特定の支援者から複数の支援者が関われるように
- ・ アセスメントできた特性や手順を活かす
- ・ より自立できるように

支援の目的は強度行動障害が減ることだけでなく、地域社会で豊かに暮らせること

まとめの講義

1. 支援手順書に基づいた支援を振り返り、改善していくことが重要です。PDCAのサイクルにより良い支援の実施を目指します。
2. 職員のために強度行動障害を改善することが目的ではなく、本人の生活の質が上がることが大切です。

組織的なアプローチ

- ・ 組織的なアプローチの重要性

組織として支援を行っていくために必要な視点

(管理職・リーダーの役割と責務について)

利用者に対して（基本を大切に）

- ・ 法令を守る
- ・ 利用者中心の支援をする
- ・ サービスの質の向上を求める
- ・ 意思決定支援・人格の尊重する
- ・ 連携を推進する

職員に対して（見える化を意識する）

- ・ 事業所の方針を共有する
- ・ 統一した支援と学びを大切にする
- ・ 虐待につなげないために
- ・ 地域とつながる

障害者総合支援法の理念・国民の責務

(基本理念)

第一条の二 障害者及び障害児が日常生活又は社会生活を営むための支援は、全ての**国民が**、障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえない個人として尊重されるものであるとの理念にのっとり、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現するため、全ての障害者及び障害児が可能な限りその身近な場所において必要な日常生活又は社会生活を営むための支援を受けられることにより社会参加の機会が確保されること及びどこで誰と生活するかについての選択の機会が確保され、地域社会において他の人々と共生することを妨げられないこと並びに障害者及び障害児にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものの除去に資することを旨として、総合的かつ計画的に行わなければならない。

(国民の責務)

第三条 すべての国民は、その障害の有無にかかわらず、障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営めるような地域社会の実現に協力するよう努めなければならない。

サービス事業者の責務

障害者総合支援法

第42条

(指定障害福祉サービス事業者及び指定障害者支援施設等の設置者の責務)

指定障害福祉サービス事業者及び指定障害者支援施設等の設置者（以下「指定事業者等」という。）は、障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、障害者等の意思決定の支援に配慮するとともに、市町村、公共職業安定所その他の職業リハビリテーションの措置を実施する機関、教育機関その他の関係機関との緊密な連携を図りつつ、障害福祉サービスを当該障害者等の意向、適性、障害の特性その他の事情に応じ、常に障害者等の立場に立って効果的に行うように努めなければならない。

2 指定事業者等は、その提供する障害福祉サービスの質の評価を行うことその他の措置を講ずることにより、障害福祉サービスの質の向上に努めなければならない。

3 指定事業者等は、障害者等の人格を尊重するとともに、この法律又はこの法律に基づく命令を遵守し、障害者等のため忠実にその職務を遂行しなければならない。

「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン」の概要

趣旨

- 障害者総合支援法においては、障害者が「どこで誰と生活するかについての選択の機会が確保」される旨を規定し、指定事業者や指定相談支援事業者に対し、「意思決定支援」を重要な取組として位置付けている。
- 意思決定支援の定義や意義、標準的なプロセスや留意点を取りまとめたガイドラインを作成し、事業者や成年後見の担い手を含めた関係者間で共有することを通じて、障害者の意思を尊重した質の高いサービスの提供に資することを目的とする。

意思決定支援の定義 / 意思決定を構成する要素

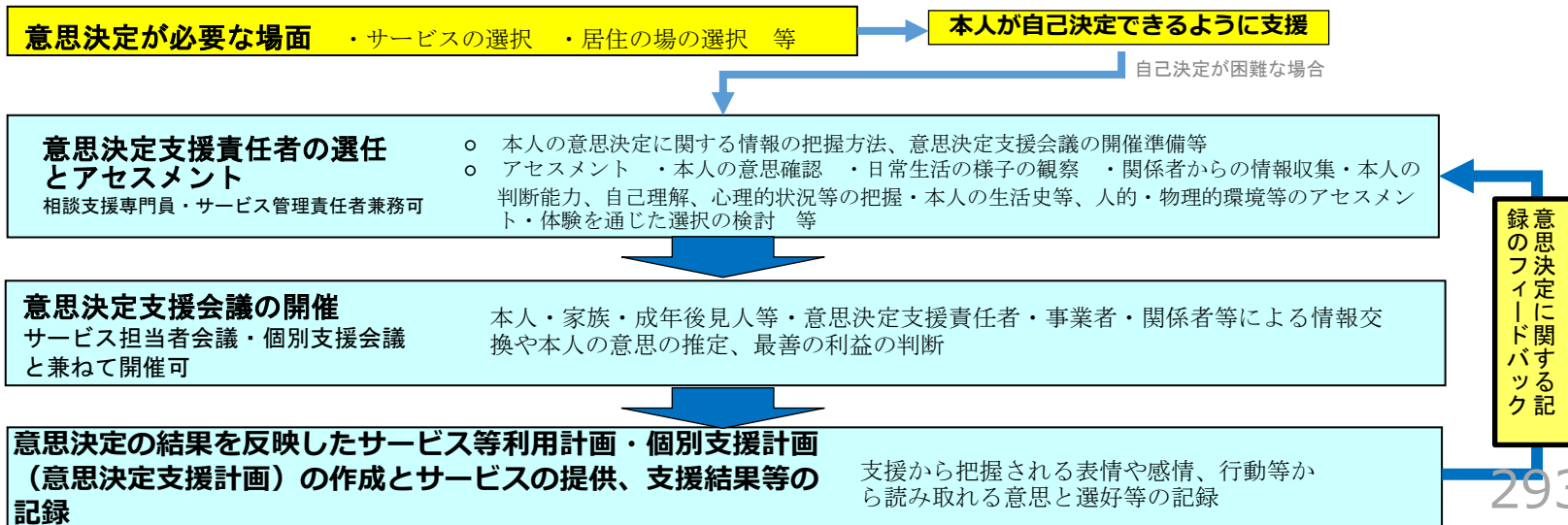
《意思決定支援の定義》

意思決定支援とは、自ら意思を決定することに困難を抱える障害者が、日常生活や社会生活に関して自らの意思が反映された生活を送ることができるように、可能な限り本人が自ら意思決定できるよう支援し、本人の意思の確認や意思及び選好を推定し、支援を尽くしても本人の意思及び選好の推定が困難な場合には、最後の手段として本人の最善の利益の検討のために事業者の職員が行う支援の行為及び仕組みをいう。

《意思決定を構成する要素》

- (1) 本人の判断能力
障害による判断能力の程度は、意思決定に大きな影響を与える。意思決定を進める上で、本人の判断能力の程度について慎重なアセスメントが重要。
- (2) 意思決定支援が必要な場面
 - ① 日常生活における場面(食事・衣服の選択・外出・排せつ・整容・入浴等基本的な生活習慣に関する場面)
 - ② 社会生活における場面(自宅からグループホームや入所施設、一人暮らし等に住まいの場を移す等の場面)
- (3) 人的・物理的環境による影響
意思決定支援は、本人に関わる職員や関係者による人的な影響や環境による影響、本人の経験の影響を受ける。

意思決定支援の流れ



連携を推進する



支援者間での協働

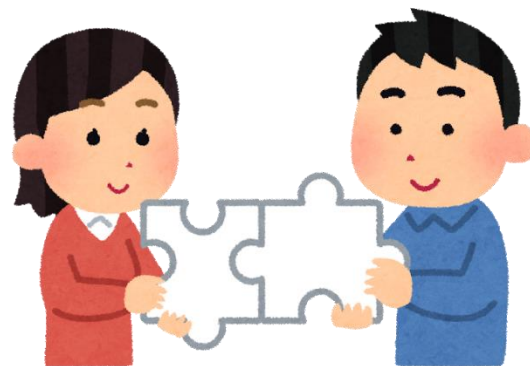
支援者間で情報や課題を日頃から頻繁にやり取りしておくことや違う事業所間でもすぐにやり取りができる関係を作っておくことが大切です。

事業所を超えたチームアプローチにおいては、相談専門支援員も重要な役割を果たします。協議会などで困難な事例を共有することも地域の中でチームアプローチの共通理解が進む良い手立てになります。

医療機関や家族との連携

どれだけ工夫しても行動が変わらないことに支援者は途方に暮れてしまいます。このようなときは、少し視点を広げて考えます。もしかしたら、本人が落ち着かない身体的要因があるかもしれません。身体的な要因については、医師に相談することになります。医師の診断により何かしらの疾患が見つかったり、精神的不安定さの要因が見つかるかもしれません。

また、現在の生活に本人が満足できていないのかもしれません。生活の中で満足感を生み出すために家族やヘルパーに協力してもらい、休日に外出の機会を確保することで生活全体に落ち着きが出てくるかもしれません。



事例の法人は、障害者支援施設を運営しています。この施設は、知的に重度であり行動障害が出やすい方が多く居住されている60名定員の施設です。利用者の多くは自閉スペクトラム症の方々です。

法人の統一ミッション（法人全体の目標）

「私たちは、すべての人一人ひとりの人権と意思を尊重し、
障害のある人もない人も共に社会・経済・文化ほか
あらゆる分野に参加する機会を得て、
主体性を持ちながら
豊かな市民生活を送ることができる社会の実現を目指します。」

事業所の方針を共有する

事業所のめざすところを示して、現場の職員と共に考えていくことで

支援の方向性が理解され、困ったときに、立ち戻る場所が言語化できます。

必要な手立てである「統一した支援」が進めやすくなります。

事業所の方針と方向性をチームで共有する 一明文化の事例一

ROAD MAP みちのり



STEP. 1

YEAR
1~3

人のこと、場所のこと。
私たちのことを、よく知ってもらえるように、
伝えていきます。



STEP. 2

YEAR
4~6

ここに暮らす一人ひとりに、
コミュニティに5人の「顔見知り」がいる。
そんな、つながりのあり方を目指します。



STEP. 3

YEAR
7~

居場所がある。役割がある。
一人ひとりが、コミュニティの中で
暮らしていけることを目指します。

WAY 支援の姿勢



利用者も、ご家族も、職員も、
だれが見ても
適切な支援をします。



職員同士が理解しあい、
よりよい支援を
つくっていきます。



つねに学び続け、
1人の福祉人としての
成長を目指します。

ACTION 具体的な取り組み

5人の顔見知りを つくるプロジェクト

地域の人たちとのつながりをつくっていこう。ひだまりの
里きよせへ来てほしい。地域のなかへ出かけていき
たい。どんな方法があるだろう。

1人ひとりの 居場所・役割を つくるプロジェクト

地域で豊かに暮らし続けていくためには、どんなことが
必要だろう。必要な仕組みをつくるには、どんな方法が
あるだろう。

福祉人としての 成長を目指す プロジェクト

今の支援に結びつく専門性を伸ばしたい。広く社会や
福祉を取り巻く環境のことを知りたい。熱く、楽しく
学ぶために、どんな方法があるだろう。

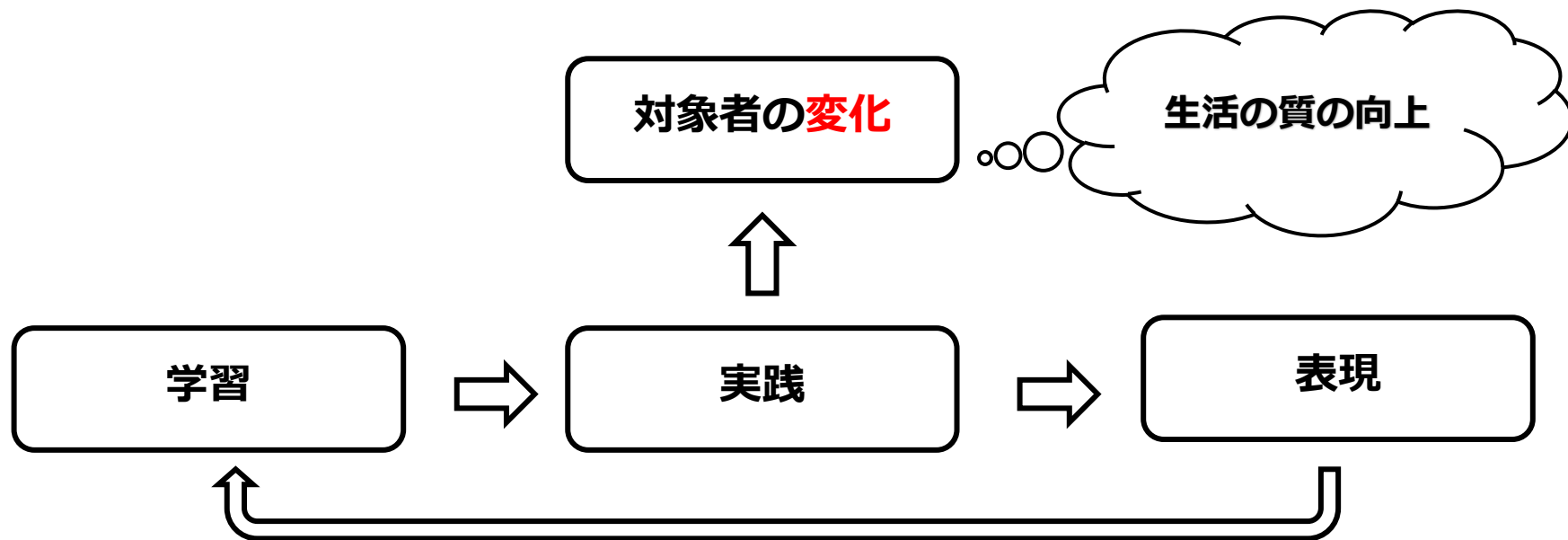


統一した支援と学びを大切にする

統一した支援と学びを見える化するために、エビデンスをもとに考える習慣を

- できる限り事前準備に時間をかけること
- 定期的に記録を用いて振り返りの時間をつくること
- 共有できる学びの機会を持つこと（強度行動障害支援者養成研修や虐待防止研修など）

それぞれの支援者のアプローチ

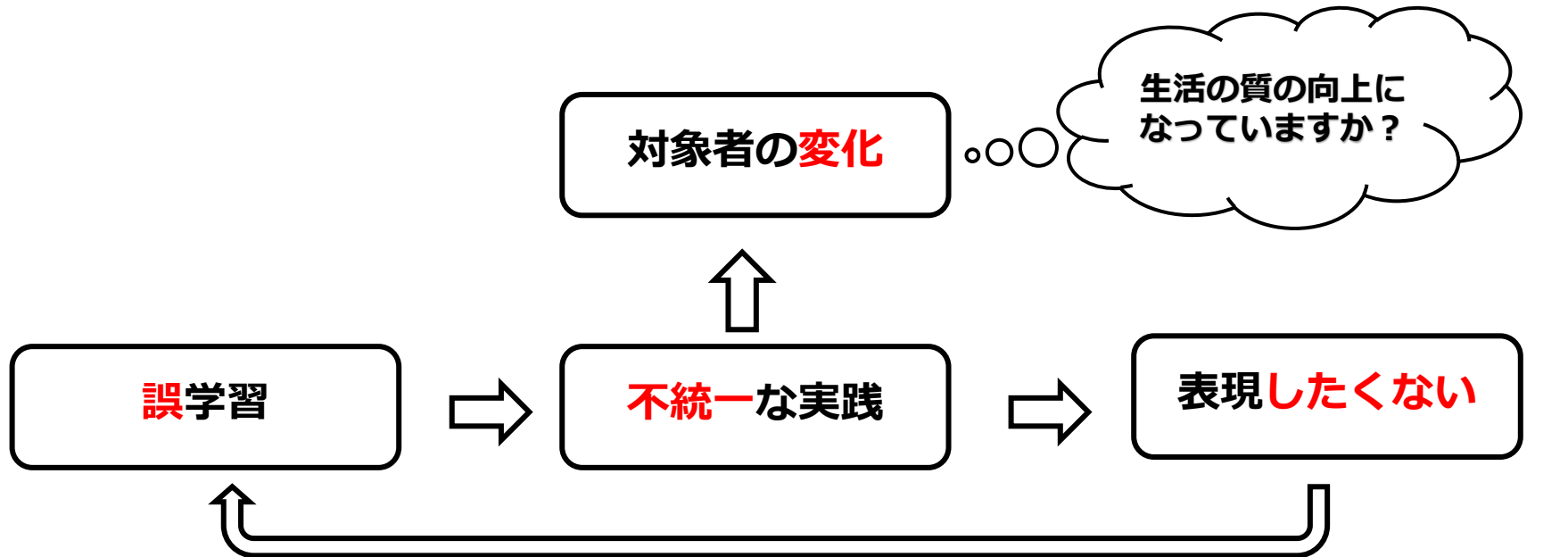


- ・ 研修の受講
- ・ 本やDVDなどで学ぶ
- ・ **OJTを受ける**

- ・ **情報を収集する** (アセスメント)
- ・ 構造化した環境を準備する
- ・ 体調に気を配る
- ・ 感覚に注目する
- ・ 強化子 (好きなことを調べる) を探す
- ・ 記録をつける

- ・ 日々の支援場面で **意見を述べる**
- ・ ケース会議で発言する
- ・ 支援の **まとめ** を発表する

それぞれの支援者のアプローチがうまくつながらない



OJTから学ぶ

➡経験者の考えや自分の経験からの学びになっていませんか？
他害や自傷などのつぴきならない場面に対応する時、待ってられない状況が生まれる。
結果
エビデンスより経験を優先しがちになりやすい。

情報を収集する

➡Aさんの時は落ち着いているのに？
確かに、落ち着いているけど・・・

自信を無くすBさん。
もやもやするCさん

意見を述べる

➡会議での発言に意味を見出せない
➡根拠がわからないので振り返れない
➡時には仲間の批判にも・・・

それぞれの支援者のアプローチから

長いトンネル⇒ゴールが見えない <＊ここを乗り越えるために工夫>

⇒地道にデータを分析して、またやり直してみる

⇒光が少し見えた⇒支援の統一から生まれる対象者の変化をみんなで共有する！

＊ここを乗り越えるための工夫は、職員を応援する視点で（事例紹介）

- ・自己表現（アサーション）の研修会を開いた。その後、定期的に外部の専門家を招いて支援者が思いを吐き出せる会議を定期的で開催した。
- ・みんなで学ぶ（ABC分析、感覚についてなど）学習会を行い、統一した支援に生かした。
- ・アイデアを出し合って仲間を元気にする会議（グループスーパーバイズ）を定期的で開催した。

仲間を元気づけるグループスーパーバイズとは？

スーパーバイザー（スーパーバイズを受ける人、事例提案者など）に焦点をあてた討議や対話。

バイザーの関心、判断、助言を通じてバイザーが気づき、行動変容が促されることを目的とする。

バイザーの気づき、行動変容により、最終的には利用者との関係性に変化が生じ、利用者の行動変容に繋がることを求める。

事例検討とどこが違うの？

事例検討は、対象事例の支援方法を検討する。より良い支援方法はどのようなものか？グループ討議を行うことも多い。実践知を養うのに適している。

スーパービジョンは、スーパーバイザーが利用者（クライアント）にどのような関りをしているのか。そこで、スーパーバイザーが何を考え、何を感じ、何を学ぼうとしているのか？スーパーバイザーがくみ取りスーパーバイザーの学びをともに深めていく作業。

ここで紹介しているグループスーパーバイズは、全員で提案者を応援する会議。あまり多くの準備を求めない。1回の会議に長い時間を費やさない。参加者はアイデアを提供する。提案者はできそうなこと、採用したいアイデアを自由に選択することを基本にする。次回までにアクションすることを共有する形で実施する。回数を重ねていくうちに変化が・・・

虐待につなげないために

「だって仕方がないじゃない・・・」から不適切な支援が積み重なってしまう。

定期的に振り返ることで、誰が見てもおかしくない支援につなげたい。

管理者として、以下のことを着実に行うことが大切です

不適切な支援について時々会議で話題にしているけれど、なんとなくグレーゾーンが気になる
意見交換はしているけれど、具体的な行動化が足りないような気がする・・・

- ・ 虐待防止委員会を組織して、**定期的に**現場へあらたな提案ができる体制を作ることでルーティーンを形にする
- ・ 虐待防止研修をすべての職員に提供し、思考のアップデートを**定期的**に行う
- ・ 行動制限をせざるを得ない場合は、誰に対しても誤解のない手続きを**定期的**に共通認識する
- ・ ヒヤリハットや事故について基準を決め、**定期的**に振り返って課題を共有する

社会福祉法人 ●●●会 A事業所 運営規程（例）

改正前	改正後
<p>(非常災害対策)</p> <p>第11条 事業所は、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備を設けるとともに、非常災害に関する具体的計画を立て、非常災害時の関係機関への通報及び連絡体制を整備し、それらを定期的に職員に周知する。</p> <p>2 事業所は、非常災害に備えるため、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行う。</p> <p>3 事業所は、区との協定に基づき、二次避難所（福祉避難所）開設の要請があった場合には、所管課の指示のもと、避難所の管理運営にあたる。</p>	<p>(感染症・非常災害対策)</p> <p>第11条 事業所は、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備を設けるとともに、非常災害に関する具体的計画を立て、非常災害時の関係機関への通報及び連絡体制を整備し、それらを定期的に職員に周知する。</p> <p>2 事業所は、非常災害に備えるため、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行い、<u>訓練の実施にあたっては地域住民の参加もしくは地域防災訓練への参加をし、地域と連携します。</u></p> <p>3 事業所は、区との協定に基づき、二次避難所（福祉避難所）開設の要請があった場合には、所管課の指示のもと、避難所の管理運営にあたる。</p> <p>4 <u>感染症の発生及びまん延の防止等に関する取り組みとして、定期的な職員研修や委員会の設置、発生時の訓練（シミュレーション）を行う。</u></p> <p>5 <u>感染症や災害が発生した場合でも、業務継続できるよう計画（BCP）の作成をする。</u></p>
<p>(虐待防止のための措置)</p> <p>第14条 事業所は、法人統一ミッション及び活動規範、「A事業所職員要綱」に基づき、利用者の人格を尊重する視点に立ったサービスに努め、また虐待の防止に必要な措置を講じなければならない。また、虐待を受けている恐れがある場合にはただちに防止策を講じ区へ報告するものとする。</p> <p>2 利用者の人権擁護、虐待防止等のため、施設長を責任者とする虐待防止委員会を設置する等必要な体制の整備を行うとともに、職員に対し、研修を実施する等の措置を講ずるよう努めるものとする。</p>	<p>(虐待防止のための措置)</p> <p>第14条 事業所は、法人統一ミッション及び活動規範、「A事業所職員要綱」に基づき、利用者の人格を尊重する視点に立ったサービスに努め、また虐待の防止に必要な措置を講じなければならない。また、虐待を受けている恐れがある場合にはただちに防止策を講じ区へ報告するものとする。</p> <p>2 利用者の人権擁護、虐待防止等のため、施設長を責任者とする虐待防止委員会を設置し、委員会での検討結果を職員に周知徹底する。また職員全員に対し研修を実施する。(身体拘束についても含む)</p>
<p>(身体拘束などの禁止)</p> <p>第15条 利用者または他の利用者の生命または身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束その他利用者の行動を制限する行為を行ってはならない。</p> <p>2 身体拘束などを行う場合には、事業所に設置されている虐待防止委員会で、緊急やむを得ない場合の要件に該当するかどうかを審議し、それに該当した場合は、書面により利用者本人や家族に出来るだけ詳細に説明して理解を得た上で、関係職員に周知して実施するものとする。</p> <p>3 身体拘束などの実施にあたっては、審議の経過、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況と理由その他必要な事項を記録するとともに、常に経過観察、再検討をおこない、要件に該当しなくなった場合には、ただちに解除するものとする。</p>	<p>(身体拘束などの禁止)</p> <p>第15条 利用者または他の利用者の生命または身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束その他利用者の行動を制限する行為を行ってはならない。</p> <p>2 身体拘束などを行う場合には、事業所に設置されている虐待防止委員会で、緊急やむを得ない場合の要件に該当するかどうかを審議し、それに該当した場合は、書面により利用者本人や家族に出来るだけ詳細に説明して理解を得た上で、関係職員に周知して実施するものとする。</p> <p>3 身体拘束などの実施にあたっては、審議の経過、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況と理由その他必要な事項を記録するとともに、常に経過観察、再検討をおこない、要件に該当しなくなった場合には、ただちに解除するものとする。</p>
<p>附 則</p> <p>この規程は、平成25年4月1日より施行する。 (平成27年3月26日 理事会承認)</p> <p>この規程は、平成27年4月1日より施行する。</p>	<p>付 則</p> <p>この規程は、平成25年4月1日より施行する。 この改正は、令和3年4月1日より適用する。</p>

ヒヤリハットから事故にいたるまでの分析基準（例）

リスクマネジメント スケール表		気づき、ヒヤリ→ケース記録から記載 項目：気づき（Ⅰ）、事故・ヒヤリ（Ⅱ～Ⅴ）				アクシデント1, 2, 3→リスク管理から記載 (事故報告書となる) 項目：種類（Ⅱ～Ⅴ）、影響（レベル3～5）				
大項目	小項目	気づき	レベル1 集計	ヒヤリ	レベル2 集計	アクシデント1	レベル3 集計	アクシデント2	レベル4 集計	アクシデント3
		レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		レベル5
	基準	見逃すと事故につながる事項		ヒヤッとした、ハッとした事項 怪我を伴わない事故～手当てが必要ない怪我		手当てが必要な場合		通院・入院が必要な場合		生命に危険が及ぶ場合、 後遺障害
服薬ミス	1 服薬	服薬を忘れそうになる、間違えそうになる		薬がこぼれたが、すぐに服薬した場合		配薬ミス、服薬忘れ、床等に薬を発見 他者の薬を誤薬した場合		他者の薬を誤薬し通院した場合		誤薬で生命の危険にさらされた場合
	2 自傷行為	自傷を止めた場合		自傷行為（手当てが必要ない場合）		コブ、腫れ、爪はぎ等（手当てが必要な場合）		通院・入院が必要な怪我		自傷で生命の危険にさらされた場合
	3 他傷行為	他傷未遂		他傷行為（手当てが必要ない場合）		怪我を伴う他傷行為（手当てが必要な場合）		通院・入院が必要な怪我		他傷を受けて生命の危険にさらされた場合
	4 利用者間トラブル	口げんか等の前兆を発見した場合		介入をして収まった場合		他機関の介入の必要のあるトラブル				
	5 器物破損	壁を叩こうとする、物を投げそうになる場面を止めた場合		壁を叩く、物を投げた場合		ものを破損した場合				
	6 紛失	（本人のいる前、職員がいる前で）他利用者のものを持つてくる		他利用者の部屋からものを持つてくる				故意に他利用者のものを盗む		
	7 所在不明	施錠すべき扉の鍵が開いていた等		施設内で発見された場合		施設外で発見された場合		警察に捜索願を提出し捜索した場合		所在不明により生命の危険が及ぶ場合
利用者行動	8 興奮・奇声不穏状態			怒る、泣く等があるが、10分以内に収まる、奇声を上げる		パニックになる、奇声を上げることが10分以上続いた場合				
	9 性的行為	故意に陰部を露出した場合		性的嫌がらせがあった場合		性的行為未遂		性行為があった場合		妊娠や後遺障害が残った場合
	10 誤飲	誤飲しそうになるが、未然に防いだ場合		誤飲しそうになる		毒性のないもの・あるものを誤飲した場合		通院・入院が必要な誤飲		誤飲で生命の危険にさらされた場合
	11 異食	異食しそうになるが、未然に防いだ場合		異食しそうになる		掻き出す必要のある異食		通院・入院が必要な異食		異食で生命の危険にさらされた場合
	12 多飲水	多飲しそうになる		水分をコップに数杯飲む、多量に飲んだ等あった場合		通院・入院が必要な多飲水				多飲水で生命の危険にさらされた場合
	13 危険行為	危険行為を行いそうになる		怪我に繋がる行為						
	14 不適応行動	上記以外の不適応行動をしそうになる		上記以外の不適応行動があった場合		上記以外の不適応行動で手当てが必要な場合		通院・入院が必要な不適応行動		不適応行動で生命の危険にさらされた場合

地域との連携を推進する

例えば、障害者支援施設の場合
「変化が苦手」を言い訳にしないで、できることからはじめてみる

この時間で学んでいただいたこと

強度行動障害への支援で大切なこと

抱え込まないこと、孤立しないこと
先が見えないことにあせらないこと、認め合うこと
定期的なふりかえること、強みに目を向けること
少し勇気をだして声がかけること
つながりを求めていくこと
小さな変化を分かち合えること

実践報告

- ・ チームによる支援の実際

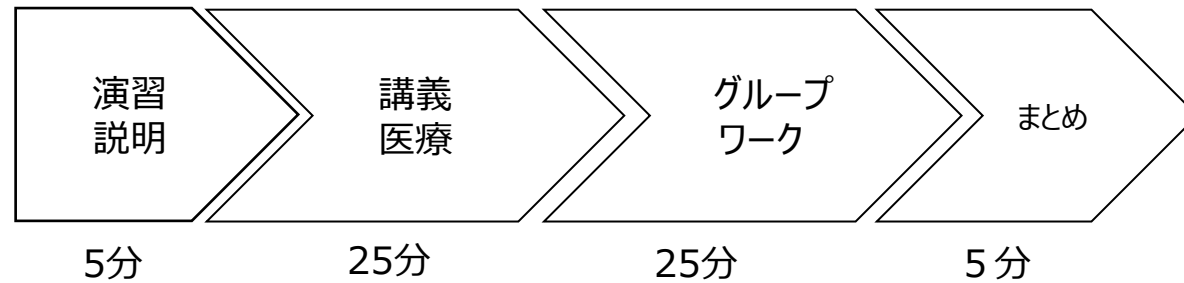
関係機関との連携

- ・ 関係機関（医療機関等）との連携の方法

この時間で学ぶこと

- 強度行動障害のある人を支えていくことは、一つの事業所ではできません。
- また、限られた職員、限られた事業所だけで強度行動障害のある人を抱え込むと、危機や虐待のリスクは高まります。
- この時間のカリキュラム上の科目名は「危機対応と虐待防止」です。
- 強度行動障害のある人たちを支えていくためには、福祉、医療、教育、家庭、専門機関など、様々な関係者が連携していくことが大切です。

この時間の流れ



- 強度行動障害支援における各分野の動向と実践事例に関する講義を聴きます。

講義 医療とお連携

- グループで関係機関との連携について意見交換をします。

関係機関との連携 －医療との連携

監修

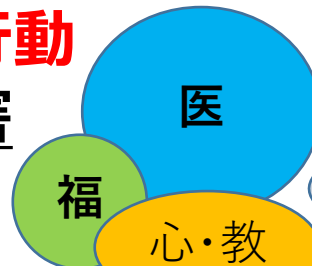
強度行動障害医療研究会

強度行動障害 氷山モデルからみる、連携の必要性と難しさ

広義の精神運動興奮？
本人や周囲の外傷リスク

課題となっている行動

・ 激しい自傷・他害



2016障害者差別解
消法「合理的配慮」

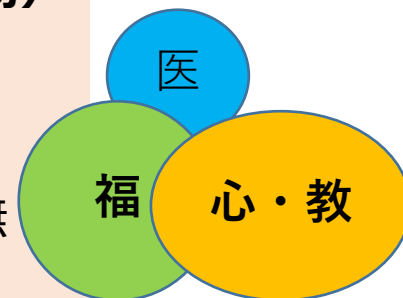
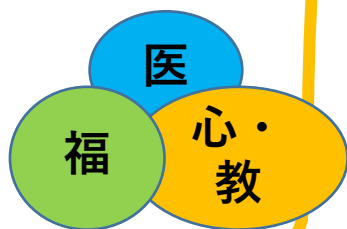
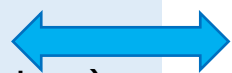
本人の特性

- ・ 感覚の特異性（感覚過敏）
- ・ 混乱しやすい
（かんしゃくを起こしやすい）
- ・ 要求や拒否を言語化できない
- ・ 過去の嫌な体験が
フラッシュバックしやすい

環境・状況

（TEACCHプログラムや行動療法有効）

- ・ 生活環境での快・不快や余暇活動
- ・ 視覚的支援の有無
- ・ 混乱しにくいスケジュールの有無
- ・ コミュニケーション方法提示の有無
- ・ 過去の自傷行動による誤学習



「発達障害は治らない
ので治療できない」？

2013～強度行動障害
支援者養成研修(福祉)

本日のお話

1. 強度行動障害と医療的アプローチ
2. 関係機関との連携
3. 事例を通して～福祉と医療の連携、福祉と教育の連携、
家庭との連携～
4. 参考：強度行動障害と支援の基本まとめ

1. 強度行動障害と医療的アプローチ

強度行動障害と医療

1) 通常の疾患(主に身体的な疾患)の受診・入院

2) 施設や在宅からの一時的レスパイト入院

3) 行動障害そのものを軽減するための治療

～上記の中で2)のニーズが高いが、在宅や施設に戻れなくなる事例
➡医療機関が受け入れに消極的になる、という悪循環あり

出現しやすい身体合併症について

- てんかん発作

部分発作(脳の部分的な活動興奮による身体の局所的なピクツキや一瞬の意識消失)から強直間代発作(グーッと力が入ってがくがくけいれんする、呼吸が止まり口唇の色が悪くなる)まであり

- イレウス(腸閉塞)

腸の麻痺や閉塞(悪性腫瘍や腸自体のねじれによる)による腸管の通過障害により、嘔吐や便秘・腹痛など、抗精神病薬量が多い人でリスクが高い

- 外傷

骨折や脱臼などがあっても言語化できないこともあり

- 皮膚疾患

ちょっとした擦過傷をずっと触って治らない、保清ができないことによる皮膚炎の出現

- う蝕(虫歯)

歯磨きがきちんとできないことが多く、反すう・嘔吐等があれば胃酸の影響によりさらにう蝕になりやすい口の中の環境となる。また誤嚥により呼吸器感染の原因になることもある。患者特性によっては歯科治療中のリスクが高くなるため、全身麻酔が必要になる場合がある

- 呼吸器感染症

熱がはっきり出ないこともあり、発症や重症化が分かりにくい

てんかんを合併している場合の注意点

1. 行動障害はてんかん発作に関連しているか否か

- ・てんかん発作の前後に行動障害が悪くなる場合、てんかんの治療が行動障害を改善する可能性がある
- ・ただし、「てんかん発作＝大発作」ではなく、ぼーっとするだけの発作のこともある。
- * ぼーっとするだけの発作は自閉症の「フリーズ」と鑑別が難しい

2. 抗てんかん薬が行動障害に関連しているか否か

- ・行動や精神症状に影響を与える可能性の高い抗てんかん薬
イーケプラ(レベチラセタム)、フィコンパ(ペランパネル)
エクセグラン(ゾニサミト)、トピナ(トピラメート)
フェノバル(フェノバルビタール)
～これらの薬を減量・中止することで行動障害が改善することがある
- * ただし、個人差が大きいので主治医に確認すること

強度行動障害を伴う方の歯科について

日常の口腔衛生

日常生活における「歯磨き」の習慣づけは低年齢児からの介入により習慣化しやすくなると考えられる

- ・「自分磨き」: 啜えているだけ、すぐにおしまいでもかまわないので歯磨きという行為を認識してもらう
 - ・「仕上げ磨き」: 他者による行為(歯磨き)の受容をもらう
- ※歯磨きは散髪や爪切りなどと同様に受け入れにくいもののひとつであることが多いため、対象者の特性に合わせ応用できる方法(絵カードや動画など)を日常生活の中で模索し習慣化していくことが望ましい

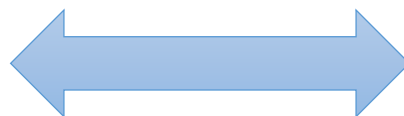
歯科治療

強い痛みや腫れ、外傷など緊急性のある場合以外は、行動療法からの導入が望ましい

【トラウマにさせないことに重点を置く】

緊急性のない場合

- ・行動療法による系統的脱感作と習慣化
(コミュニケーションと慣れ)



緊急性のある場合 (痛み・腫れ・外傷など)

- ・抑制下での治療
- ・鎮静下での治療
- ・全身麻酔

ただし行動療法のみでは対応が困難なケースも多いため、抑制・鎮静下での治療や全身麻酔を選択する場合がある。強度行動障害を伴う知的・発達障害のある方の歯科的対応には専門的な技術が必要であると考えられるため、大学病院や障害者歯科を専門とする医療機関への受診を推奨する(国立障害者リハビリテーションセンター病院 歯科 熊澤海道Drスライド)

行動障害と薬物療法

- 薬物療法のみで行動障害の改善は期待できない(対症療法や行動全体の鎮静)
- 年齢や個人差による効果・副作用の差～「**Start low, Go slow**」の原則を忘れずに！
- 標的症状をしばって効果・副作用を記録

「Challenging Behaviour」より

- 処方する医療者は、絶望的な状況を緩和するために処方しなければならないという圧力と、一方でそのような処方に対する異議にさらされることで、身動きが取れなくなることも多い
- 器質的な脳機能障害が存在するため、向精神薬に対する反応はしばしば特異的である
- この対象では離脱症状がよく見られる。抗精神病薬減量のスケジュールとして、**1日量を月に20%減らす**ことを勧める

(Third Edition. Eric Emerson and Stewart L. Einfeld.2011)

発達障害に対する薬物療法

（対象年齢が合致した赤字以外の処方 は適応外処方）

分類	薬剤名(商品名)	標的症状とその効果	主な副作用
抗精神病薬	リスペリドン(リスパダール)	自閉症の易刺激性に有効	体重増加、月経異常など
	アリピプラゾール(エビリファイ)	自閉症の易刺激性に有効	体重増加など
	その他の新規抗精神病薬 オランザピン(ジプレキサ) クエチアピン(セロクエル)など	自閉症の興奮性に有効な可能性がある	眠気、体重増加など オランザピン・クエチアピンは糖尿病で禁忌
	従来抗精神病薬 ハロペリドール(セレネース・リントン)	自閉症の興奮性に有効	錐体外路症状(急性・遅発性)
	従来抗精神病薬 クロルプロマジン(コントミン) レボメプロマジン(レボトミン) プロペリシアジン(ニューレプチル)など	興奮性への効果は様々	過鎮静、錐体外路症状(急性・遅発性)
抗うつ薬	フルボキサミン(ルボックス)	抑うつ・不安に有効なことあり (反復的行動に対しては効果は確実ではない)	消化器症状など ロゼレムとは併用禁忌
気分安定薬	バルプロ酸(デパケン、セレニカ)	興奮性や躁症状への効果は様々	高アンモニア血症、血小板・血球減少など
ADHD治療薬	中枢刺激薬 メチルフェニデート除放錠(コンサータ) リスデキサメフェタミン(ビバンセ)	ADHD症状を伴う人には有効なことあり	食欲低下・不眠など IQ50未満や重症のチック症例では望ましくない
	アトモキセチン(ストラテラ)	ADHD症状を伴う人には有効なことあり	消化器症状など、緑内障には禁忌
	guanfacine塩酸塩徐放剤(インチュニブ)	ADHD症状には有効なことあり(確定診断必要)	血圧低下、不整脈など
睡眠薬	メラトニン・メラトニン受容体作動薬 (メラトベル・ロゼレム)	不眠に有効なことあり	フルボキサミンと併用禁忌
	ベンゾジアゼピン系	不眠に有効なことあり	脱抑制による落ち着きのなさ、ふらつき転倒

副作用としての錐体外路症状

症状名	状態
アカシジア	落ち着きがなくなり、足がむずむずしてじっとしてられない。静座不能
急性ジストニア	抗精神病薬投与初期に、身体の筋肉がひきつれを起こし、首が横に向いたり、身体を反転させたり、舌を突出させたりする。眼球上転も含まれる。緩徐・持続性の奇妙でねじるような不随意運動
遅発性ジストニア	抗精神病薬長期服用による、持続性姿勢異常(痙性斜頸など)
遅発性ジスキネジア	抗精神病薬長期服用による。口周囲の場合、口をモグモグさせる特徴的な動きとなる。四肢や躯幹の場合は舞踏病様やアテトーゼ様(くねくねした動き)の不随意運動となる
アキネジア	動作緩慢や仮面様顔貌が重症化し、不動となる
流涎	咽頭や喉の筋肉の動きが低下することにより、唾液分泌過多となる
振戦	口、手指、四肢などの振るえ
筋強剛	関節を動かしたときに歯車がカクカクなるような歯車現象、重症ではろう屈現象(腕が曲がらない)

精神科入院治療でできること

できる



難しい

- 1) 緊急避難的な本人の保護
- 2) 家族や施設スタッフのレスパイト
- 3) 検査による身体状態の評価
- 4) 行動や情緒に関する評価(心理テスト・評価尺度)
- 5) 薬物調整
- 6) こだわり行動や行動障害のリセット
- 7) 行動療法や構造化による介入

①採血・尿
②XP③心電図④CT・MRI

①田中ビネー知能検査・遠城寺式乳幼児分析的発達検査
②CARS・PARS-TR
③ABC-J・BPI-S
④感覚プロフィール

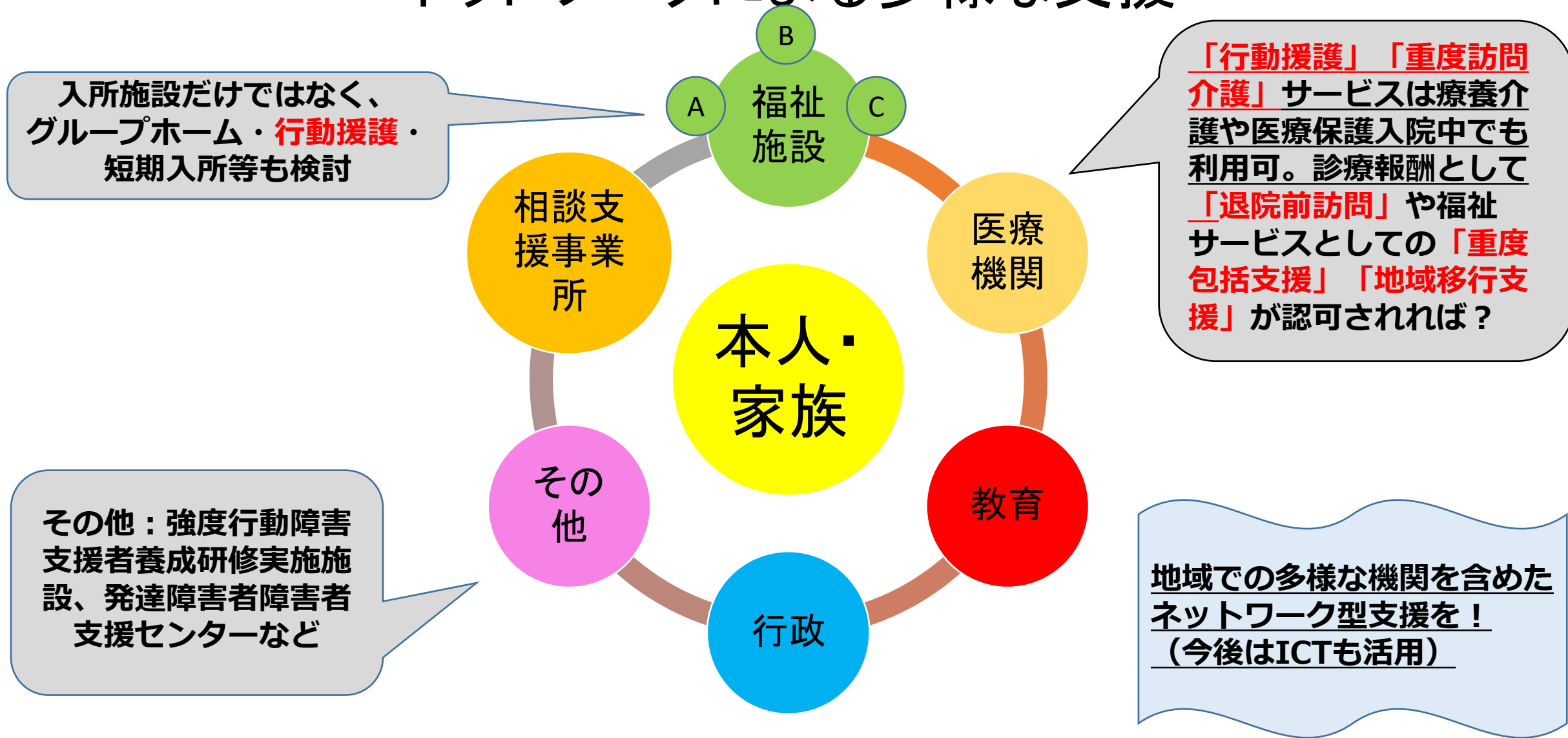
・ CARS:小児自閉症評定尺度 ・ PARS-TR:親面接式自閉スペクトラム症評定尺度
・ ABC-J:異常行動チェックリスト日本語版 ・ BPI-S:問題行動評価尺度短縮版

強度行動障害チーム医療研修（参考資料）

- ◆ 自閉スペクトラム症の特性に配慮し、専門医療・支援としては**行動療法（応用行動分析）・構造化（TEACCH®自閉症プログラムを参考に）**の概念を取り入れたもの
- ◆ 国立病院機構版～「強度行動障害チーム医療研修」（重症心身障害病棟対象：2015年度～）
- ◆ 肥前精神医療センター版～「強度行動障害を伴う発達障害医療研修」（医療機関対象：2016年度～）：東京にて
- ◆ 多職種による講義、グループワーク、外部専門家による講演からなる
- ◆ 対象者は医師・看護師・児童指導員・心理療法士・OT・PT・ST・PSW・介護福祉士など
- ◆ 現在までに計824名が修了

2. 関係機関との連携

強度行動障害の望ましい支援 ～ネットワークによる多様な支援～



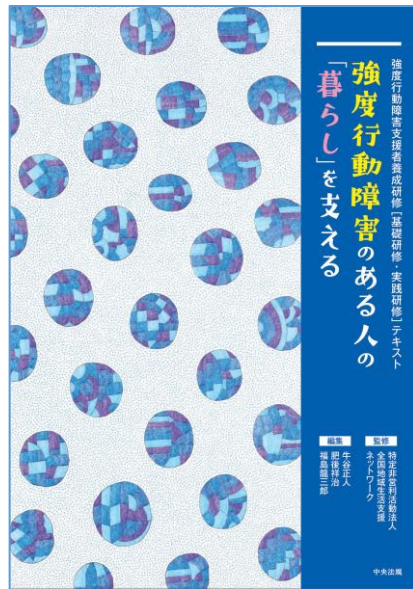
強度行動障害を伴う人の医療から地域への移行支援



* 行動療法(応用行動分析)・TEACCH®自閉症プログラムにおける構造化導入率(2018, 田淵)

福祉 → 医療へ： 限られた時間で コンパクトに情報交 換をする

参考：基本情報シート(医療機関連携用)



258P



21p

基本情報シート(医療機関連携用)										
氏名		性別	(男・女)	生年月日	年 月 日	年齢	()歳			
診断名	①	《 行動障害記載欄 》								
	②	自傷	あり・なし	器物破損	あり・なし	排泄関係	あり・なし	パニック	あり・なし	
	③	他害	あり・なし	睡眠障害	あり・なし	騒がしさ	あり・なし	粗暴	あり・なし	
	④	こだわり	あり・なし	食事関係	あり・なし	多動	あり・なし	その他	あり・なし	
てんかん	自閉スペクトラム症	あり・なし								
	ありの場合	あり・なし								
		発作時の様子								
		発作の頻度	日・週・月・年に	()回	最終発作	年 月 日				
抗てんかん薬	あり()・なし									
知的能力障害	あり・なし									
	ありの場合	IQまたはDQ		検査年月日						
		検査方法	WAIS-III・WISC-IV・田中ビネーV・遠城寺式発達検査・新版K式発達検査・その他()							
家族歴	(誰に)	何の疾患が		()						
既往歴 (身体疾患)	①	④	何の疾患が		()					
	②	⑤	感染症	B型肝炎	あり・なし					
	③	⑥		C型肝炎	あり・なし					
			その他	あり()・なし						
発達歴										
最近の病歴										
入院歴	①期間	(/ / ~ / /)	・病院名()							
	②期間	(/ / ~ / /)	・病院名()							
	③期間	(/ / ~ / /)	・病院名()							
福祉サービス	療育手帳	(A1・A2・B1・B2)(A・B)								
	身体障害者手帳	(1級・2級・級)								
	障害年金	(1級・2級・級)								
	障害支援区分	(非該当・1・2・3・4・5・6)								
						記載年月日	年 月 日	記載者		

参考：生活・コミュニケーション支援情報シート（医療機関連携用）

生活・コミュニケーション支援情報シート（医療機関連携用）

氏名		生年月日	年 月 日 () 歳
生活支援		《感覚特性・行動上の問題》	《能力・支援の方法》
	運動	あり()・なし	走れる・歩ける・歩行障害・車椅子・補装具
	食事	感覚過敏：あり(熱さ・冷たさ・味・匂い・食感)・なし	常食・一口大・刻み・ミキサー・トロミ
		偏食：あり()・なし	スキル：全介助・半介助・見守り・自立
		異食：あり()・なし	必要な環境()
		詰め込み：あり()・なし	必要な物品()
		食器投げ：あり(器⇒ テーブル⇒)・なし	必要な補食()
		その他：あり()・なし	カード・手順書：あり・なし／強化子：あり・なし
	⇒工夫点：		アレルギー：あり()・なし
	排泄	あり()・なし	最終便(月 日)/最終尿(月 日 時)
			スキル：全介助・半介助・見守り・自立
			時間誘導の間隔()
		⇒工夫点：	おむつ：要(サイズ)・不要
			カード・手順書：あり・なし
			強化子：あり・なし
入浴	感覚過敏：あり(熱さ・冷たさ・お湯全身・顔面)・なし	入浴頻度：週・日()回・()分	
	水飲み：あり()・なし	スキル：全介助・半介助・見守り・自立	
	走り出し：あり()・なし	カード・手順書：あり・なし	
	その他：あり()・なし	強化子：あり・なし	
	⇒工夫点：		
更衣	感覚過敏：あり(素材・タグ・ゴム・暑さ・寒さ)・なし	スキル：全介助・半介助・見守り・自立	
	破衣：あり()・なし	カード・手順書：あり・なし	
	その他：あり()・なし	強化子：あり・なし	
	⇒工夫点：		
薬	感覚過敏：あり(味・匂い・触感)・なし	回数(朝・昼・夕・眠前)・食事(前・後)	
	拒薬：あり()・なし	飲み方／塗り方：	
	⇒工夫点：	カード・手順書：あり・なし／強化子：あり・なし	
		アレルギー：あり()・なし	
睡眠	感覚過敏：あり(暑さ・寒さ・素材)・なし	ふだんの睡眠時間： 時～ 時	
	寝具破損：あり()・なし	ベッド・布団・その他()	
	その他：あり()・なし		
	⇒工夫点：		
居室	感覚過敏：あり(暑さ・寒さ・光・音・視覚・匂い・その他)	ふだんの居室環境：個室・()人部屋	
	器物破損：あり()・なし	写真情報：あれば添付□	
	その他：あり()・なし	入れておく私物：	

生活・コミュニケーション支援情報シート（医療機関連携用）

居室	⇒工夫点：	個別スケジュール：あり・なし	
		コミュニケーションカード：あり・なし	
共通	他の感覚過敏()		
	こだわり() 異食() その他()		
コミュニケーション	受容	視覚的理解(具体物・写真・イラスト・マーク・ひらがな・漢字)	
		言語理解ほか(身の回りの物の名前・身体の名称・色・数・単語全般・会話・ジェスチャー)	
		TEACCH(個別スケジュール・視覚的構造化・物理的構造化・ワークシステム)：グッズ(有・無) その他	
	表出	言語ほか(身の回りの物の名前・身体の名称・色・数・単語全般・会話)	
		PECS(絵カードコミュニケーションシステム)：グッズ(有・無)	
		他のコミュニケーションカード(余暇物品・食事関係・お菓子・排泄関係)	
		他の表出(クレーン現象・指さし・ジェスチャー)	
	対人関係	快表現()：不快表現()	
		その他	
	情報	(孤立型・受動型・積極奇異型)	
好きな相手()・苦手な相手()			
好きなこと・もの・活動・遊び： ふだんの様子写真：あれば添付□・道具持参(あり・なし) 強化子(あり：)・なし)・強化方法(即時強化・トークン・ポイント)			
日中活動	タイムスケジュール 6:00 8:00 10:00 12:00 14:00 16:00 18:00 20:00 22:00 24:00		
	集団参加 大集団 可・不可・支援があれば可() 小集団 可・不可・支援があれば可()		
クライスプラン			
状態	(^^^*)いつもの様子	(>_<)注意サイン	(T_T)介入が必要
予防介入			

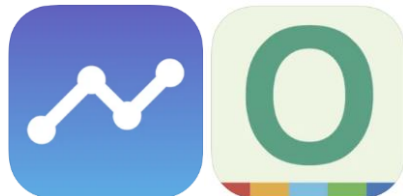
よりよい連携のために～医療機関が欲しい情報

- 特に薬物調整中の人では ～ 月単位の状態記録(支援者同士も情報の視覚化を)

日付 /時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	備考
1月1日										★	☆ リ		吐												帰省
1月2日												☆													帰省
1月3日										★	☆ リ		吐												帰省
1月4日																									
1月5日										★	☆ リ		吐											眠	夜間他者の奇声 あり
1月6日												☆												眠	寝具にこだわる
1月7日											☆														
…続く																									

吐:反すう嘔吐
 ☆:自傷
 ★:パニック
 リ:リスペリドン頓服
 眠:不眠時頓服
 睡眠時間

*** 日常的にその人を支援しているスタッフや家族の情報が役立ちます！**



行動測定のため、アプリケーションの活用も:
 鳥取大学 Observations (google playやApp storeで入手可能)

3. 事例を通して ～福祉と医療の連携、福祉と教育の 連携、家庭との連携～

重度訪問介護の訪問先の拡大(平成30年4月から)

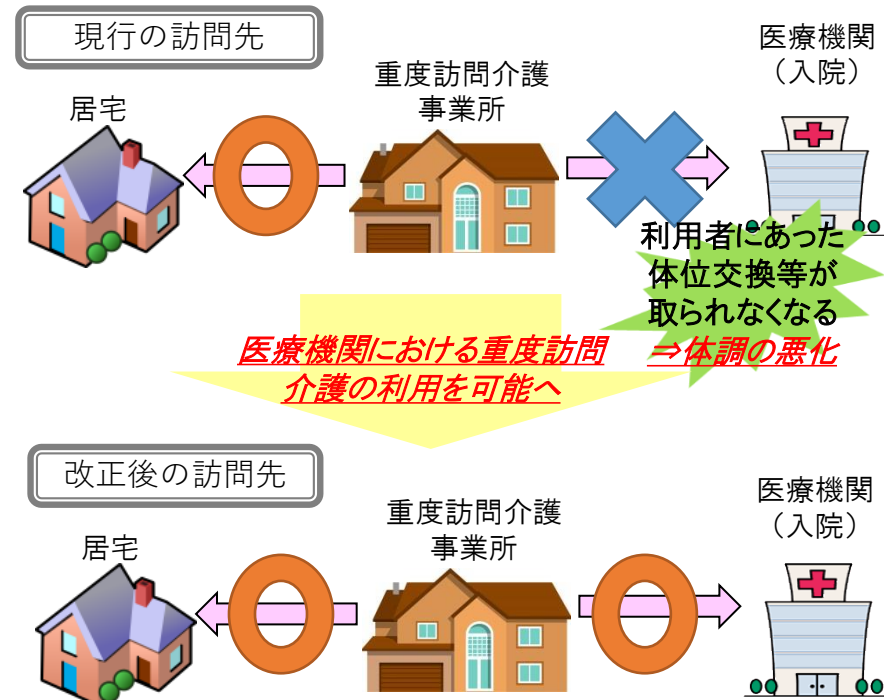
- 四肢の麻痺及び寝たきりの状態にある者等の最重度の障害者が医療機関に入院した時には、重度訪問介護の支援が受けられなくなることから以下のような事例があるとの指摘がある。
 - ・体位交換などについて特殊な介護が必要な者に適切な方法が取られにくくなることにより苦痛が生じてしまう
 - ・行動上著しい困難を有する者について、本人の障害特性に応じた支援が行われないことにより、強い不安や恐怖等による混乱(パニック)を起こし、自傷行為等に至ってしまう
- このため、最重度の障害者であって重度訪問介護を利用している者に対し、入院中の医療機関においても、利用者の状態などを熟知しているヘルパーを引き続き利用し、そのニーズを的確に医療従事者に伝達する等の支援を行うことができることとする。

訪問先拡大の対象者

- 日常的に重度訪問介護を利用している最重度の障害者であって、医療機関に入院した者
 - ※障害支援区分6の者
 - ※通院については現行制度の移動中の支援として、既に対応

訪問先での支援内容

- 利用者ごとに異なる特殊な介護方法(例:体位交換)について、医療従事者などに的確に伝達し、適切な対応につなげる。
- 強い不安や恐怖等による混乱(パニック)を防ぐための本人に合った環境や生活習慣を医療従事者に伝達し、病室等の環境調整や対応の改善につなげる。



教育機関との 連携

医療、教育、福祉の知識・方法・価値の「共存」を目指す
能力を発揮できる暮らし と 健康な暮らし
人の期待に応えられる暮らし と 自分の好きなことができる暮らし
各ライフステージに注目した支援 と 成人期を見越した支援

具体的方法

《文書の共有》

- ・個別の教育支援計画
- ・診断書など

《場面の共有》

- ・学校への専門家チーム(医師)巡回
- ・診療への陪席

《多職種チームの中での連携》

- ・自立支援協議会の個別ケース会議
- ・要保護児童対策地域協議会(要対協)での個別ケース会議
- ・医療機関・学校主催のケース会議

《研修の実施》

- ・教員向け研修への医師派遣
- ・医師に対する教員による研修?
- ・福祉向け研修への教員参加?

保護者からの意見

A. 予防と回復

1. **予防方法と悪化させない（強度化させない）方法を確立して欲しい（初期兆候での対処法）**
過去の経験から、そもそも強度行動障害児者にならないで済んだはず（予防）
学校や施設での生活が原因である場合でも、症状が出る家庭が原因とされる
睡眠障害が兆しだったという親が多い
2. **強度化してしまったあとの治療法や福祉の対応方法を確立して欲しい**
3. **回復後（軽減後）に再発させないための方法を確立して欲しい**

B. 発症原因別の対応方法を確立して欲しい（親たちのこれまでの経験からの分類）

1. **フラッシュバック型**・・・いちばん対処が難しい。
場（例：家庭、車中）には、きっかけはあっても場が原因ではない
原因である過去にタイムスリップするきっかけ（例：「あの道だ」）はどこにでもある
きっかけをゼロにはできない。強度の負の体験を元々しないで済むようにして欲しい
親は経験的に低覚醒の時に起こりやすいと考え、目と手を使う興味を持つ作業等に気を向けさせる
2. **脳内等に生じたなんらかの不快感や不安、怒りからの脱出のための代償行為？型**・・・表情が急変
肉えぐり、引っ掻きなどの自傷行為が、強い刺激での切替え？という積極的代償行為に思えるため
3. **癖定着型（誤学習型or感覚遊び）**・・・例：眼鏡を見ると払い落とさないと気が済まない
目突き、噛みつき、髪引きなど
4. **衝動型**・・・1～3に併存している？ 行為後に本人が「また、やってしまった」と落ち込む
防護具を本人が求める

4. 参考：強度行動障害と支援の基本

強度行動障害とは

- 自傷や異食、危険につながる飛び出しなど本人の健康を損ねる行動、他害、器物破損、大泣きが何時間も続くなど周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要となっている状態のこと(厚労省)
- 医学的診断としては**重度知的障害を伴う自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder:ASD)が多く**、8割程度(中島,2005)
- 自閉症の青年期パニック・トラウマの介在・チックと自傷の関連(杉山ら, 2008)
- 行動障害の内容により出現時期は異なるが、思春期頃から強度行動障害の状態になる人が多く、適切な支援や環境の提供がされないと長期に渡り継続する
- 強度行動障害に相当する人は知的障害者の1%程度と推測される。**概ね、全国で8,000人**が当初の定義に合致する(信原,2011)
- ただし、福祉サービスにおける障害支援区分による行動障害の基準では、**のべ5万人以上が行動障害に相当する**(厚労省,2019)
- 自閉症スペクトラム障害や「Challenging Behavior」に対する治療は、**心理社会的介入が第一選択**(NICE guideline 2013,2015)

強度行動障害処遇/サービスの現状

全知的障害児・者のうち強度行動障害は2%

(いくつかの全県調査から～中核群は約20,000人と推計)

福祉領域

2013年～「強度行動障害支援者養成研修」

処遇困難/入院

医療領域

2015年～一部で「強度行動障害医療研修」

2020年「強度行動障害医療研究会」

退院/地域移行

在宅ほか

生活介護(8000人)
行動援護(11000人)
放課後等デイサービス
(2000人)
重度訪問介護(900人)

障害児入所
施設入所支援
(19000人)

共同生活援助
(3000人)

精神科病院
(少なくとも1000
人)

国立病院機構
専門病棟
(760床+α)

児童思春期病棟
民間重症心身障
害施設など

“のべ”50000人以上
潜在的な要支援者は？

関係機関
連携の問題

入院/行動制限の長期化の問題

専門医の不足

【 強度行動障害入院医療管理加算 】

- I、強度行動障害スコア
(前記参照)
- II、医療度判定スコア
- 1、行動障害に対する専門医療の実施の有無
- ① 向精神薬等による治療 (5点)
 - ② 行動療法、動作法、TEACCHなどの技法を取り入れた薬物療法以外の専門医療 (5点)
- 2、神経・精神疾患の合併状態
- ① 著しい視聴覚障害(全盲などがあり、かつ何らかの手段で移動する能力をもつ) (5点)
 - ② てんかん発作が週1回以上、または6ヶ月以内のてんかん重積発作の既往 (5点)
 - ③ 自閉症等によりこだわりが著しく対応困難 (5点)
 - ④ その他の精神疾患や不眠に対し向精神薬等による治療が必要 (5点)
- 3、身体疾患の合併状態
- ① 自傷・他害による外傷、多動・てんかん発作での転倒による外傷の治療(6ヶ月以内に) (3点)
 - ② 慢性擦過傷・皮疹などによる外用剤・軟膏処置(6ヶ月以内に1ヶ月以上継続) (3点)
 - ③ 便秘のため週2回以上の浣腸、または座薬(下剤は定期内服していること) (3点)
 - ④ 呼吸器感染のための検査・処置・治療(6ヶ月以内にあれば) (3点)
 - ⑤ その他の身体疾患での検査・治療(定期薬内服による副作用チェックのための検査以外、6ヶ月以内にあれば) (3点)
- 4、自傷・他害・事故による外傷等のリスクを有する行動障害への対応
- ① 行動障害のため常に1対1の対応が必要 (3点)
 - ② 行動障害のため個室対応等が必要(1対1の対応でも開放処遇困難) (5点)
 - ③ 行動障害のため個室対応でも処遇困難(自傷、多動による転倒・外傷の危険) (10点)
- *) いずれか一つを選択
- 5、患者自身の死亡に繋がるリスクを有する行動障害への対応
- ① 食事(異食、他害につながるような盗食、詰め込みによる窒息の危険など) (3.5点)
 - ② 排泄(排泄訓練が必要、糞食やトイレの水飲み、多動による転倒・外傷の危険) (3.5点)
 - ③ 移動(多動のためどこへ行くか分からない、多動による転倒・外傷の危険) (3.5点)
 - ④ 入浴(多動による転倒・外傷・溺水の危険、多飲による水中毒の危険) (3.5点)
 - ⑤ 更衣(破衣・脱衣のための窒息の危険、異食の危険) (3.5点)
- *) 次により配点
- ・ 常時1対1で医療的観察が必要な場合及び入院期間中の生命の危機回避のため個室対応や個別の時間での対応を行っている場合 (5点)
 - ・ 時に1対1で医療的観察が必要な場合 (3点)
- 「I」が10点以上、かつ「II」が24点以上で加算対象となる

国立病院機構
でも開始当時
は10%の症例
でしか行われて
いなかった
~その後の調
査で少なくとも
40%に!!

強度行動障害入院医療管理加算
(2010~)

- I 強度行動障害スコア
10点以上
- II 医療度判定スコア
24点以上
(医療必要度で判定)

(施設基準は障害者施設等入院基本料を算定する病棟と、児童・思春期精神科入院医療管理加算を算定する病棟)

医療で使用される唯一の指標

支援の原則は『SPELL』

* イギリス自閉症協会の基本理念 *

S	Structure 構造化	何をどうする、終わりの明示など、具体的な見通しを視覚支援でわかりやすく提供する一貫性のある環境
P	Positive 肯定的な関わり	肯定的な表現、肯定的な枠組み(罰を与えるのではなく褒める流れに)、成功体験を積み自尊心向上
E	Empathy 共感	自閉症特性を持つその人が何をどのように体験し、どのような心理状態にあるのか理解しようとする姿勢
L	Low arousal 低興奮・低刺激	興奮やストレスを不用意に招かないようにする環境整備、関わり方の工夫(不快さを低減し安心を増やす)
L	Links 連携	家庭や地域、教育、医療、福祉など、その人や家族を孤立、混乱させないチーム作り

感覚処理特性に応じた支援

アセスメント

感覚プロフィール（質問紙検査）

感覚過敏・感覚回避が顕著

低登録が顕著

感覚探求が顕著

行動・反応の例

- 赤ちゃんの泣き声を聴くと耳ふさぎをする
- 他の人の奇声が聞こえると自傷をする
- 他の人から触られるとかんしゃくを起こす
- すぐに服を脱ぐ

- 呼ばれても振り向かない
- 怪我をしても平気
- 虫歯になっても痛そうにしない
- 暑いのに気づかない

- 頭を床に打ち付ける
- 常に動き回る
- 水・泥・砂利遊びをやめない
- 人や物の臭いを嗅ぐことが多い

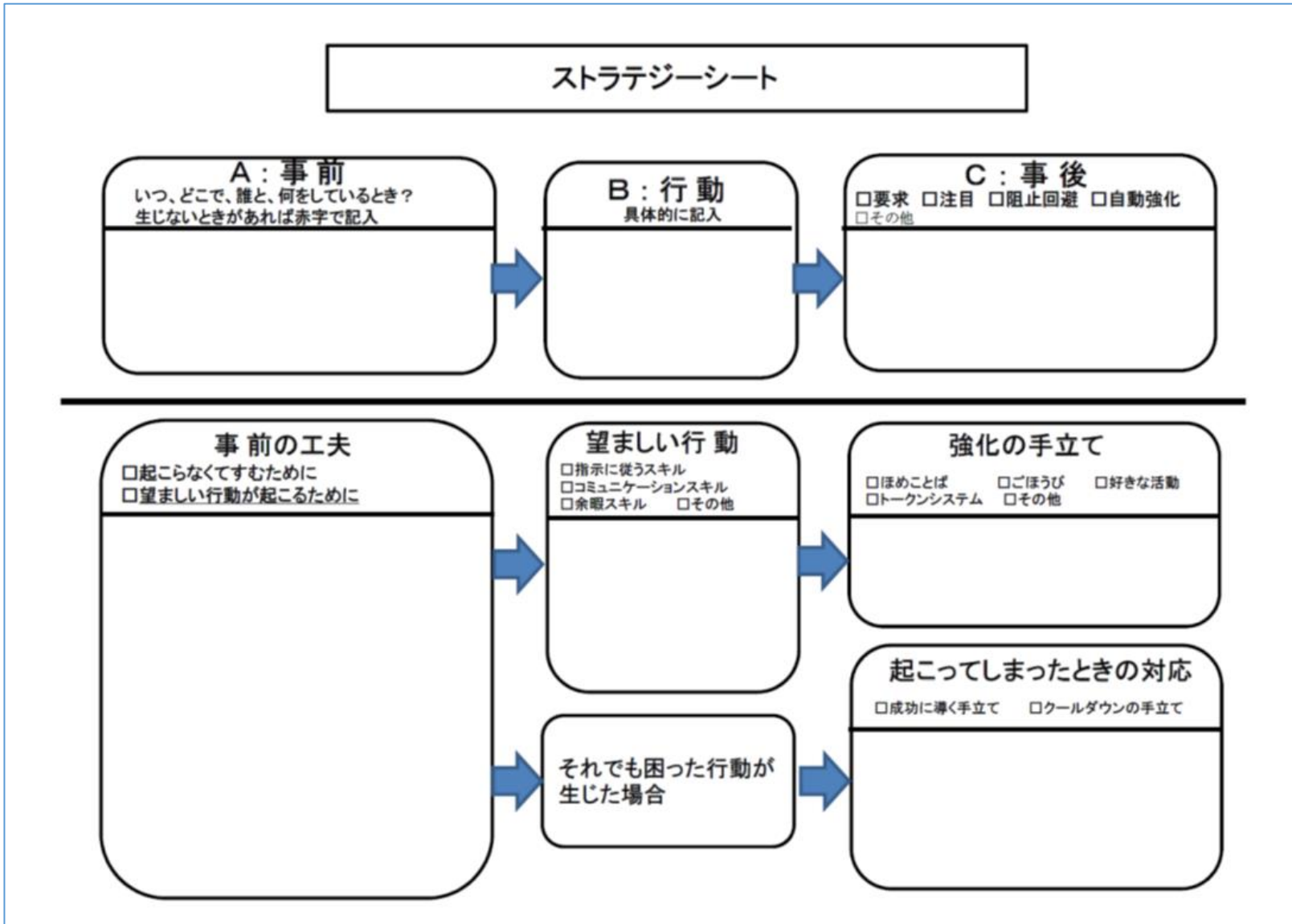
対応・支援の例

- 不快な刺激を遠ざける
- 他の人との距離をとる
- 刺激が少ない場所で活動できるようにする
- イヤーマフなどの防衛グッズを使ってもらう
- 服の素材に配慮する

- 対象者の注意を引き付けてから話しかける
- 話しかけに反応しない人に視覚情報提示
- 怪我や病気に注意する
- 熱射病にならないように服装などのアドバイス

- 動く機会を増やす
- トランポリンを用意する
- 触覚グッズを使ってもらう
- 圧迫刺激を用いる
- 好きな刺激が入る別の行動に置き換える

応用行動分析に基づく行動の機能分析と対応



コミュニケーションの機能

注目

回避や逃避

物や活動要求

～同じ機能を持つ適切なコミュニケーション行動を教える

自動強化の機能

行動自体が生み出す

感覚刺激が

その行動を強めている

～他に楽しめる

余暇活動などを広げる

PECS (絵カード交換式コミュニケーション・システム)

- ◆1985年に米国のA.ボンディとL.フロストが共同開発した絵カードや文字カードを用いる拡大代替コミュニケーションのツール
- ◆従来指導困難であった自発的表出コミュニケーションを、初日から教えることができる
- ◆指導法は、応用行動分析理論に基づいて、合理的かつ効果的にマニュアル化されている
- ◆対象は、自閉スペクトラム症をはじめとするコミュニケーション障害の幼児から高齢者にまで及ぶ
- ◆特にコミュニケーション障害による強度行動障害の人には、最適な支援手段である
- ◆iPadで使えるアプリ”PECS IV+”も開発されている
- ◆詳しくは、”ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン”のホームページ参照のこと



<https://pecs-japan.com/>

ポイント
～強度行動障害
の支援で大事な
こと

自閉症特性をふまえた受容・表出両方のコミュニケーション支援・感覚特異性への配慮

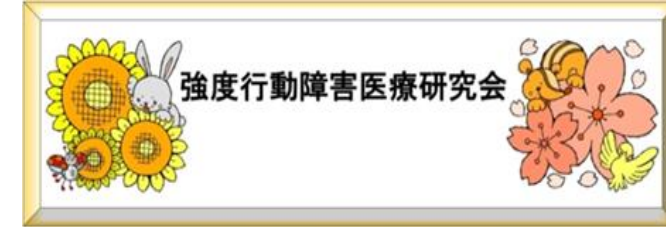
余暇活動の充足

医療や他機関との連携（ICTも上手に利用して）

長期的予後を見越した薬物療法の適正化

共通の支援手法を持った多様性のあるネットワーク

地域における強度行動障害支援の充実を目指して ～関係機関の連携と「強度行動障害医療研究会」



福祉

2013年～「強度行動障害支援者養成研修」開始

研修の広がり
と
コンサルテーション体制の充実

実際の事例でのフォローアップ
研修・地域での多機関連携

医療

各地域や分野での個々の動き

2019年～メーリングリスト
学会シンポジウムなど

2020年10月～
「強度行動障害医療研究会」

研修・治療プログラム・ガイドラインの整備・多機関連携

現在41都道府県の医師・福祉・心理・教育関係者などML約200名・会員140名

入院中でも可能な
・行動援護
・重度訪問介護
の利用促進は？

・診療報酬
・拠点医療機関や
センター配置は？

家庭
(保護者・親の会)

教育
学齢での予防
多機関連携

課題

参考書籍・情報

- 2013 強度行動障害リーフレット 強度行動障害がある人 あなたはどんな人をイメージしていますか？ 厚生労働省
- 2014 重症心身障害児・者 医療ハンドブック第二版 小川克彦著 児玉和夫監修 三学出版
- 2019 知的・発達障害における福祉と医療の連携 市川宏伸編著 金剛出版
- 2020 強度行動障害支援者養成研修テキスト 強度行動障害のある人の「暮らし」を支える
特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク監修 中央法規
- 2020 多職種チームで行う「強度行動障害のある人への医療的アプローチ」
肥前精神医療センター監修 會田千重編集 中央法規
- 2020 知的障害・自閉症のある人への 行動障害支援に役立つアイデア集
志賀利一監修 林大介著 中央法規
- 2022 チャレンジング行動 ー強度行動障害を深く理解するために
E・エマーソン, S・L・アインフェルド著 園山繁樹・野口幸弘 監修・翻訳 二瓶社
- 2022 対話から始める 脱!強度行動障害 日誌 正文・吉川 徹・樋端 佑樹 編集 日本評論社
- 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)(実践研修)プログラム <http://www.mhlw.go.jp>
- 入院中の行動援護利用について <http://www.kaigoseido.net/nuuinkaigo/280729qa.pdf>

演習

これからの時間は各グループで意見交換をします。

- ①福祉、医療、教育、家庭、専門機関と
連携**した**ケース
- ②福祉、医療、教育、家庭、専門機関と
連携**したい**ケース

を、グループで共有してください。

まとめ